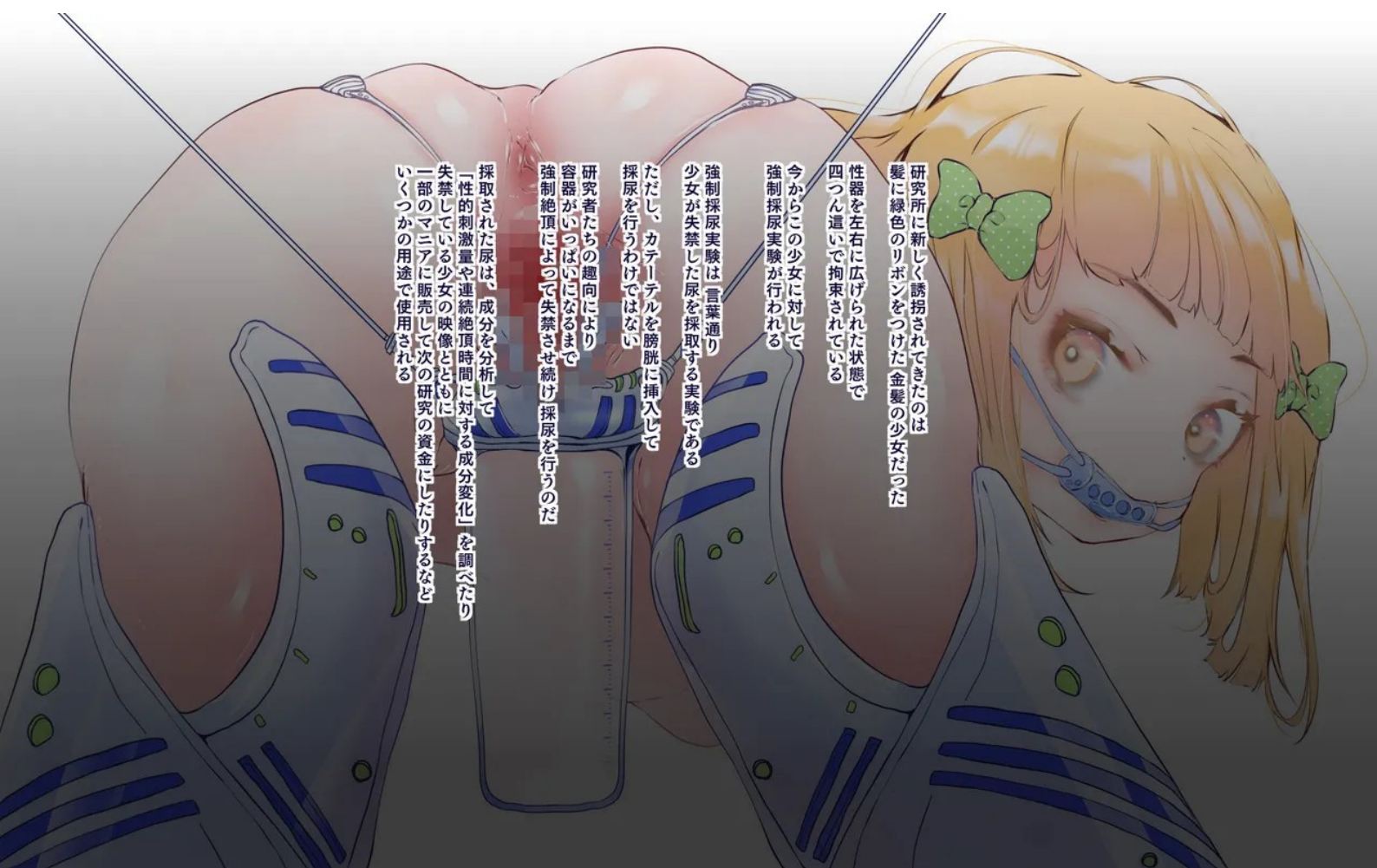


拘束器具責めGG集

少女誘拐実験13

強制採尿実験編

S y o u j i o Y u k e i J i k k e n
A K A R I K O U B O U



研究所に新しく誘拐されてきたのは
髪に緑色のリボンをつけた金髪の少女だった

性器を左右に広げられた状態で
四つん這いで拘束されている

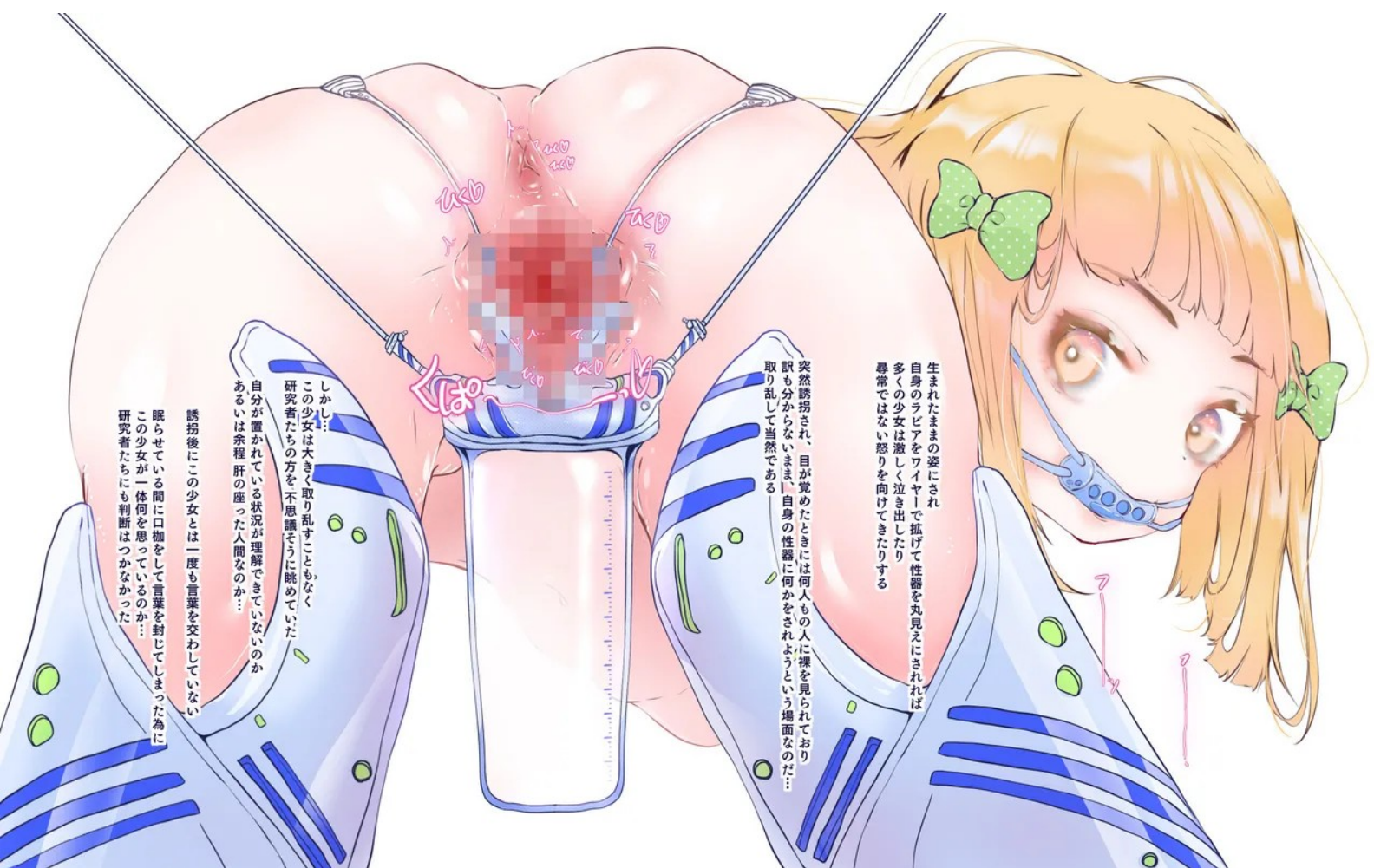
今からこの少女に対して
強制採尿実験が行われる

強制採尿実験は言葉通り
少女が失禁した尿を採取する実験である

ただし、カテーテルを膀胱に挿入して
採尿を行うわけではない

研究者たちの趣向により
容器がいつばいになるまで
強制絶頂によって失禁させ続け採尿を行うのだ

採取された尿は、成分を分析して
「性的刺激量や連続絶頂時間に対する成分変化」を調べたり
失禁している少女の映像とともに
一部のマニアに販売して次の研究の資金にしたりするなど
いくつかの用途で利用される

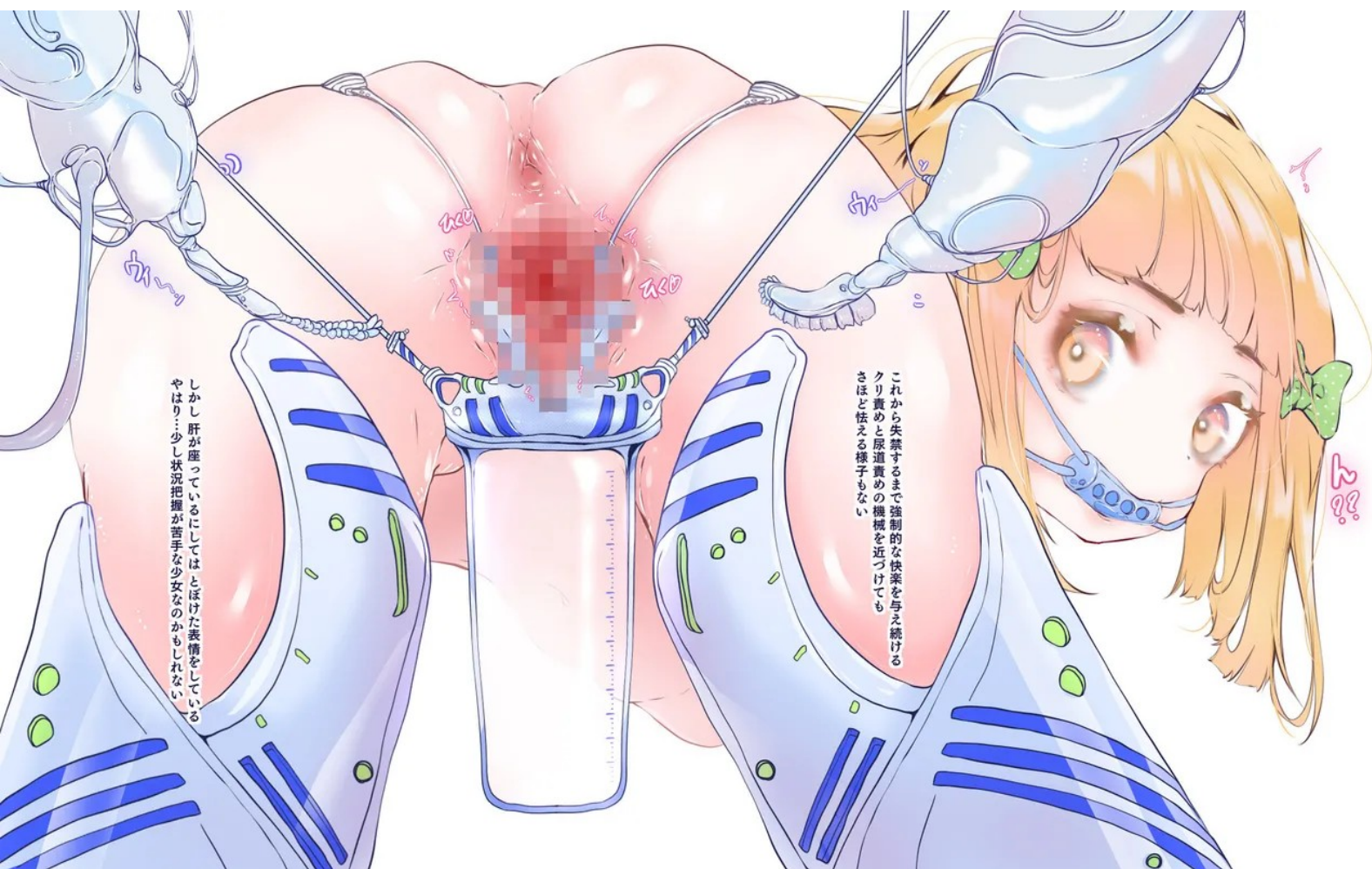


生まれたままの姿にされ
自身のラビアをワイヤーで抵げて性器を丸見えにされれば
多くの少女は激しく泣き出したり
尋常ではない怒りを向けてきたりする

突然誘拐され、目が覚めたときには何人もの人に裸を見られており
肌も分からないまま、自身の性器に何かをされようという場面なのだ…
取り乱して当然である

しかし、
この少女は大きく取り乱すこともなく
研究者たちの方を不思議そうに眺めていた
自分が置かれている状況が理解できていないのか
あるいは余程肝の座った人間なのか…

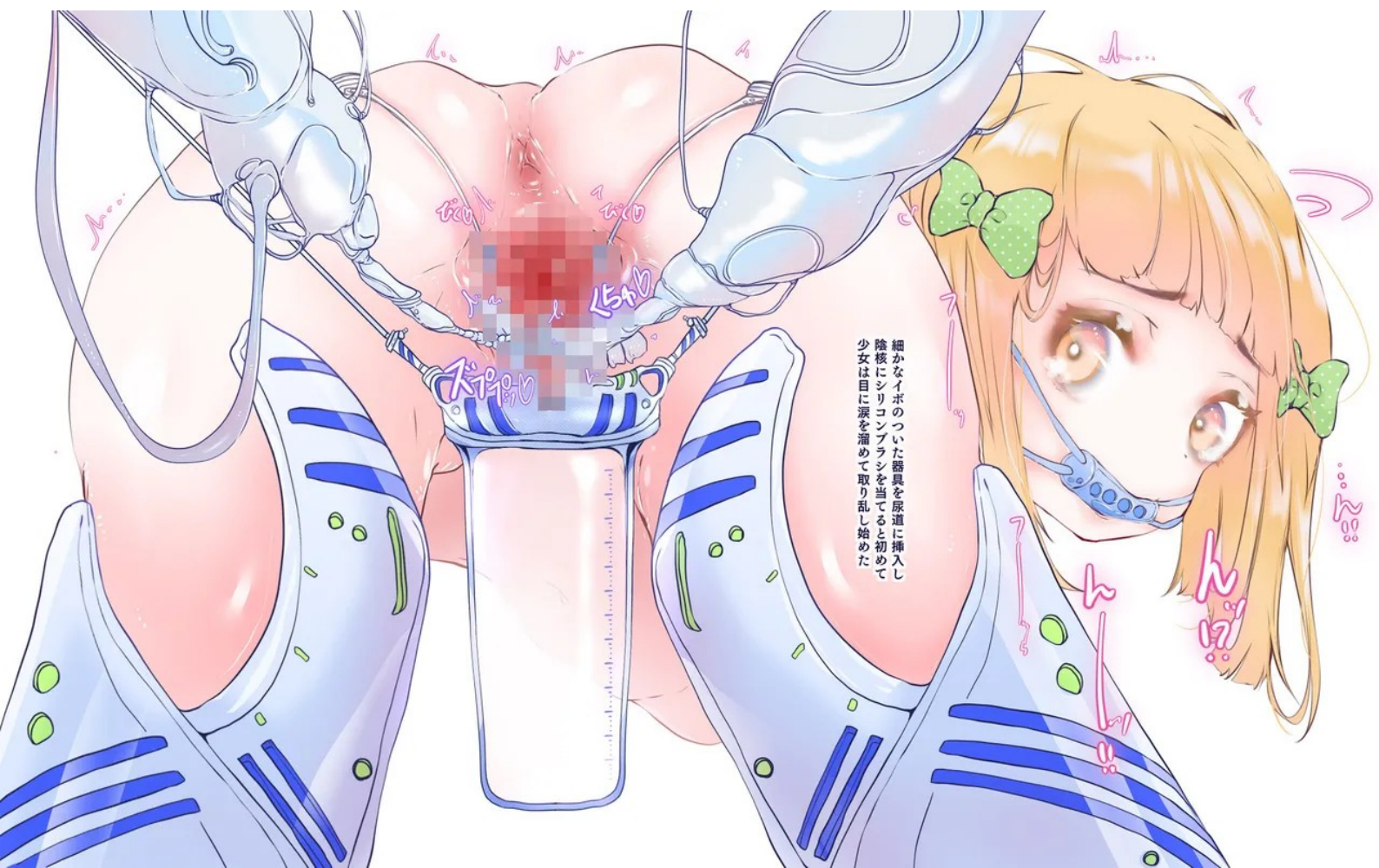
誘拐後にこの少女とは一度も言葉を交わしていない
眠らせている間に口枷をして言葉を封じてしまった為に
この少女が一体何を思っているのか…
研究者たちにも判断はつかなかった



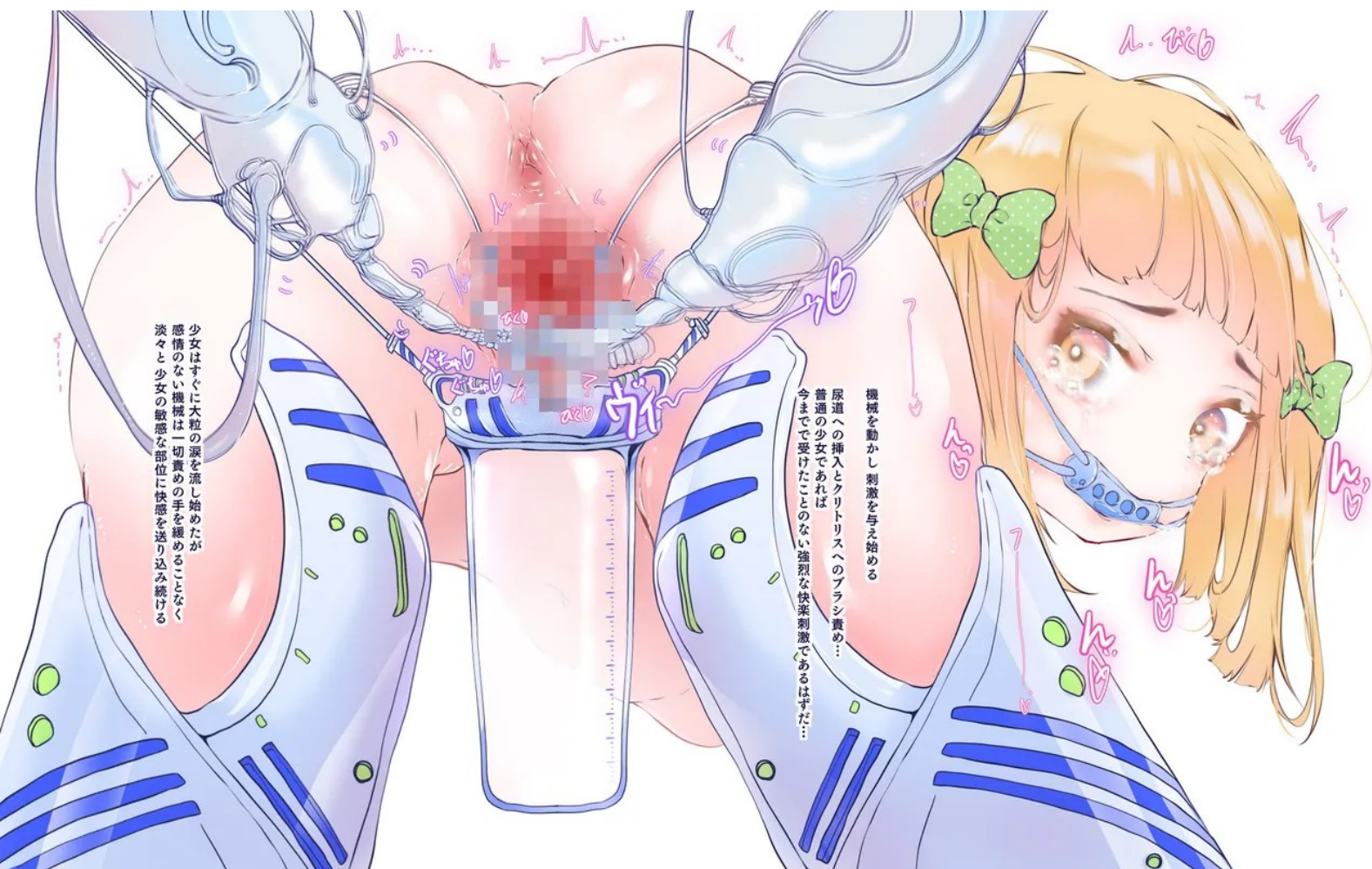
しかし肝が座っているにはとほけた表情をしている
やはり：少し状況把握が苦手な少女なのかもしれない

これから失禁するまで強制的な快感を与え続ける
クリ責めと尿道責めの機械を近づけても
さほど怯える様子もない

ん??

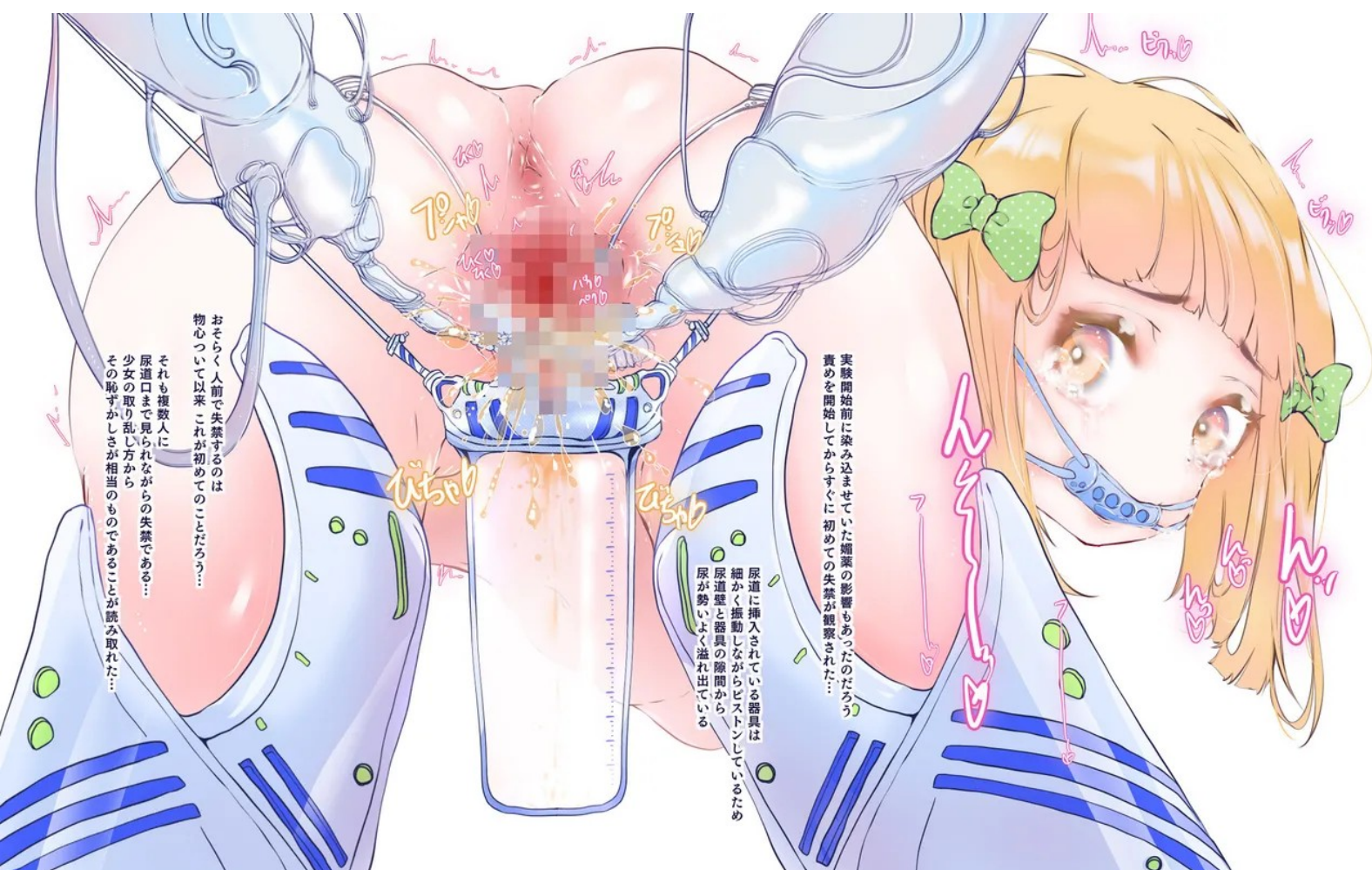


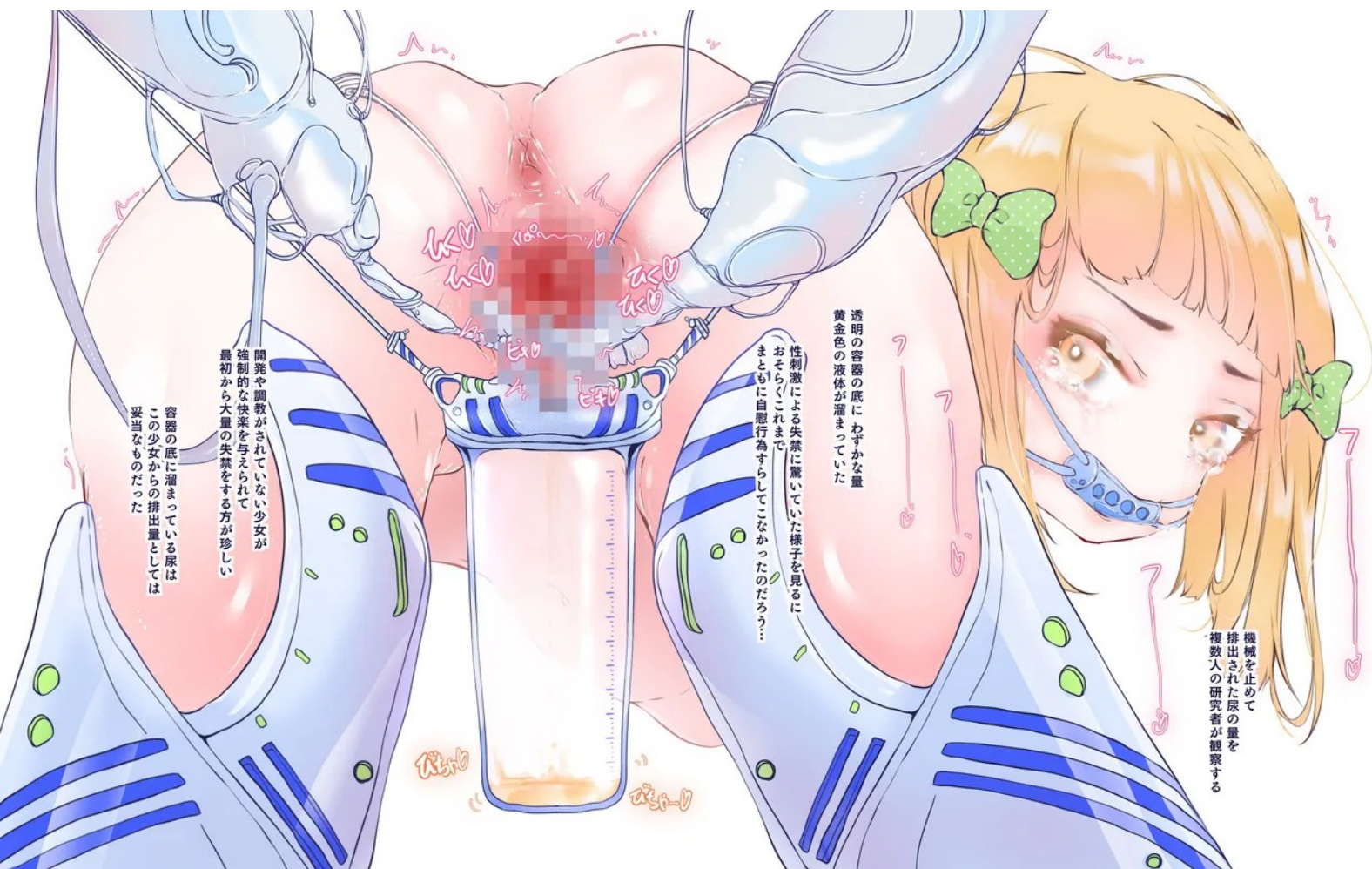
細かなイボのついた器具を尿道に挿入し
陰核にシリコンプラグを当てると初めて
少女は目に涙を溜めて取り乱し始めた

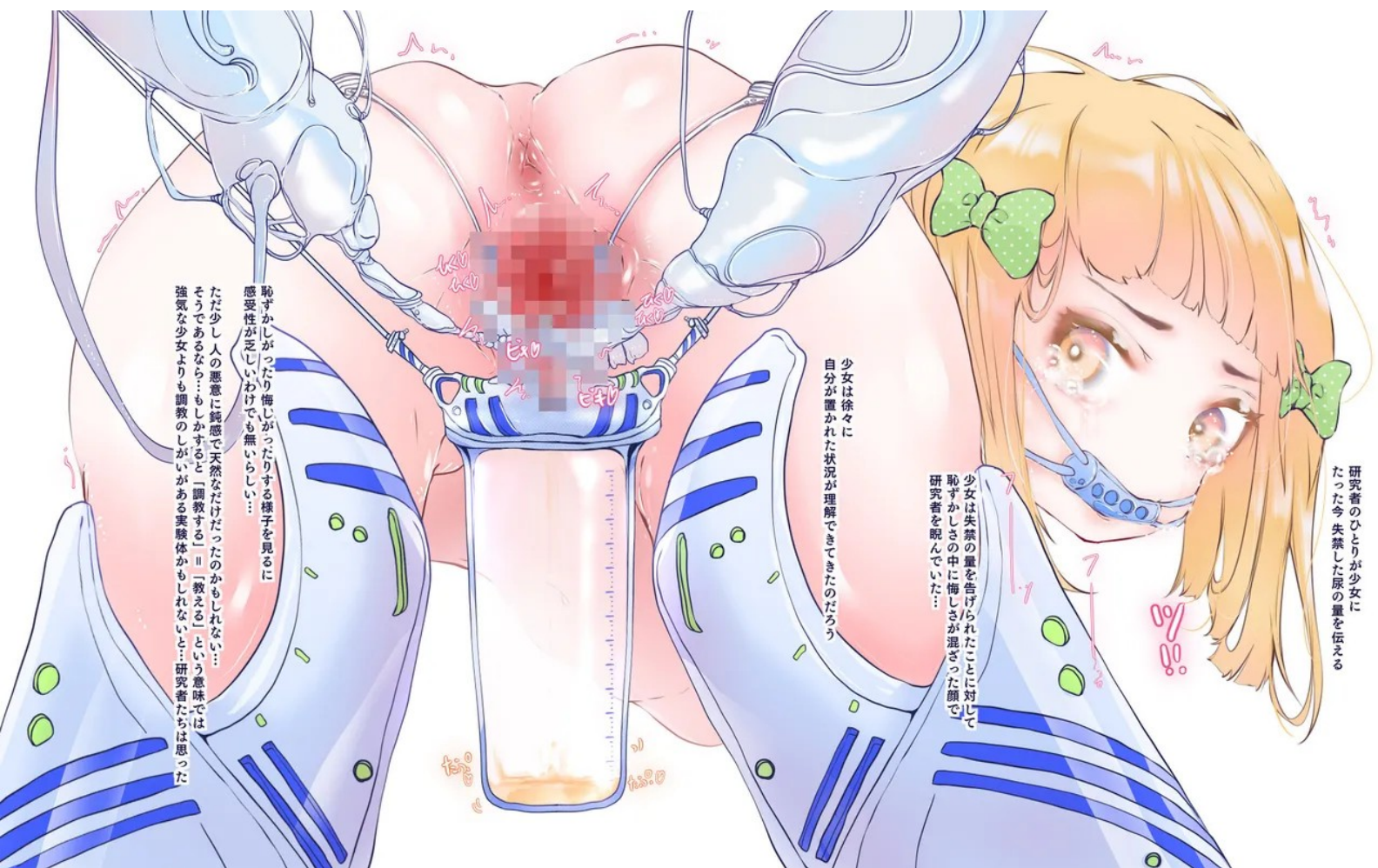


少女はすぐに大粒の涙を流し始めたが
感情のない機械は一切責めの手を緩めることなく
淡々と少女の敏感な部位に快感を送り込み続ける

機械を動かし刺激を与え始める
尿道への挿入とクリトリスへのブラシ責め…
普通の少女であれば
今までで受けたことのない強烈な快楽刺激であるはずだ…





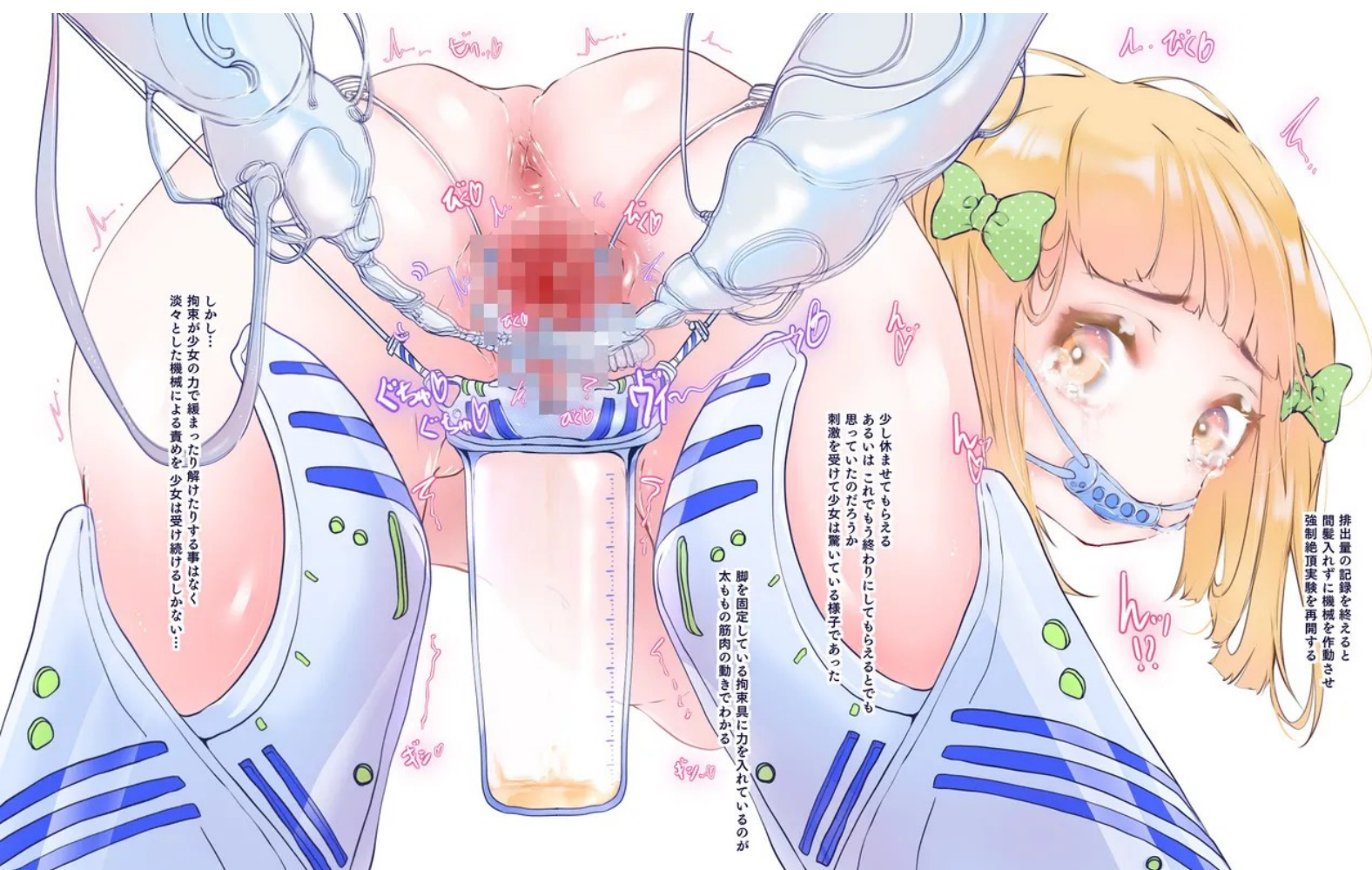


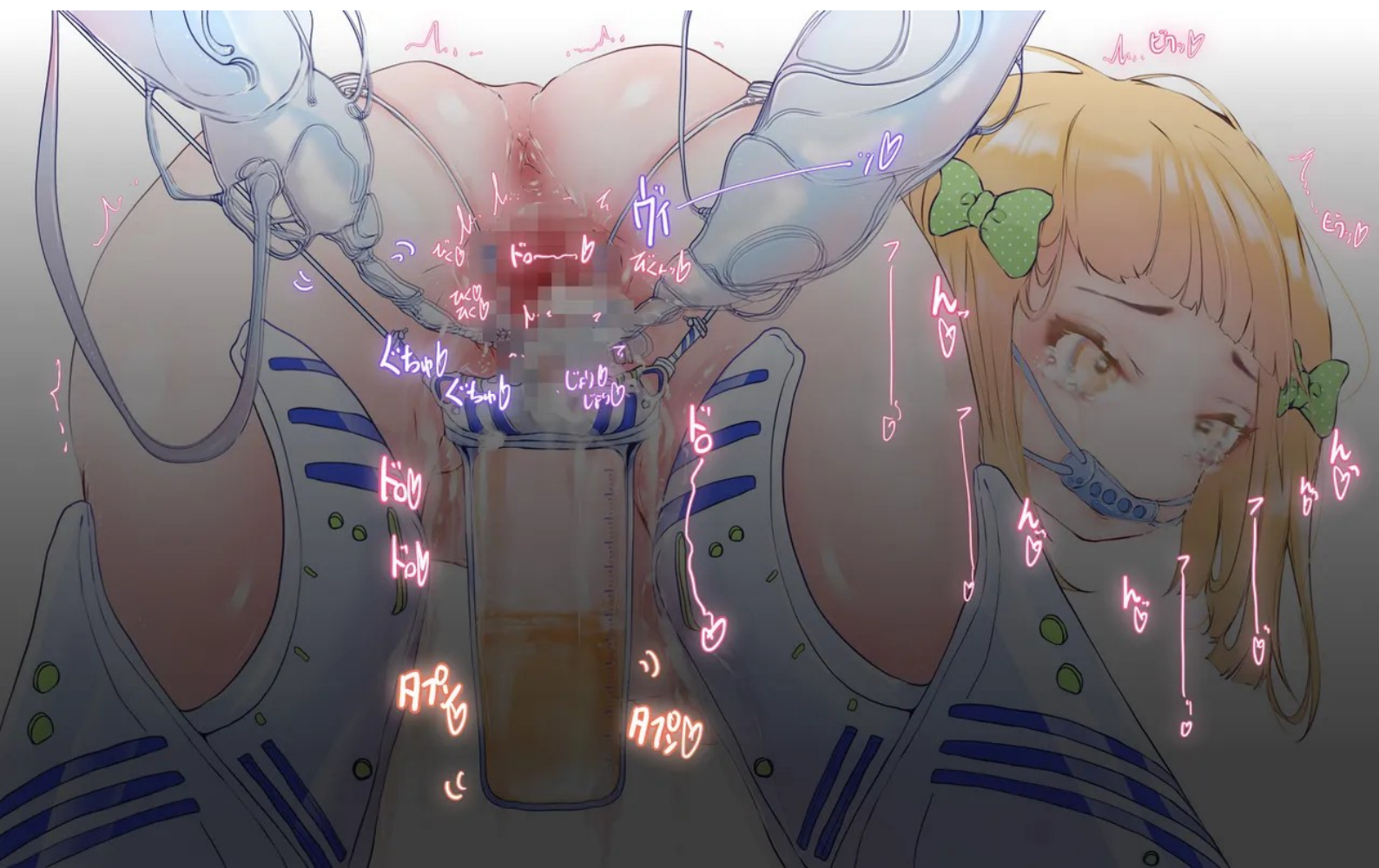
研究者のひとりが少女に
たった今失禁した尿の量を伝える

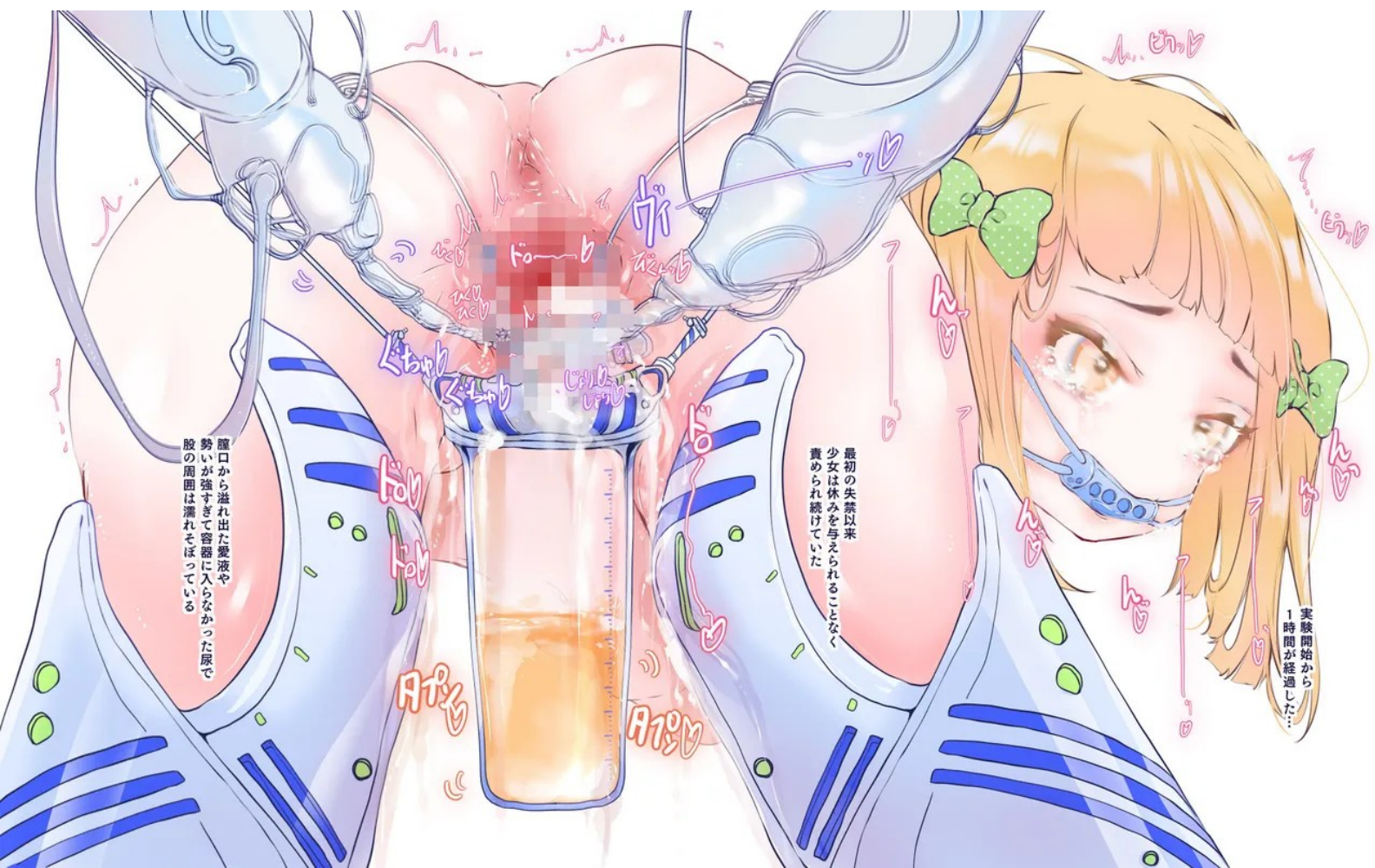
少女は失禁の量を告げられたことに対して
恥ずかしさの中に悔しさが混ざった顔で
研究者を睨んでいた！

少女は徐々に
自分が置かれた状況が理解できてきたのだろう

恥ずかしがったり悔しがったりする様子を見るに
感受性が乏しいわけでも無いらしい…
ただ少し人の悪意に鈍感で天然なだけだったのかもしれない…
そうであるなら…もしかすると「調教する」…という意味では
強気な少女よりも調教のしがいがある実験体かもしれないと…研究者たちは思った



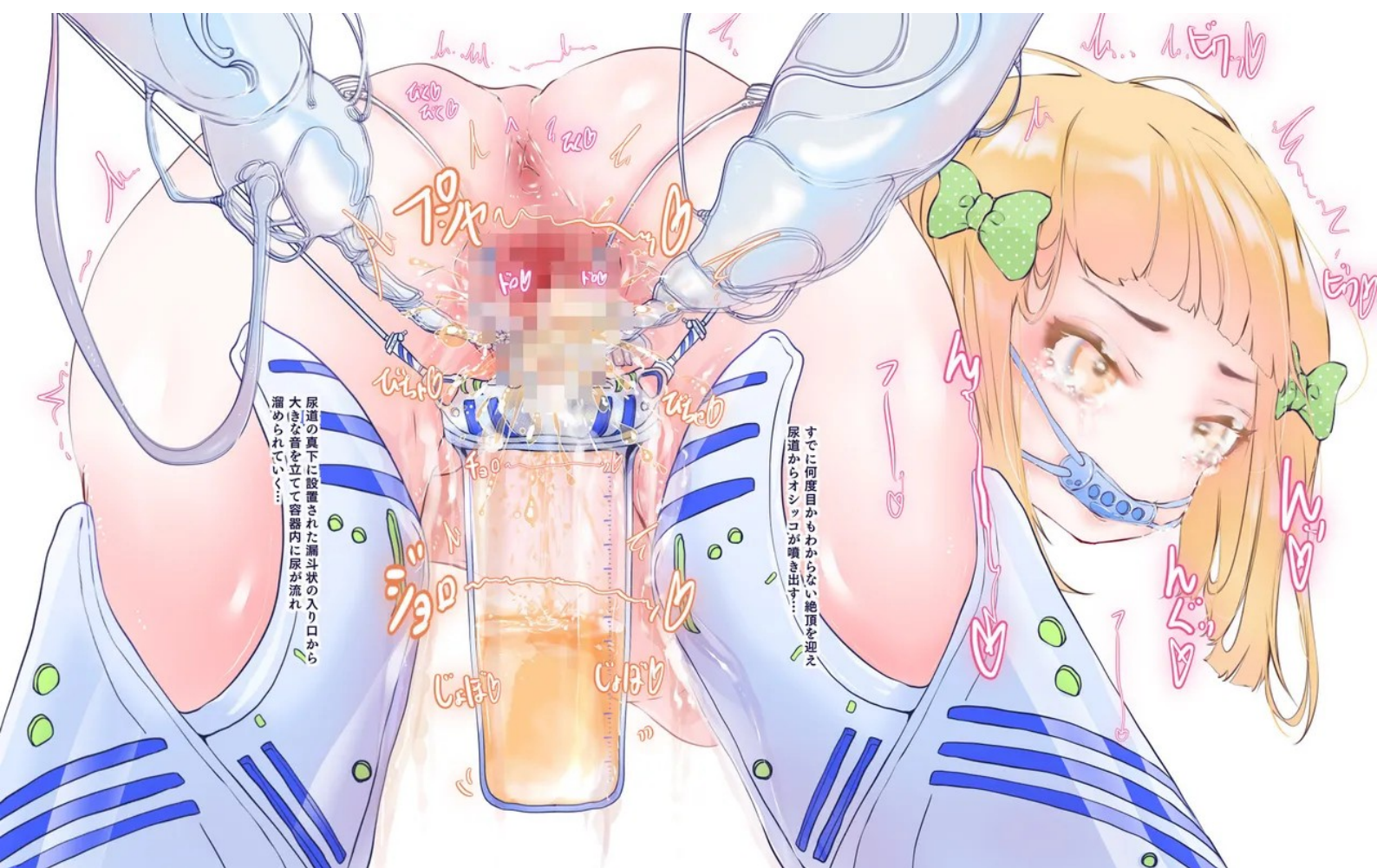


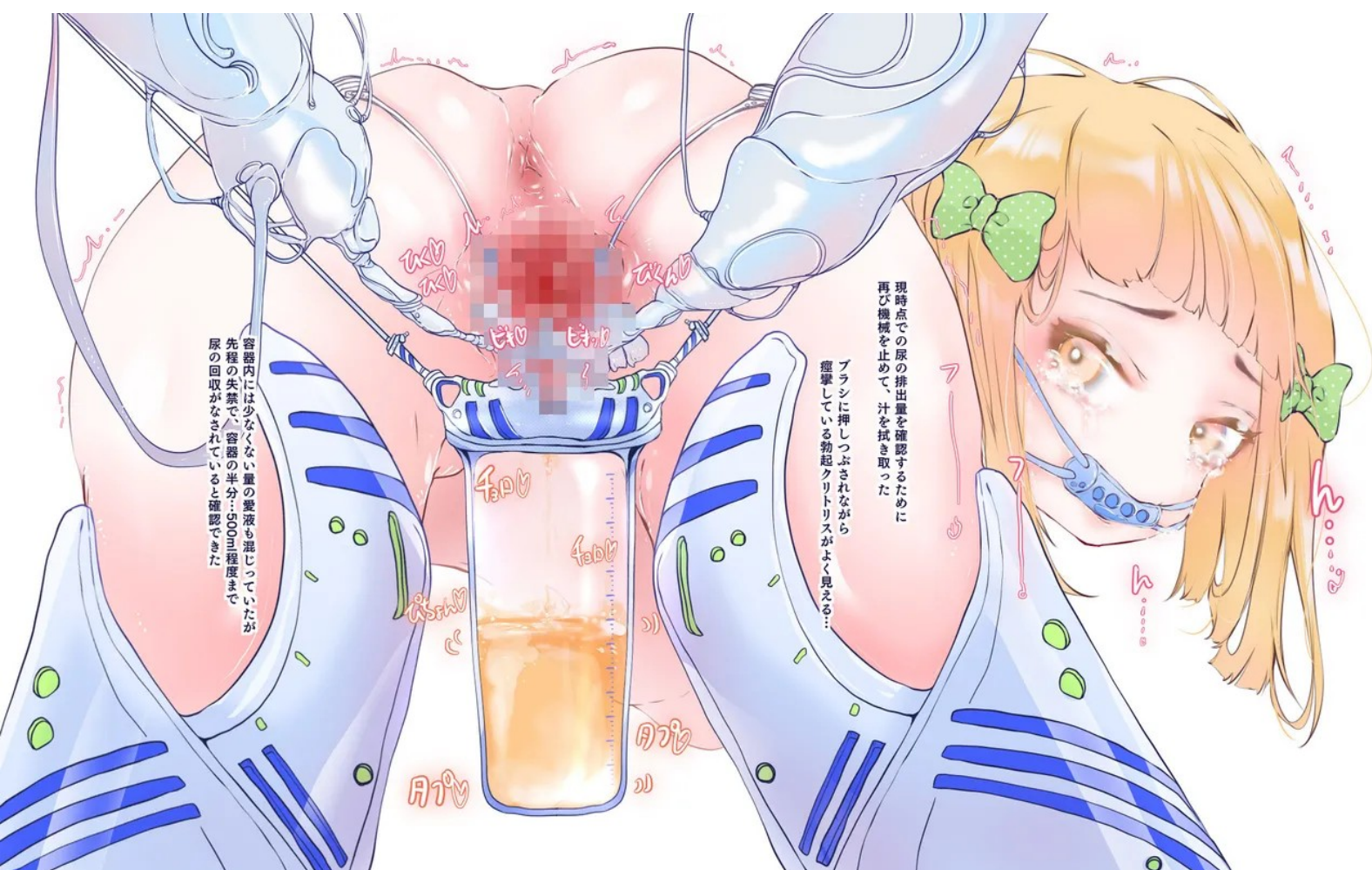


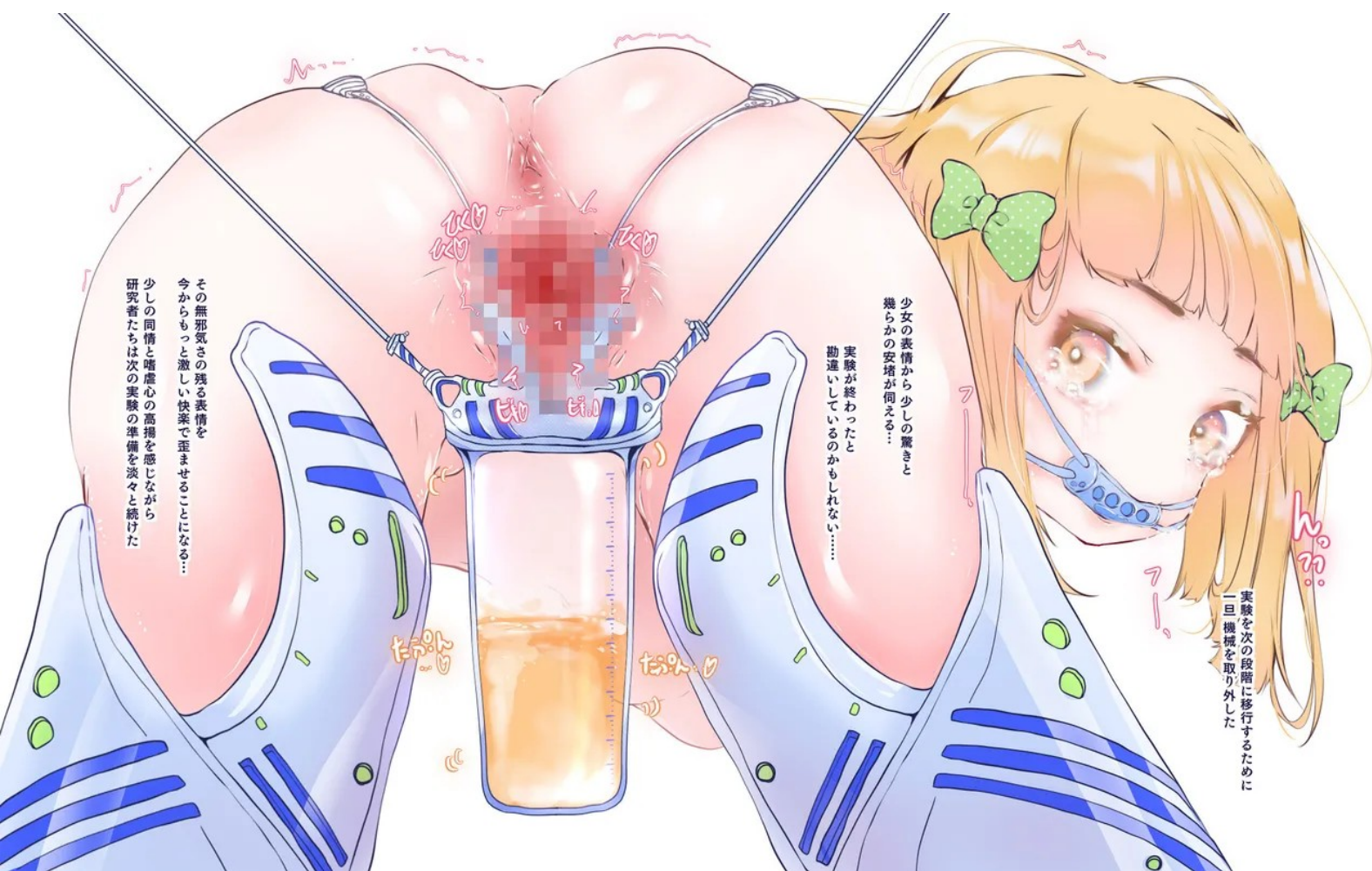
膣口から溢れ出た液体や
勢いが強すぎて容器に入らなかった尿で
股の周囲は濡れそぼっている

最初の失禁以来
少女は休みを与えられることなく
責められ続けていた

実験開始から
1時間が経過した...







少女の表情から少しの驚きと
幾らかの安堵が伺える…

実験が終わったと
勘違いしているのかもしれない……

その無邪気さの残る表情を
今からもっと激しい快楽で歪ませることになる…
少しの同情と嗜虐心の高揚を感じながら
研究者たちは次の実験の準備を淡々と続けた

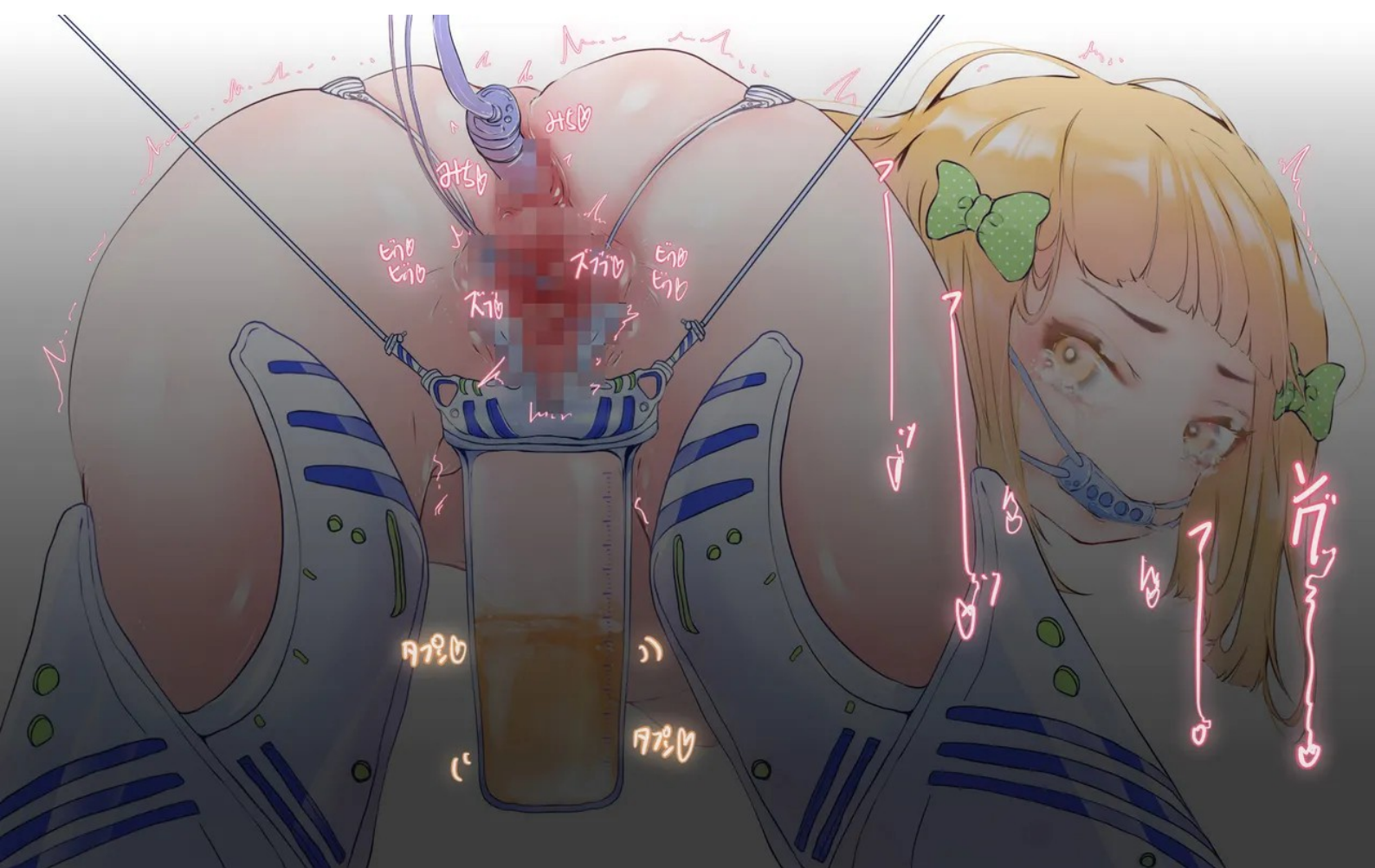
実験を次の段階に移行するために
一旦機械を取り外した

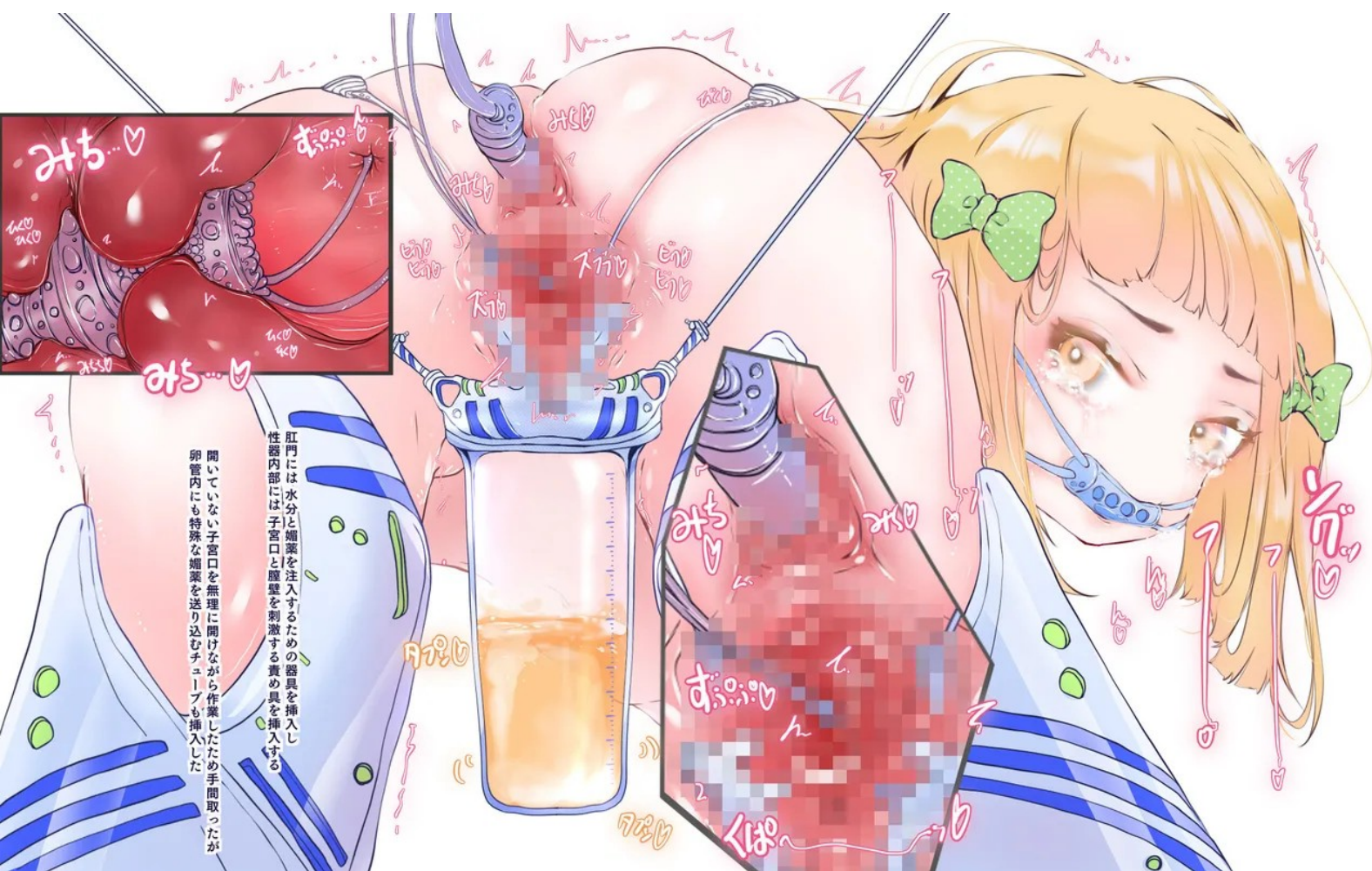
ん？

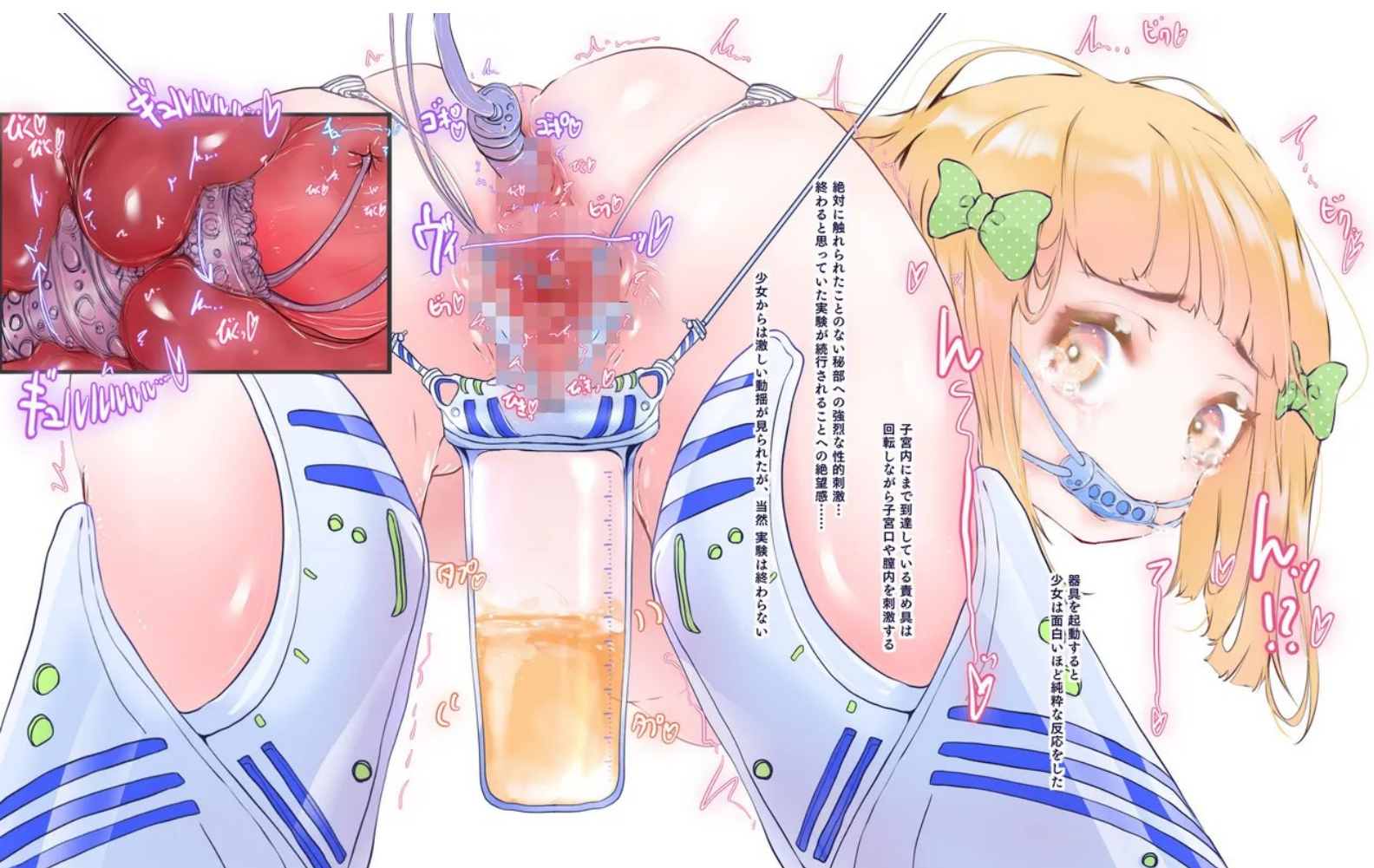
フー、

たふん

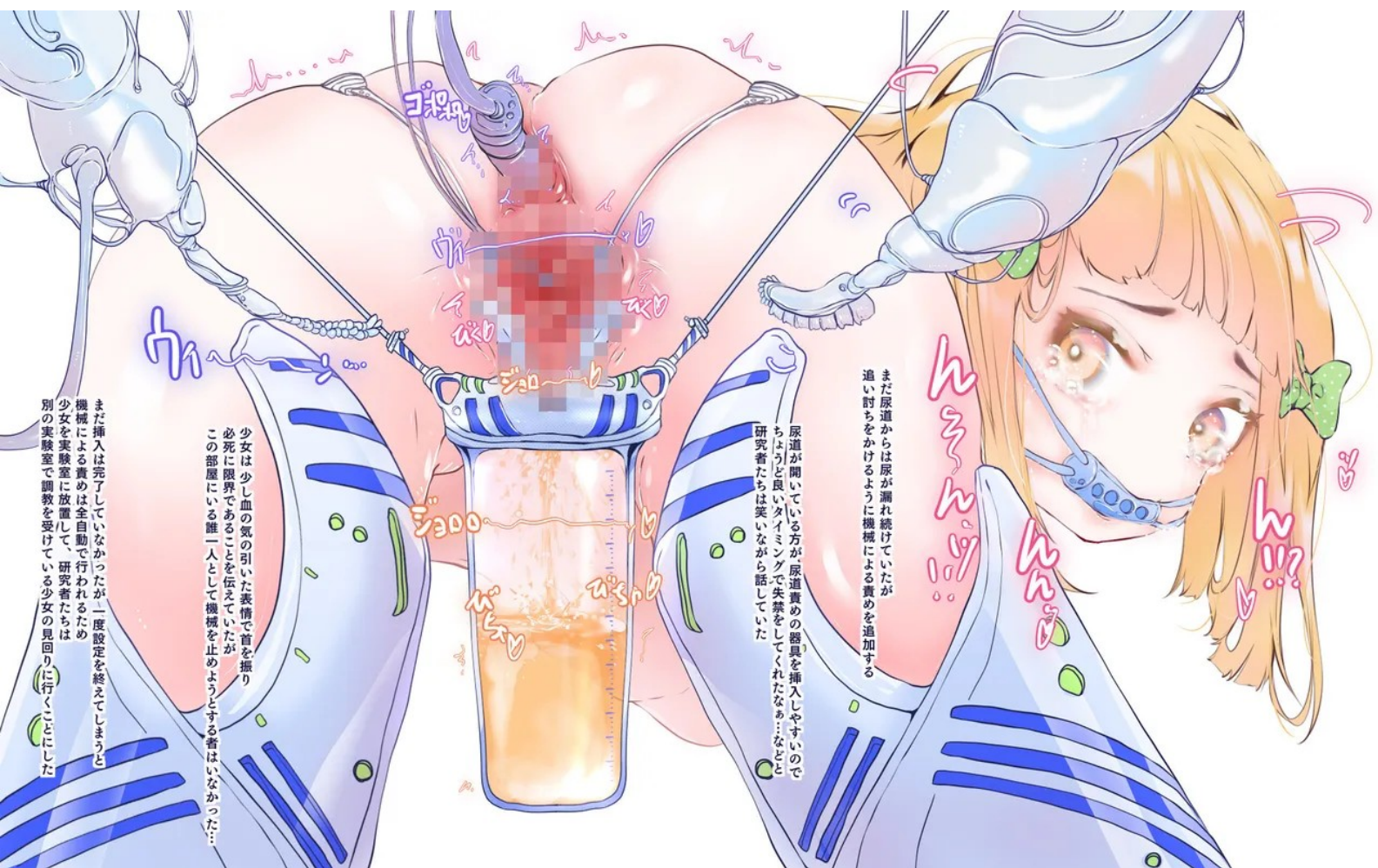
たふん

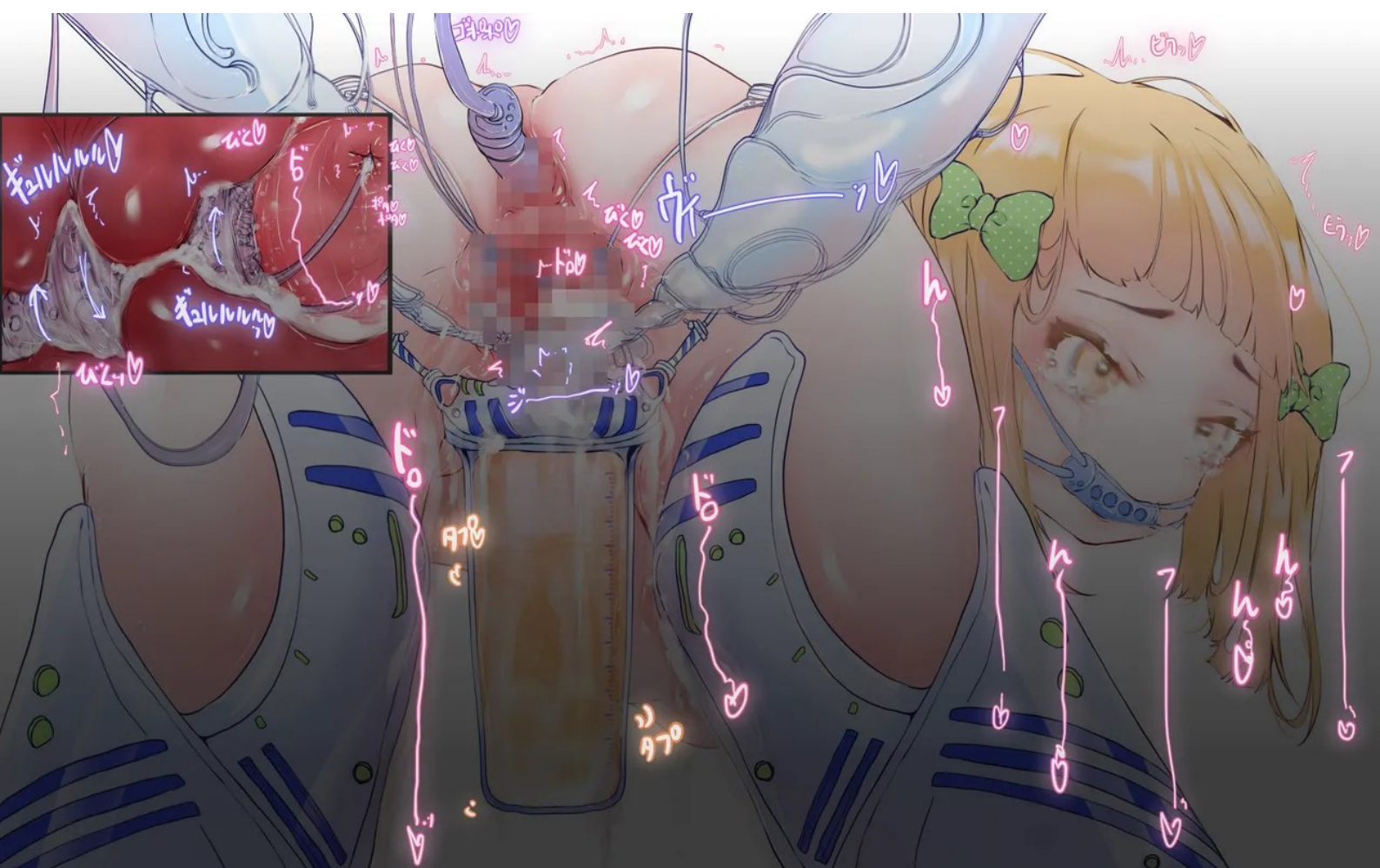


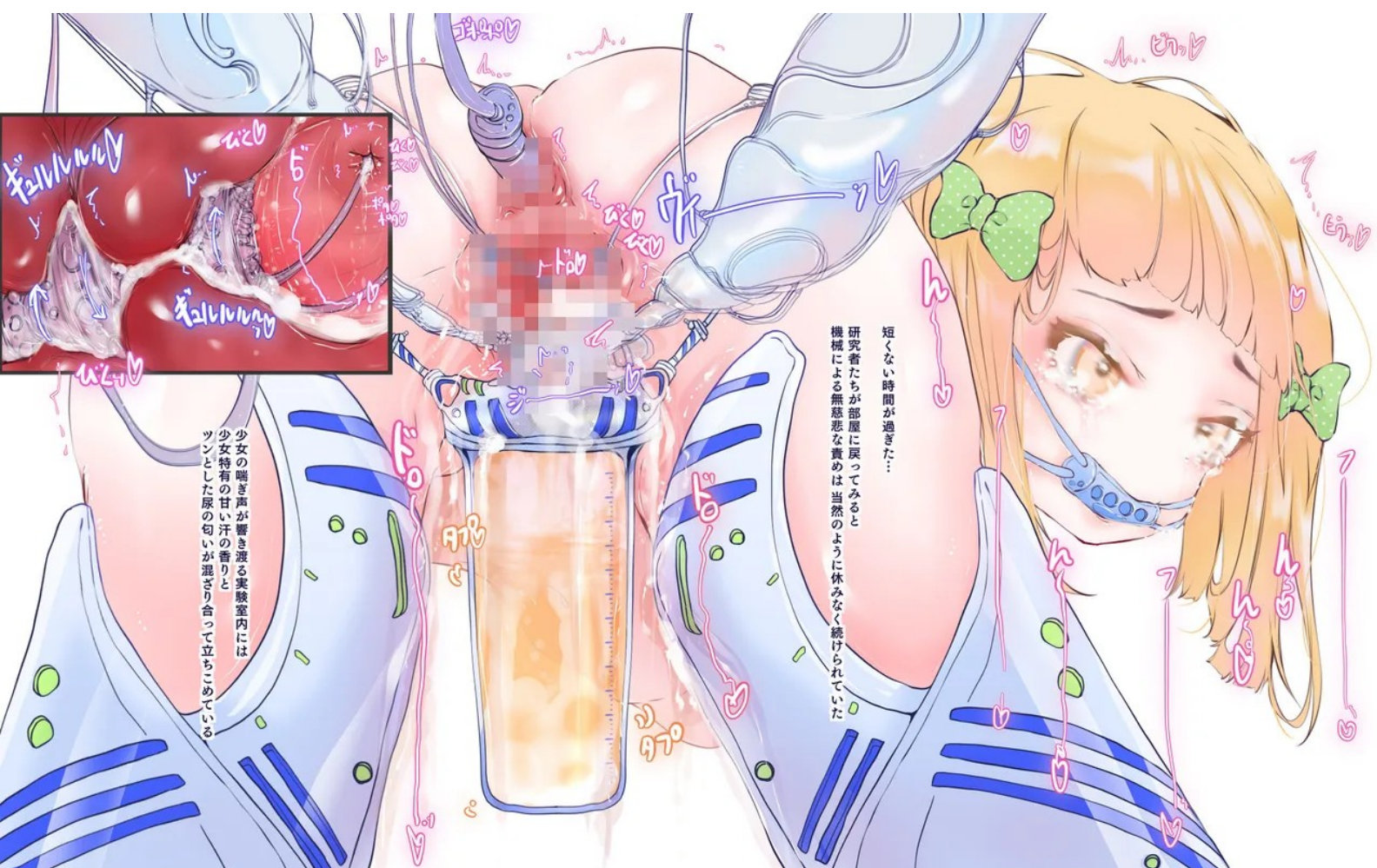


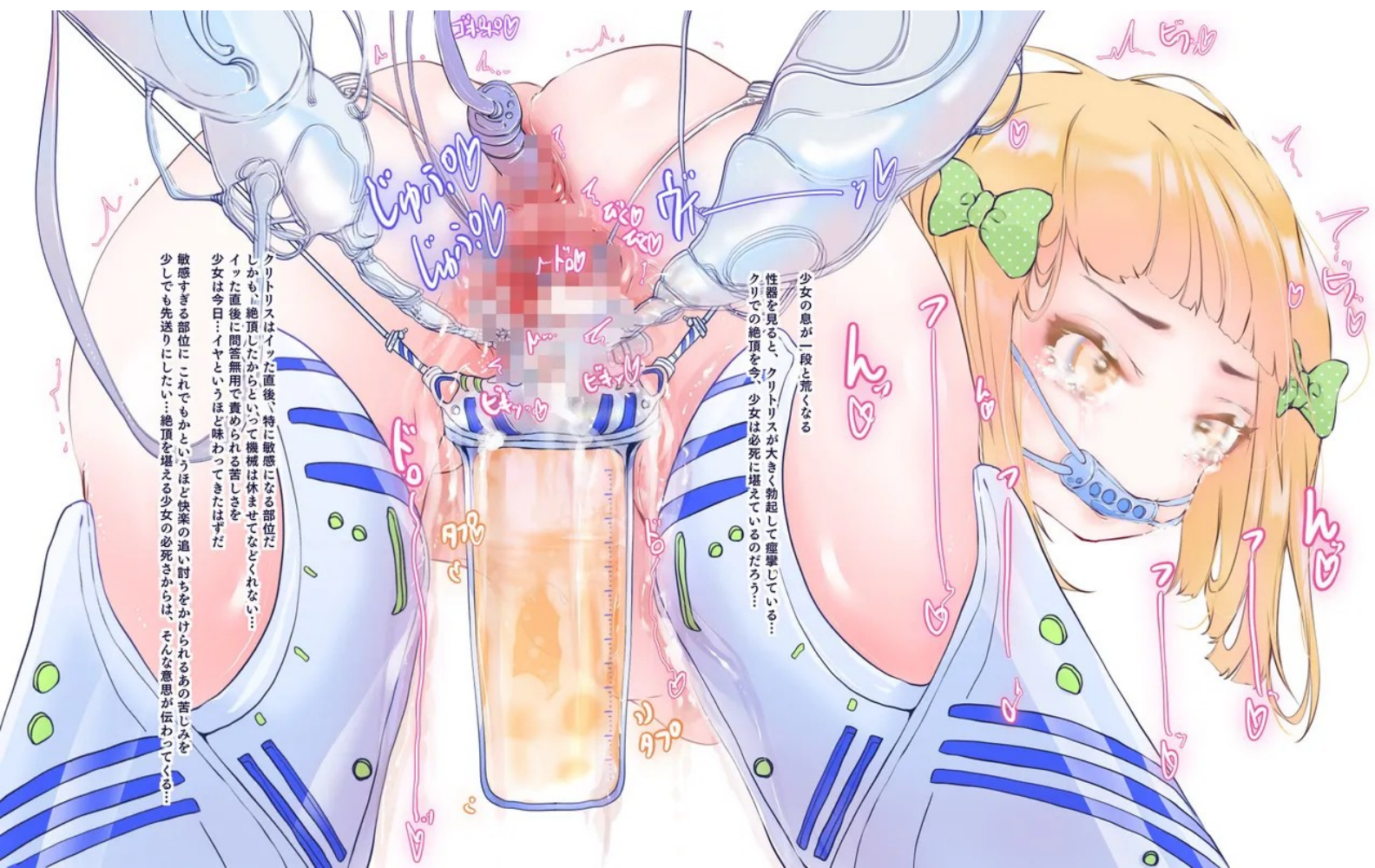


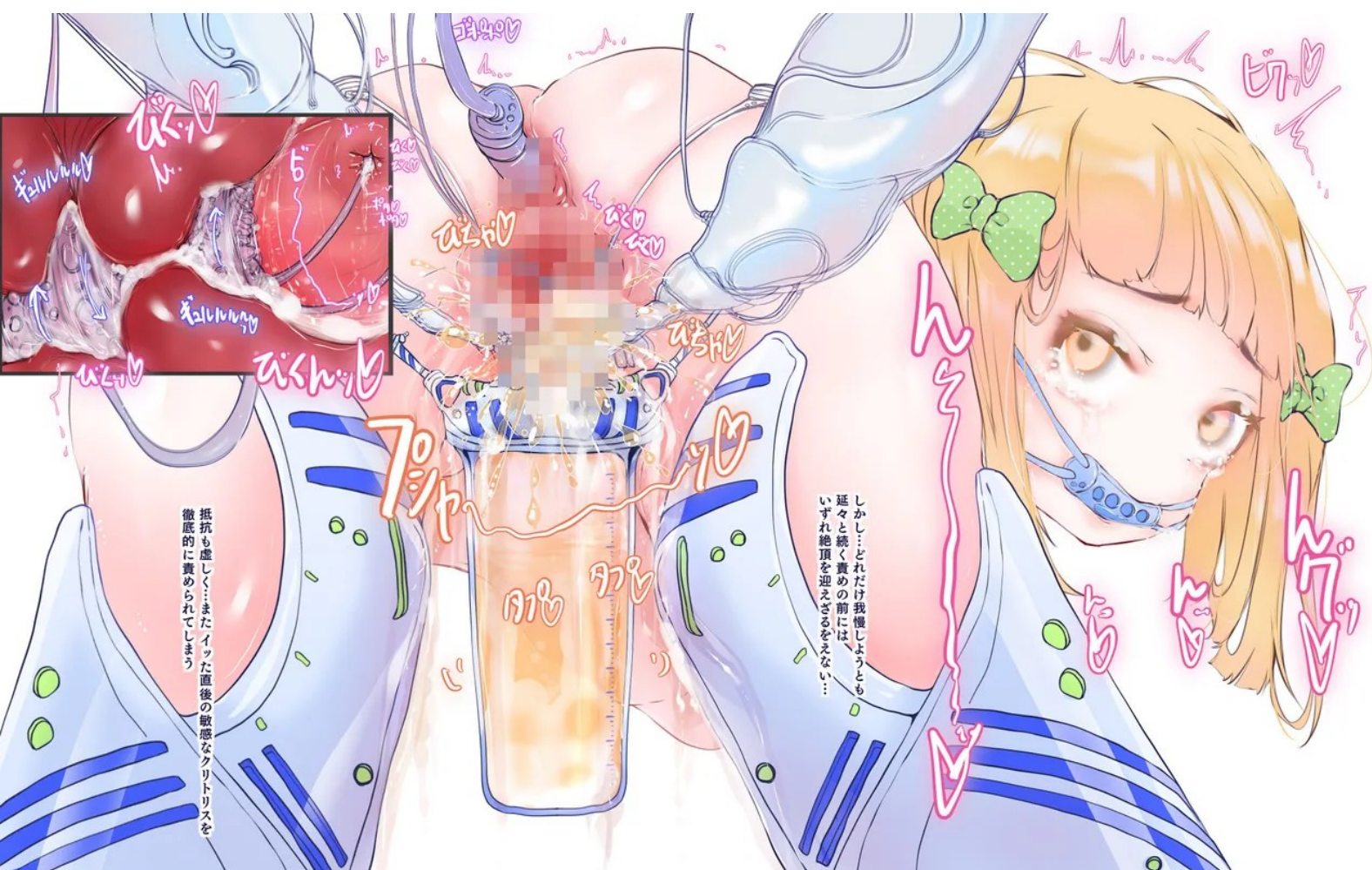


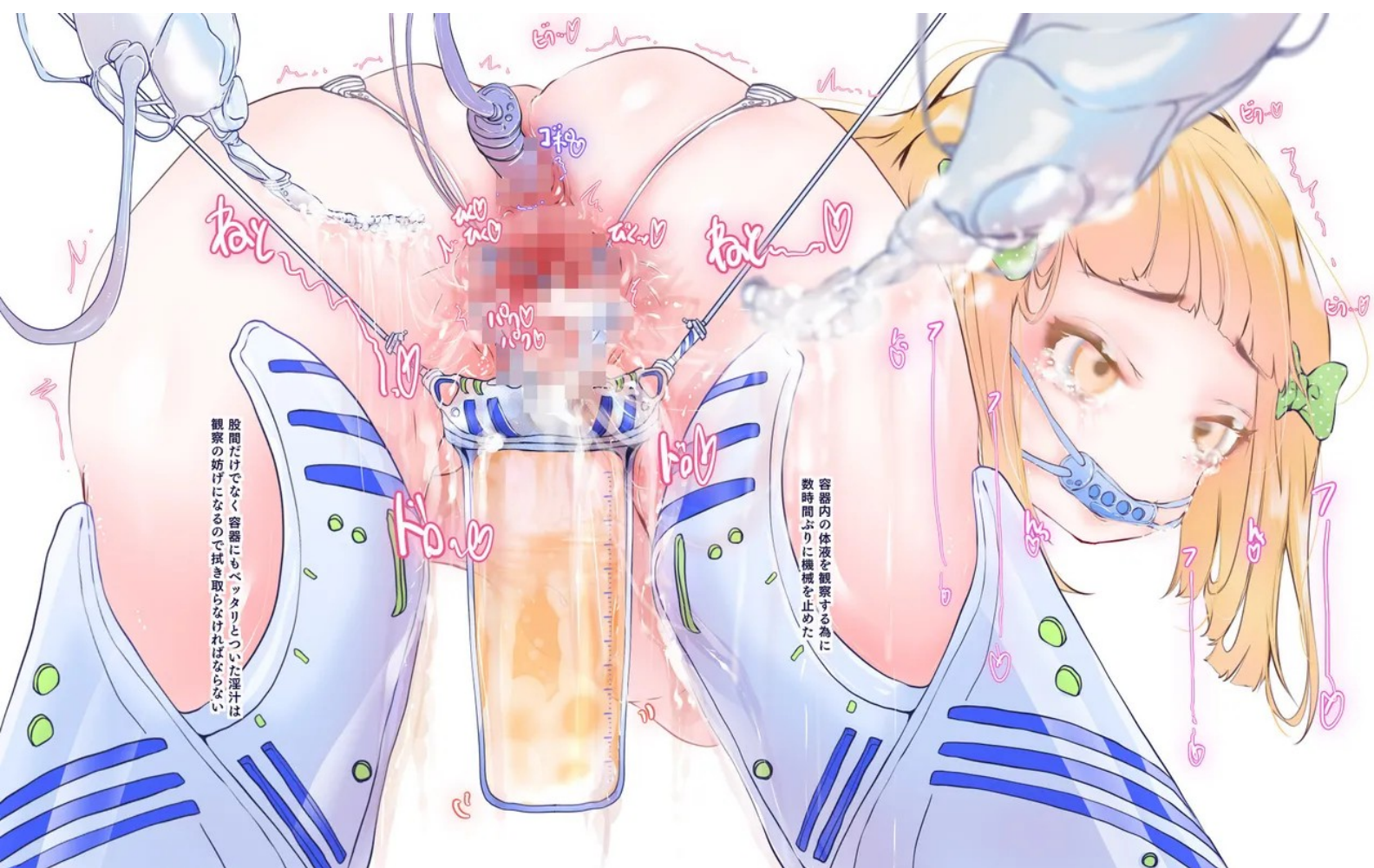


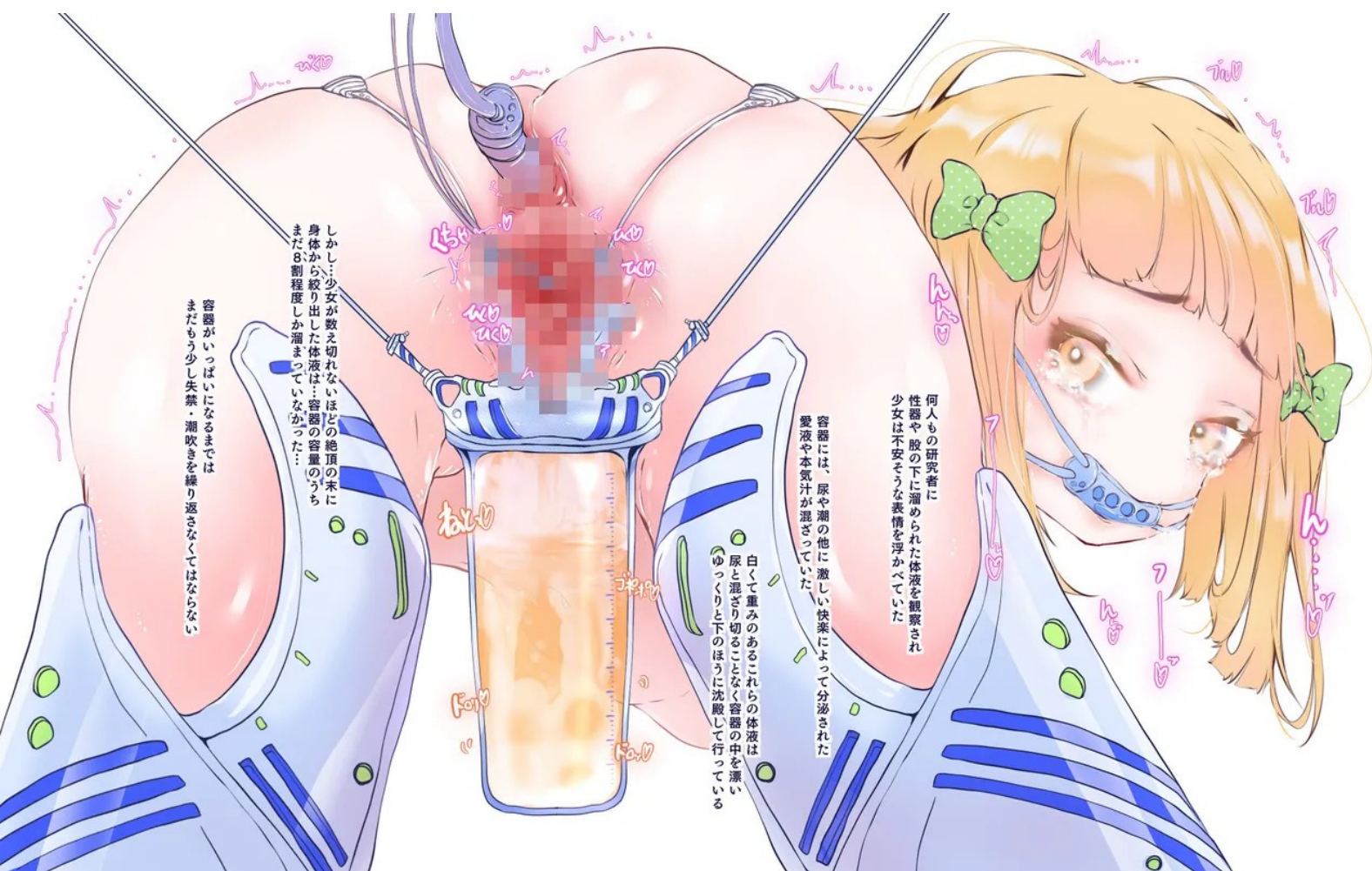


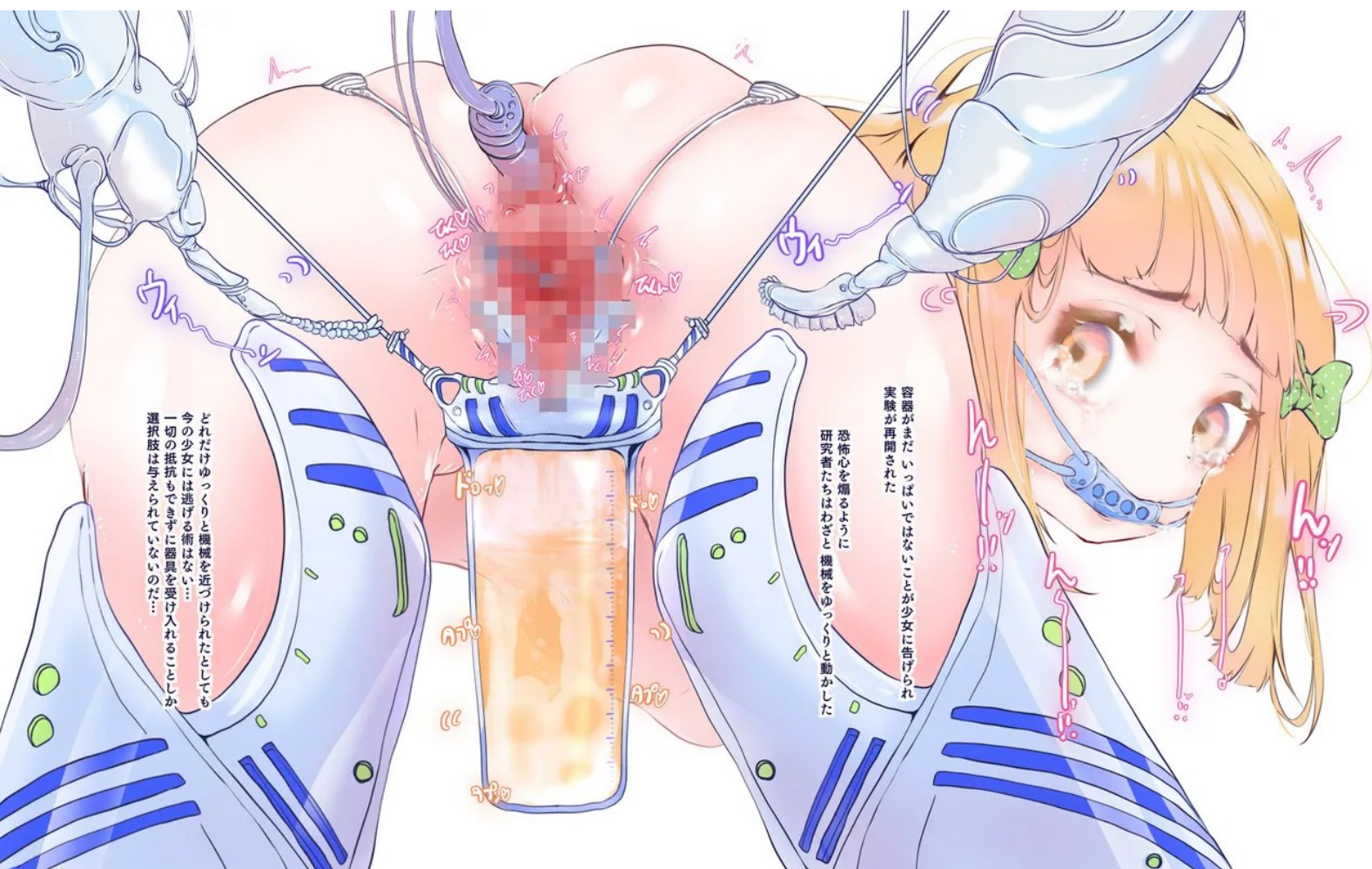








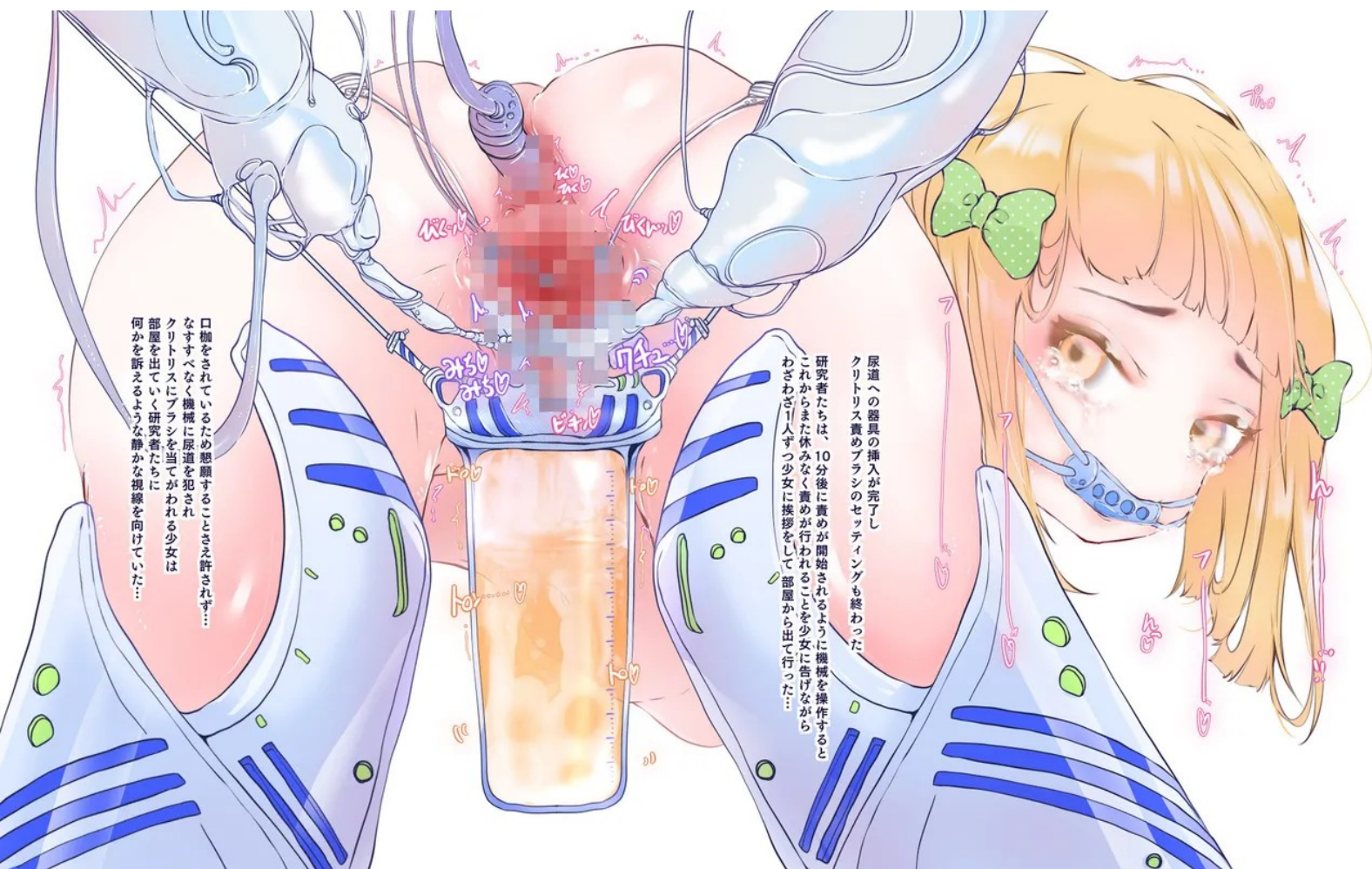


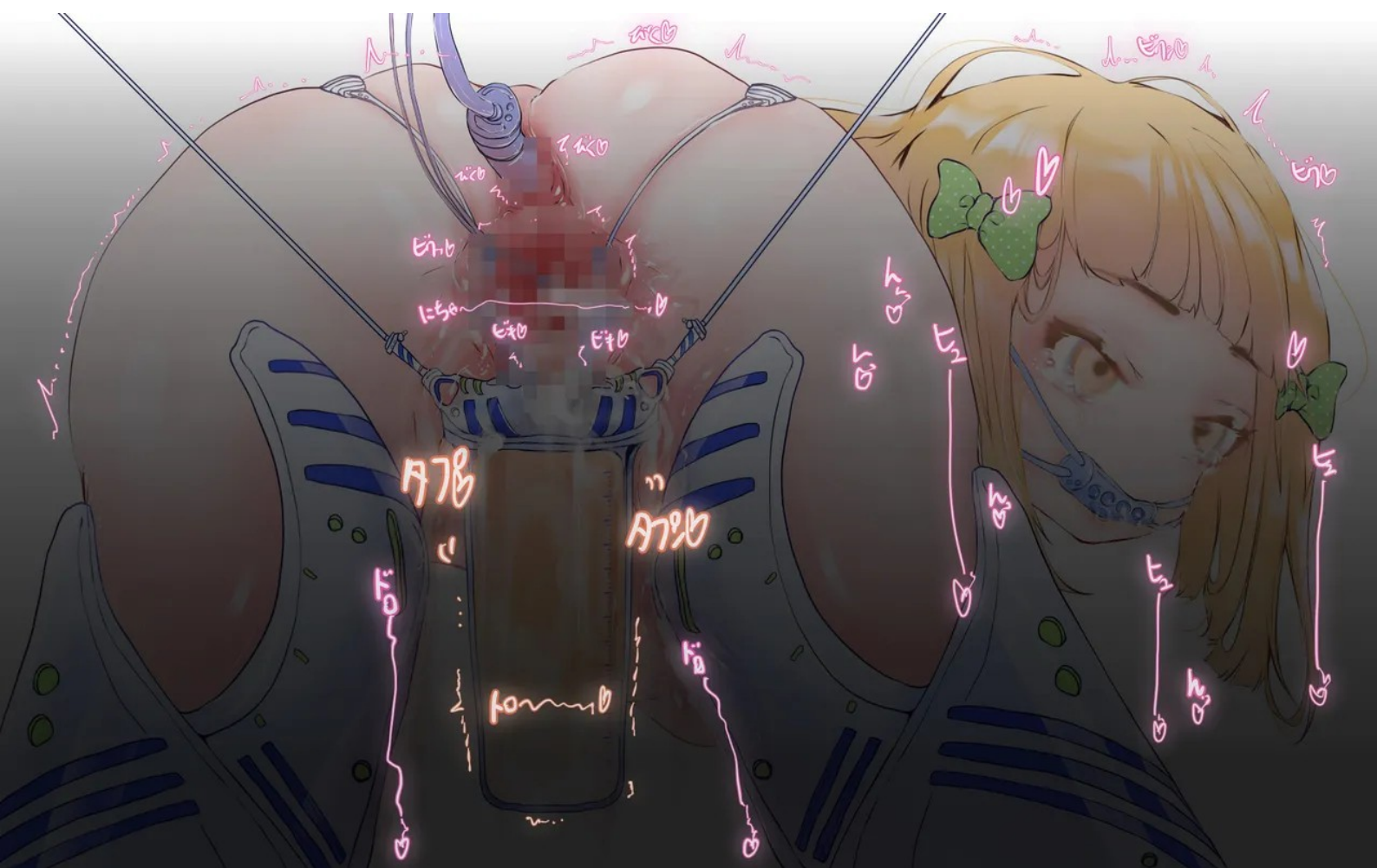


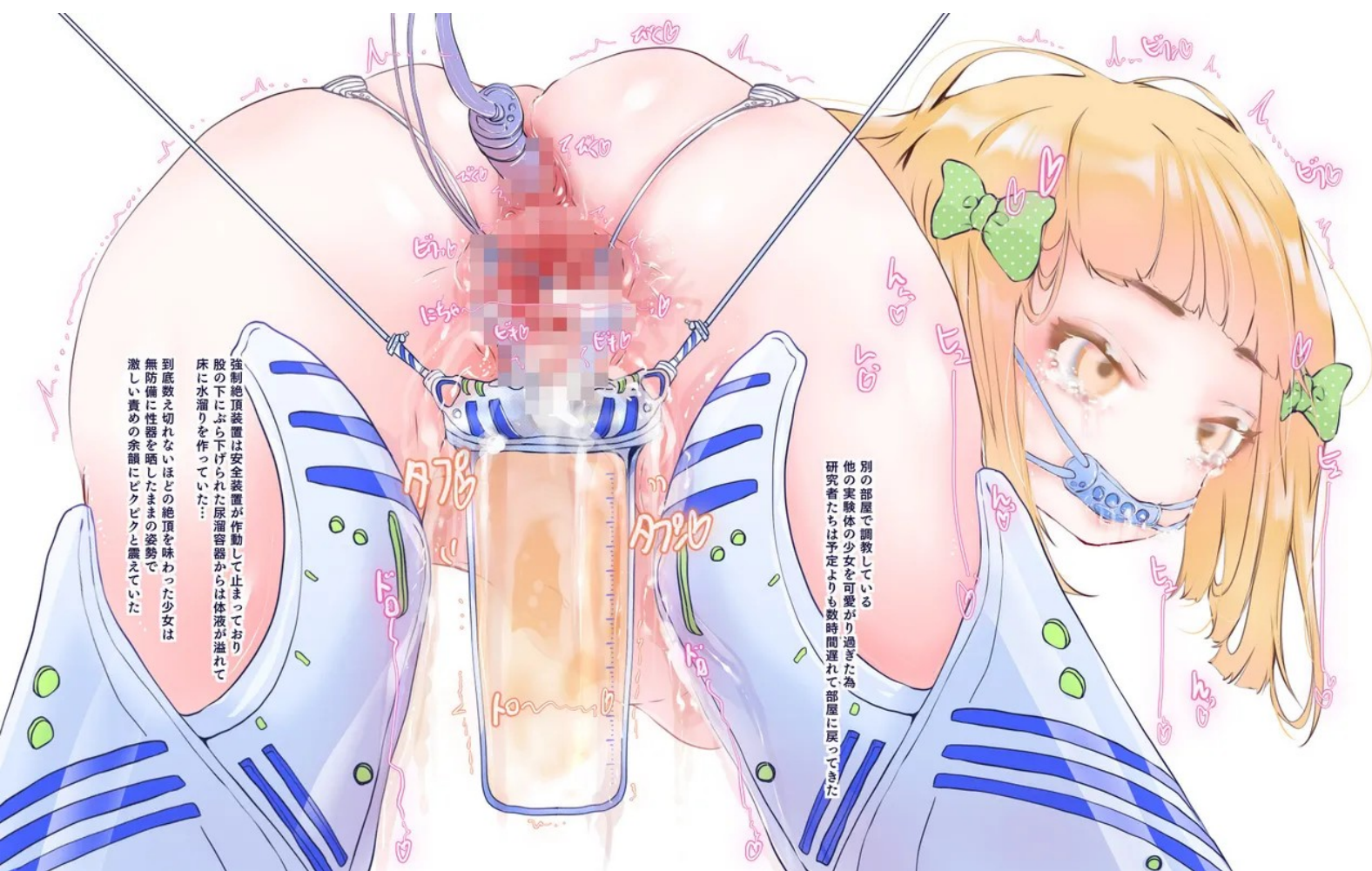
容器がまだいっぱいではないことが少女に告げられ
実験が再開された

恐怖心を煽るように
研究者たちはわざと機械をゆっくりと動かした

どれだけゆっくりと機械を近づけたとしても
今の少女には逃げる術はない！
一切の抵抗もできずに器具を受け入れることしか
選択肢は与えられていないのだ！

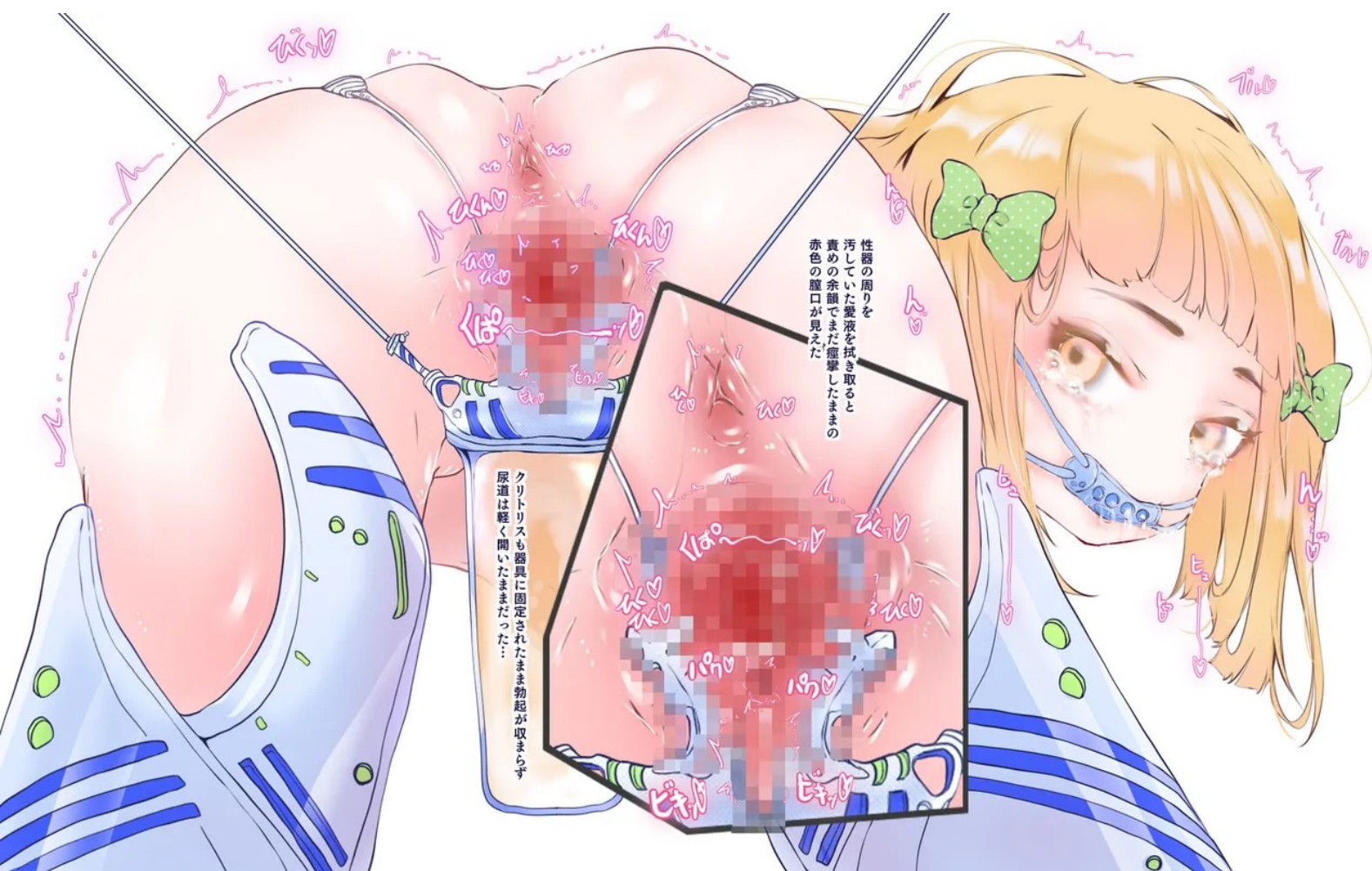


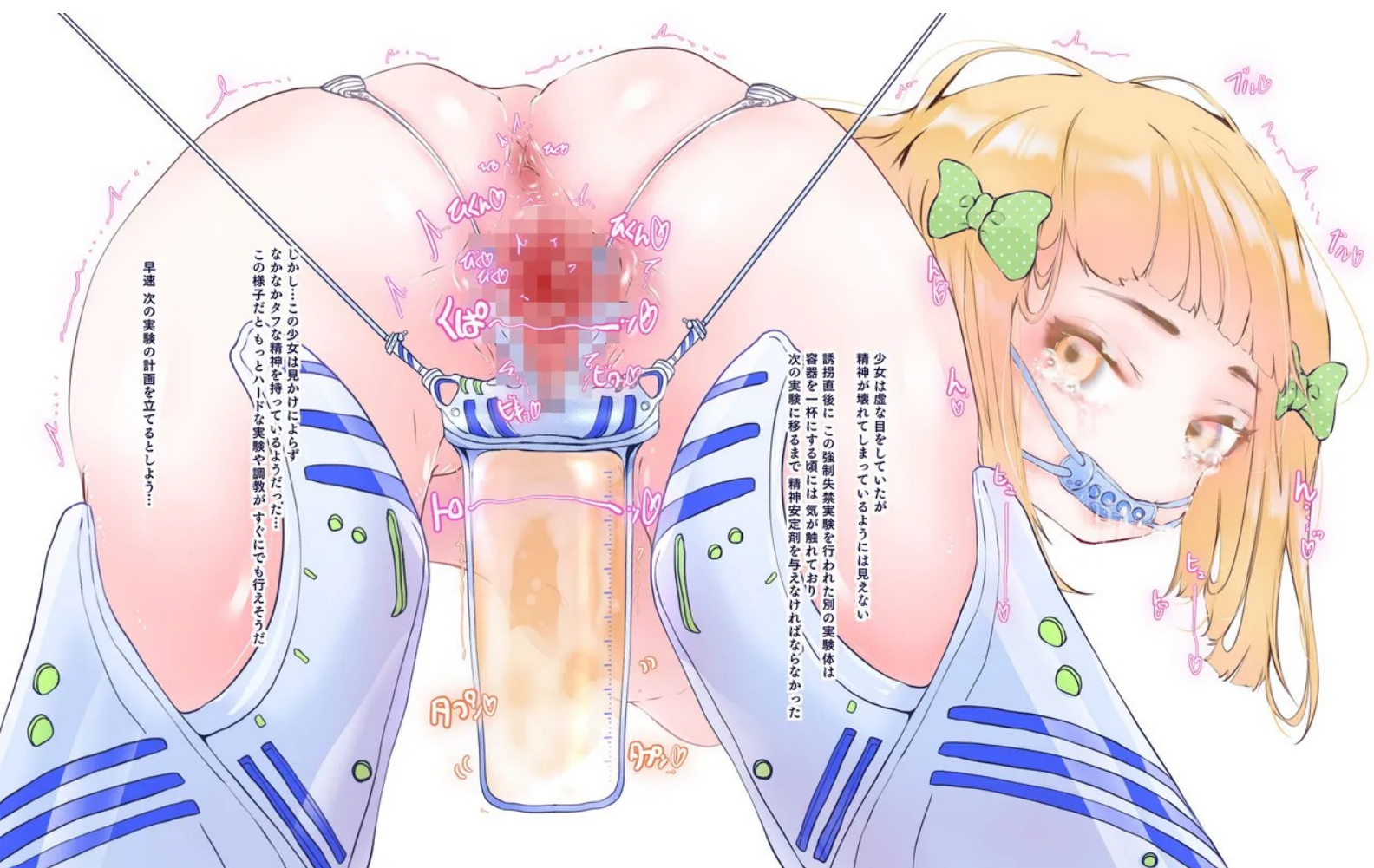




強制絶頂装置は安全装置が作動して止まっており
股の下にぶら下げられた尿溜容器からは体液が溢れて
床に水溜りを作っていた！
到底数え切れないほどの絶頂を味わった少女は
無防備に性を晒したままの姿勢で
激しい責めの余韻にビクビクと震えていた

別の部屋で調教している
他の実験体の少女を可愛がり過ぎた為
研究者たちは予定よりも数時間遅れて部屋に戻ってきた



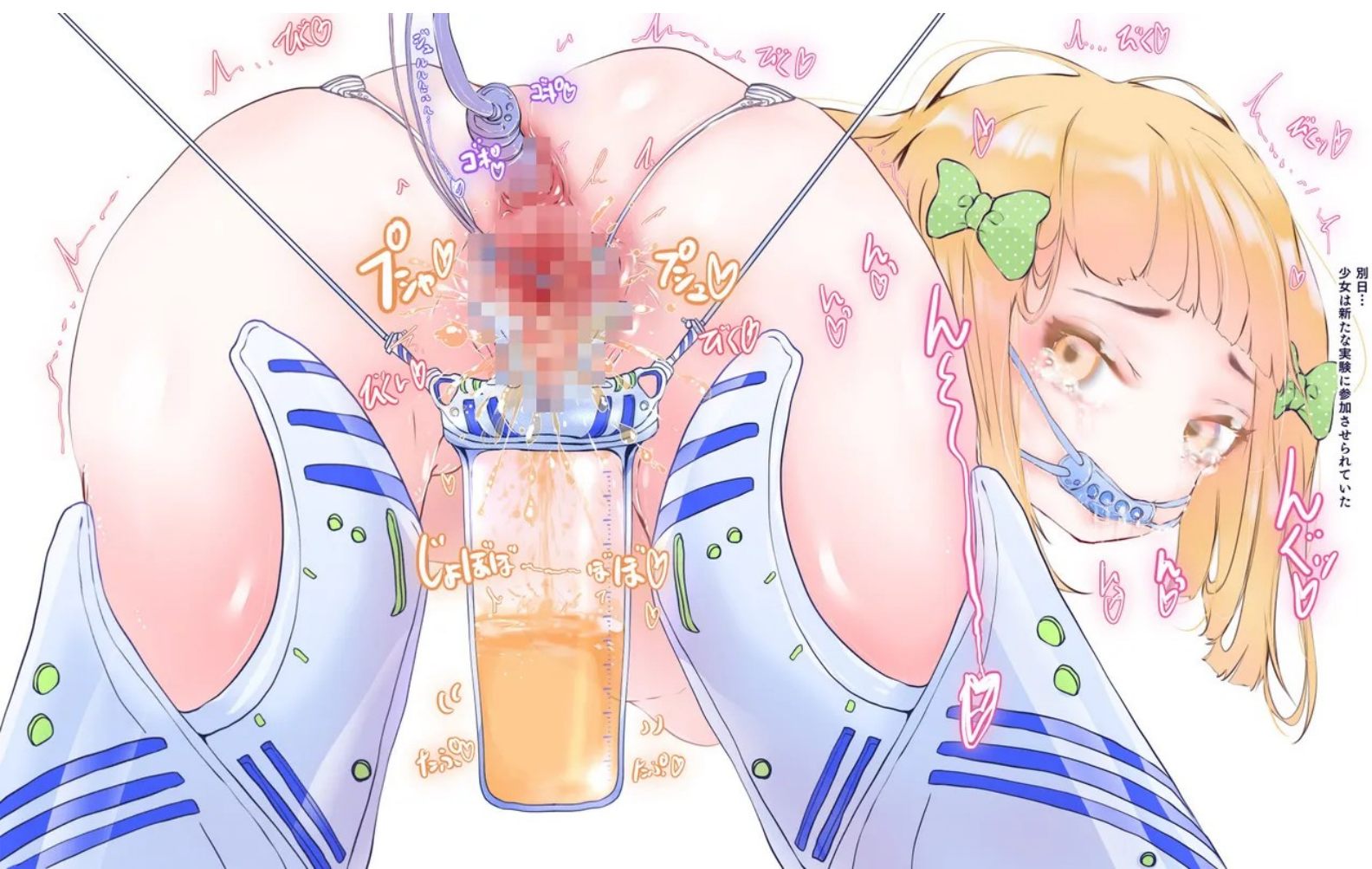




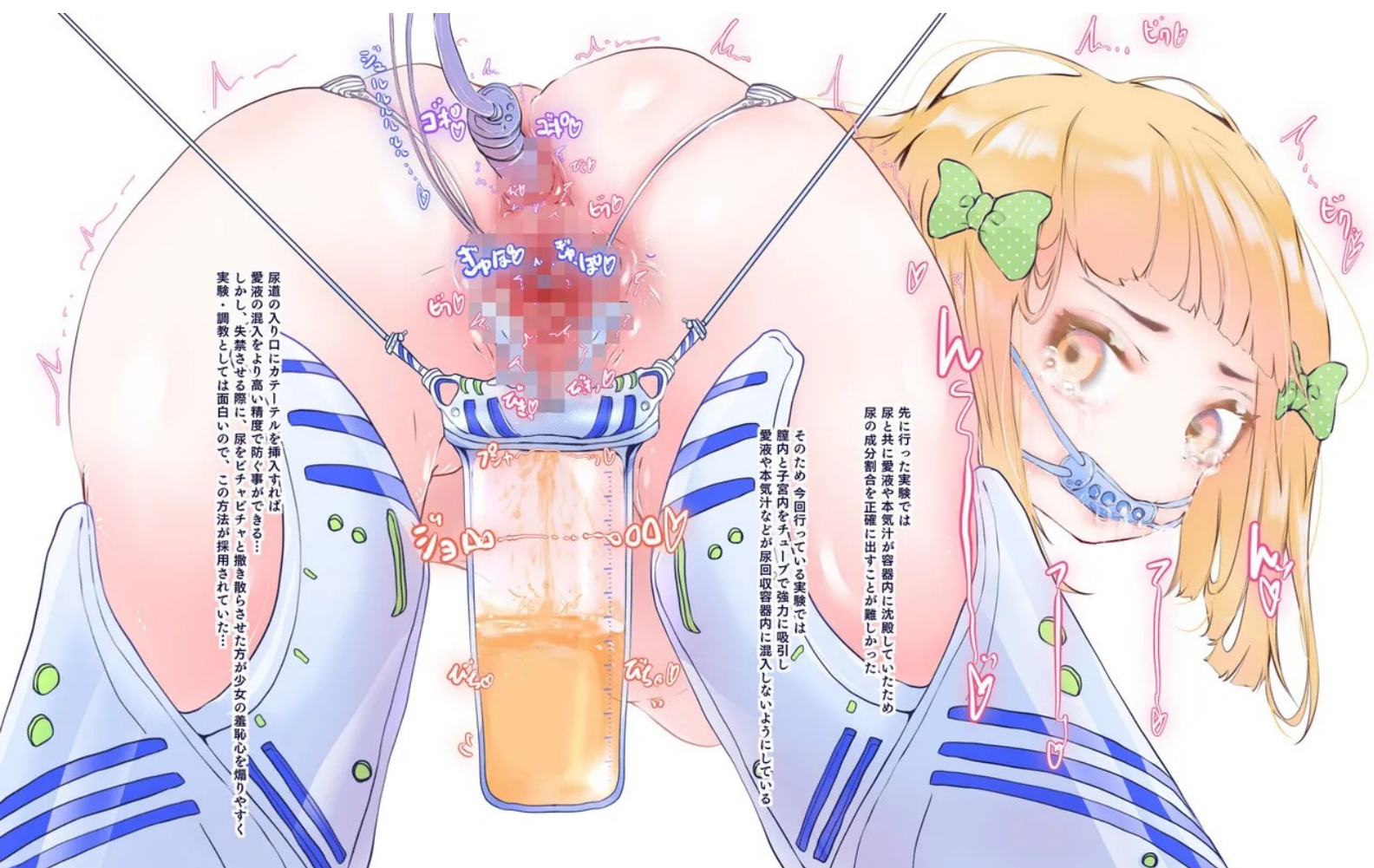
おまけ差分

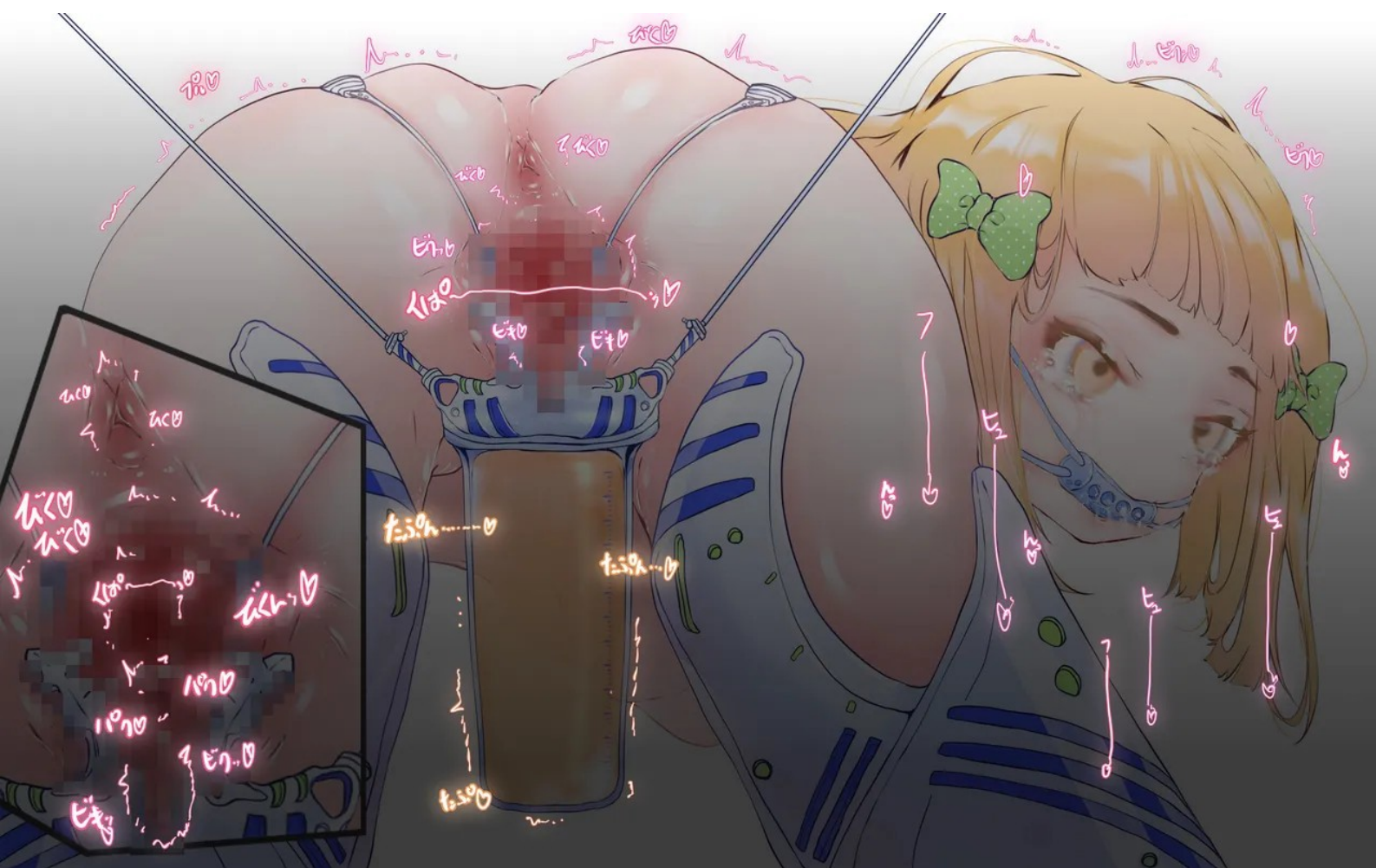
愛液吸引編

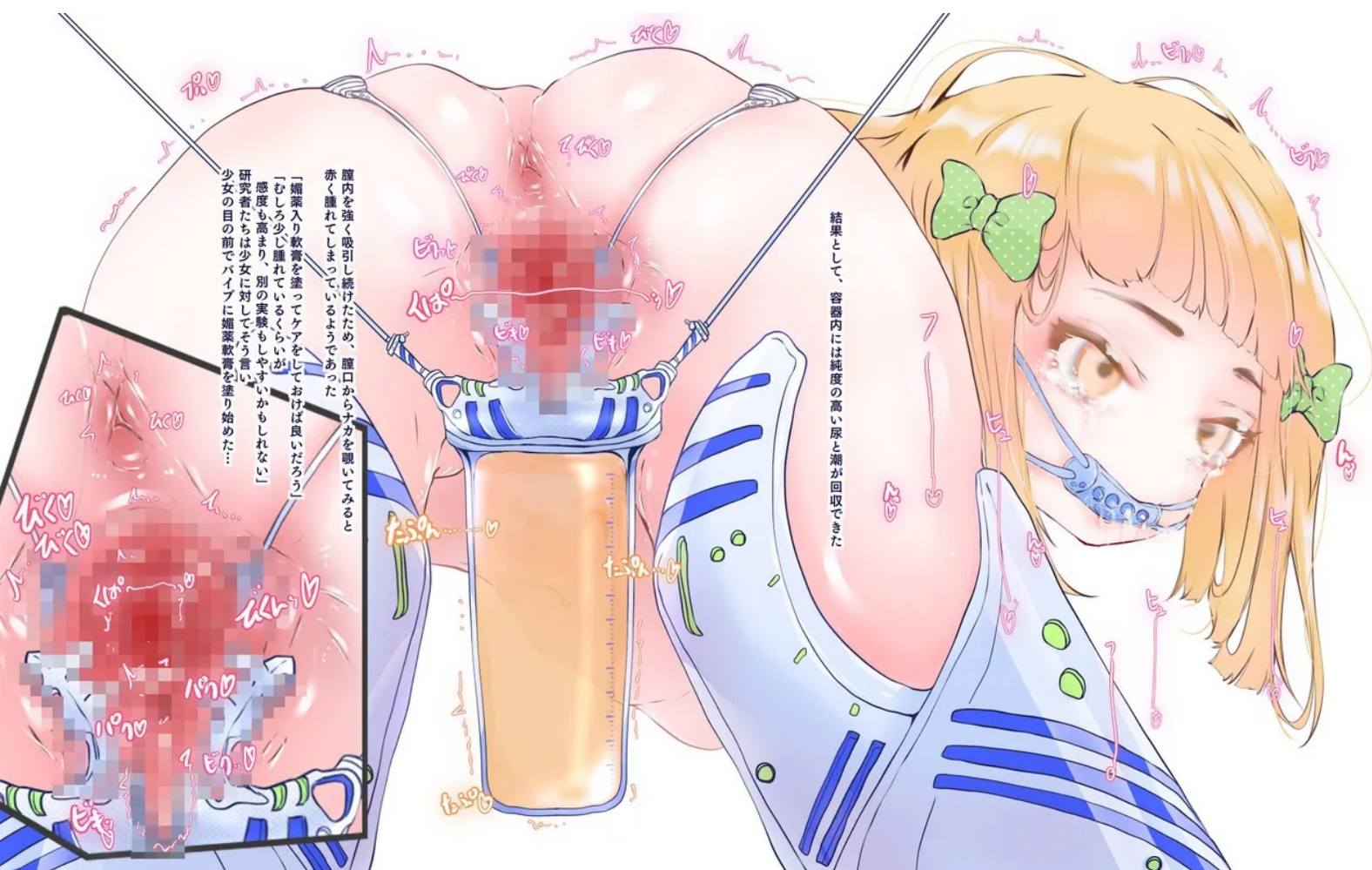
O M A K E S A B U N

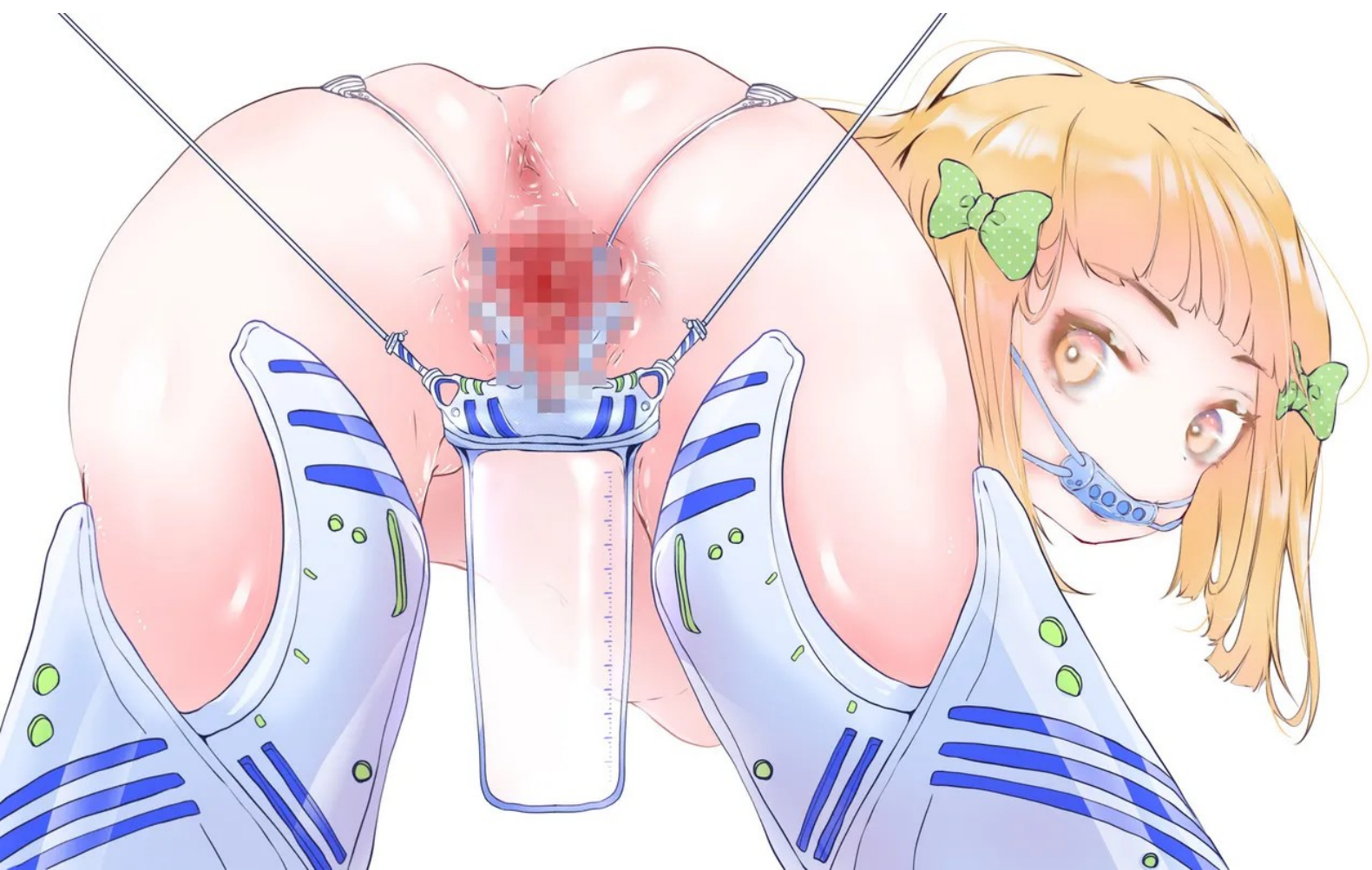


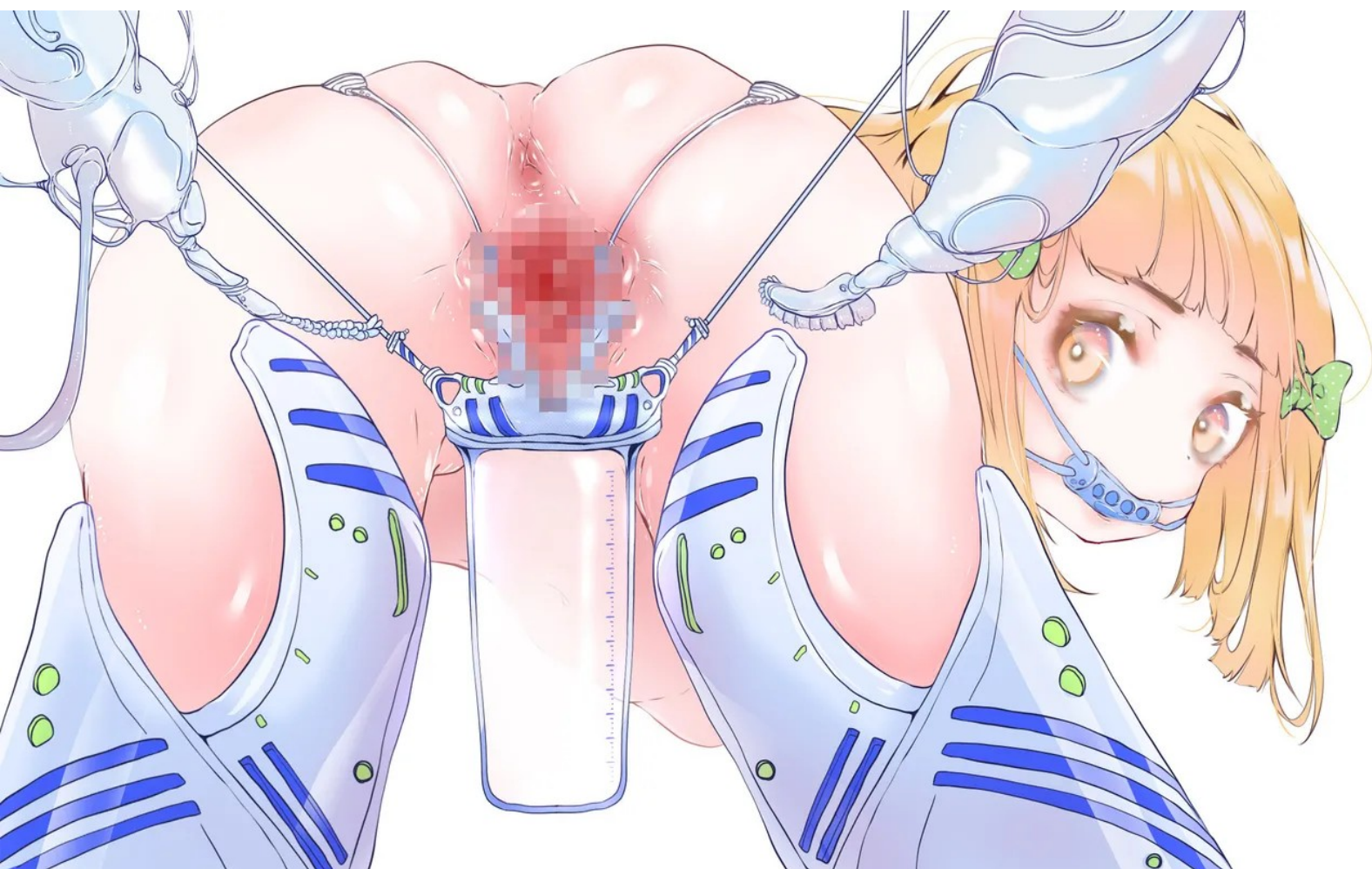
別日:
少女は新たな実験に参加させられていた

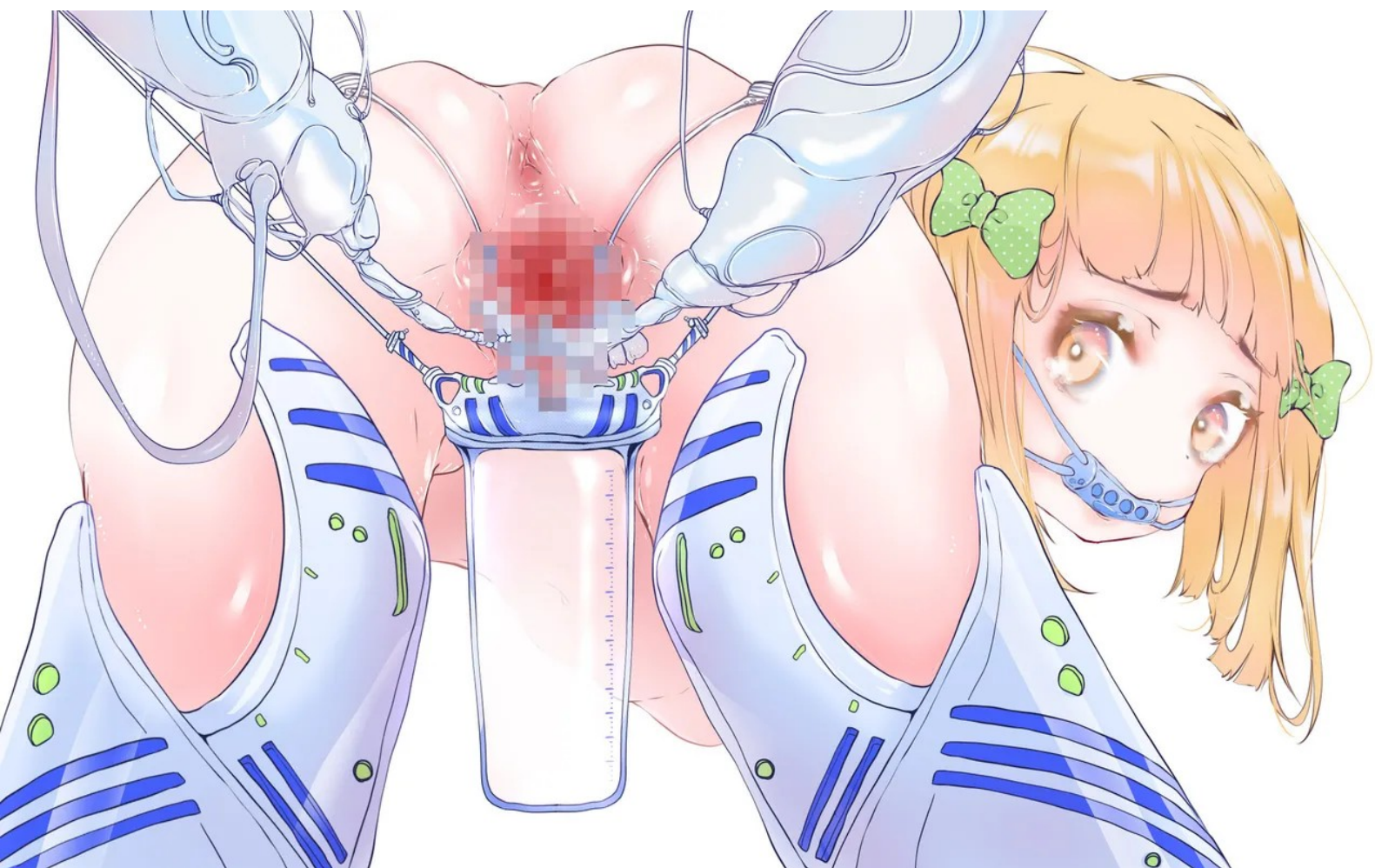


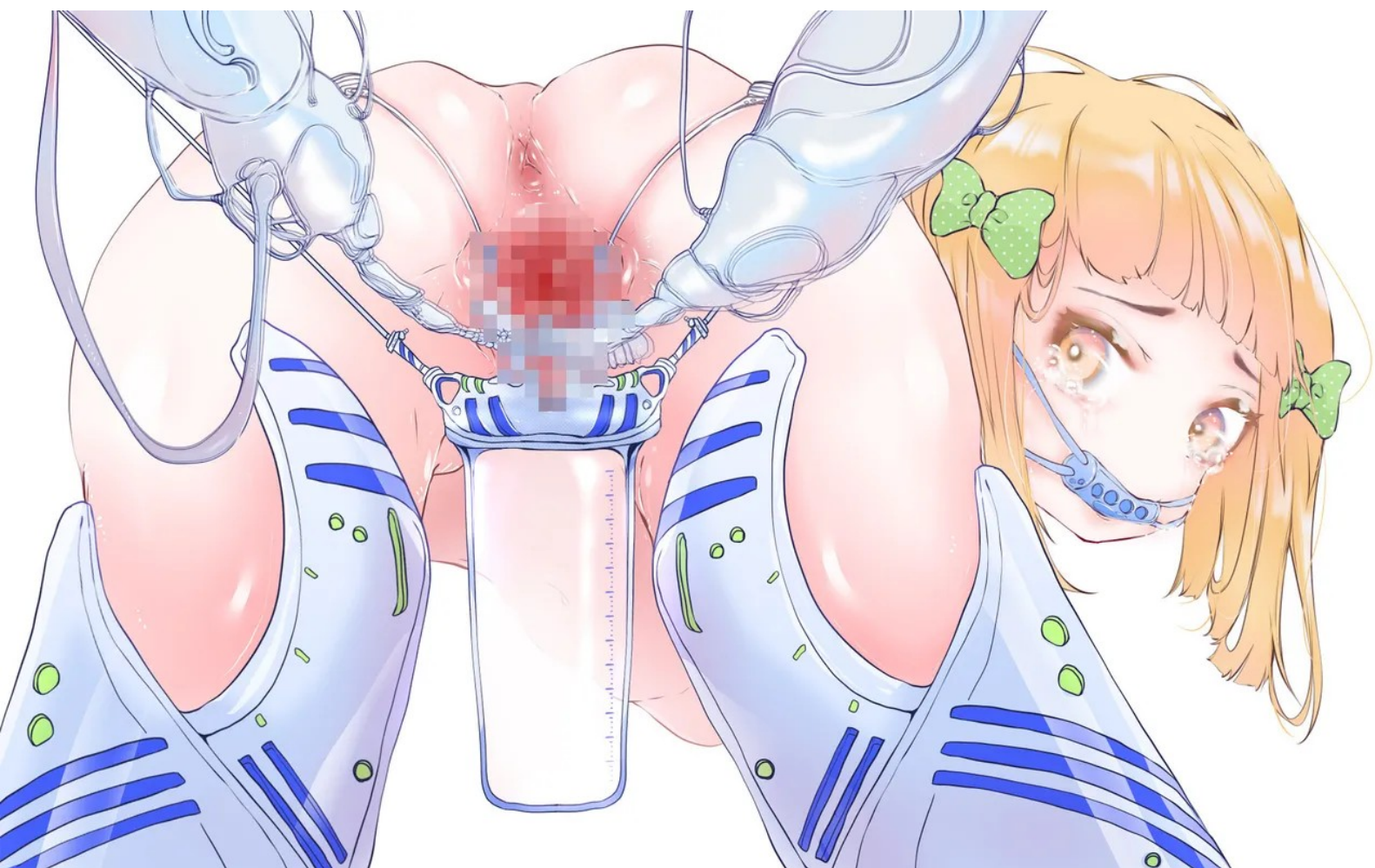


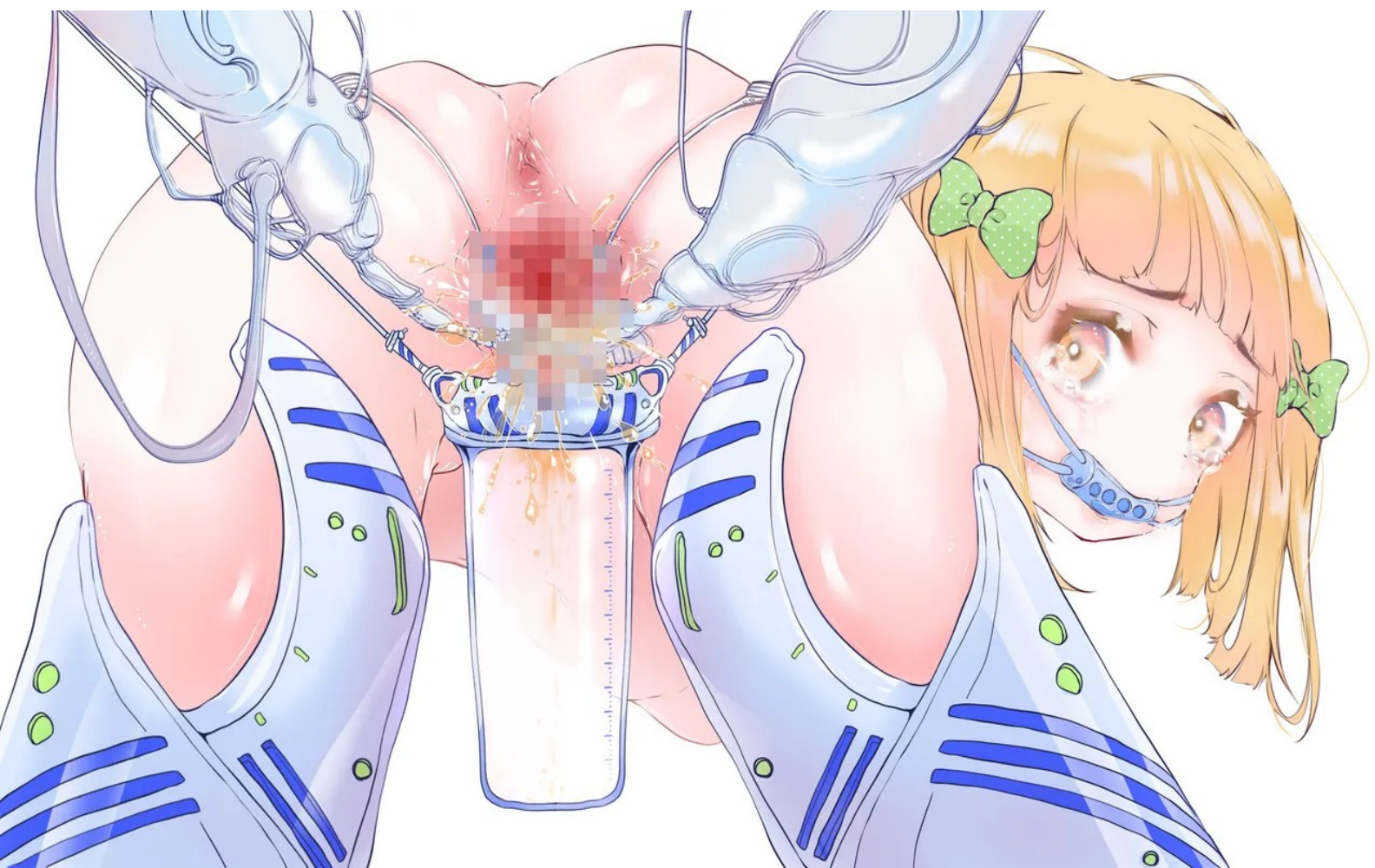


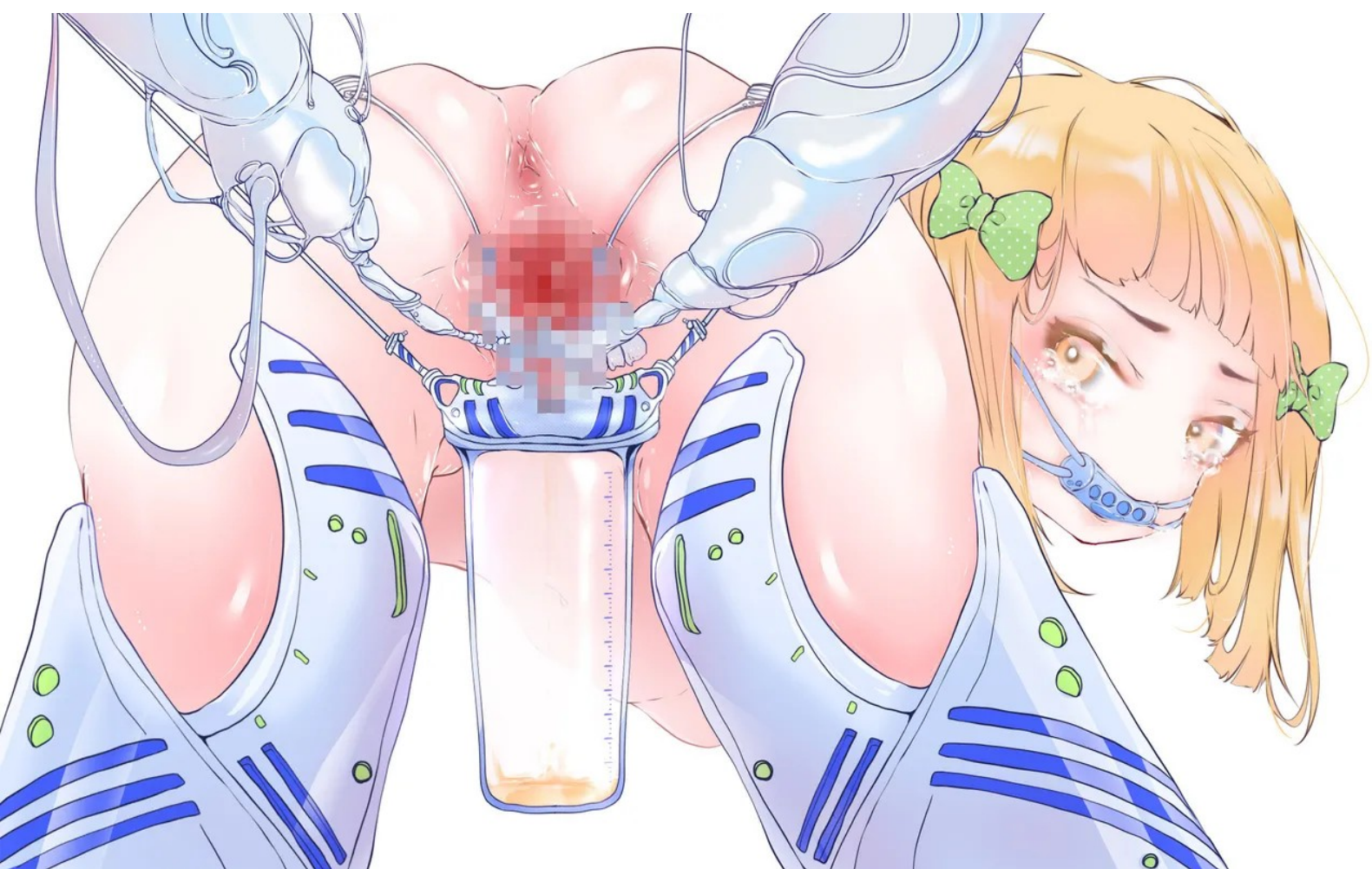


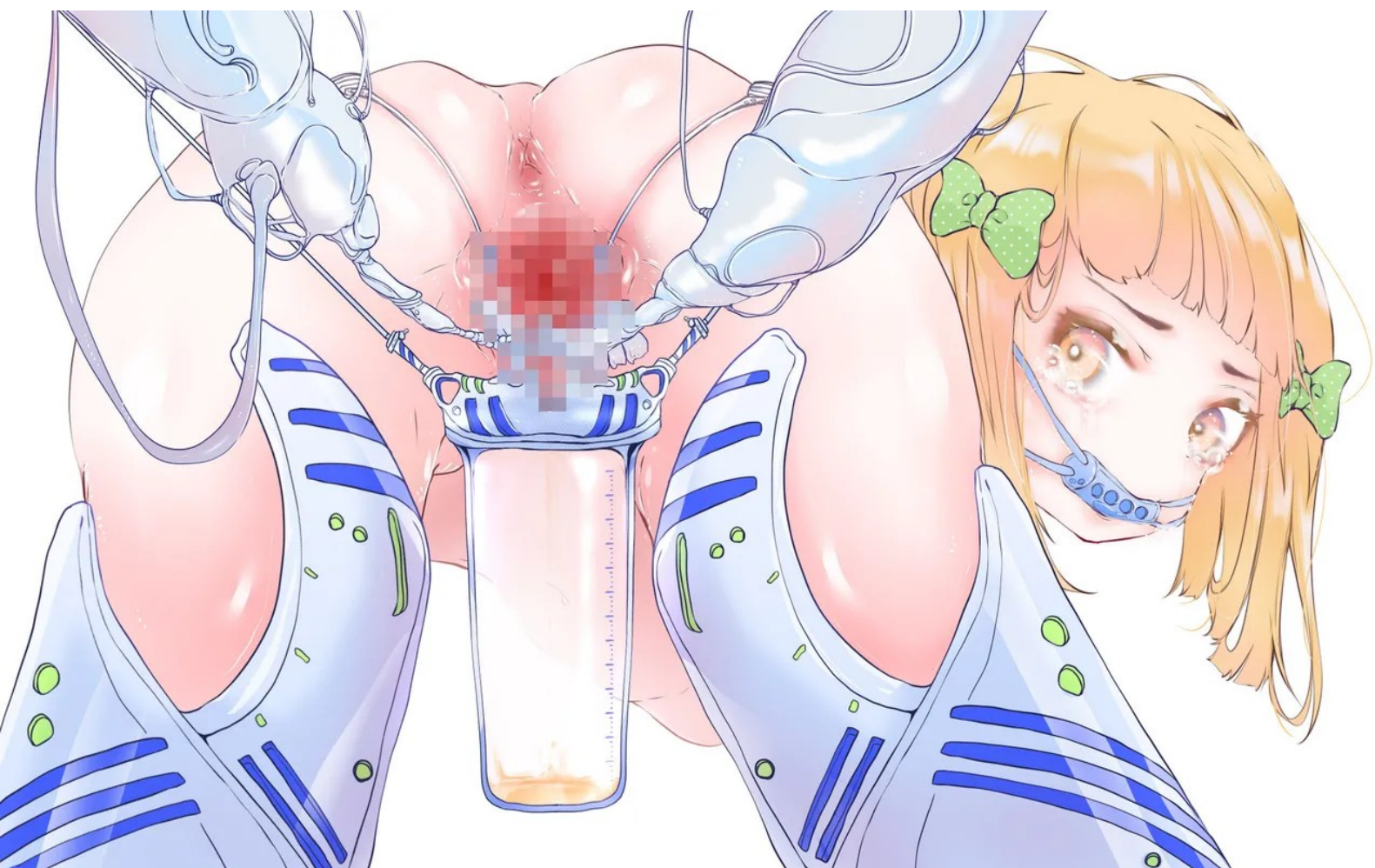


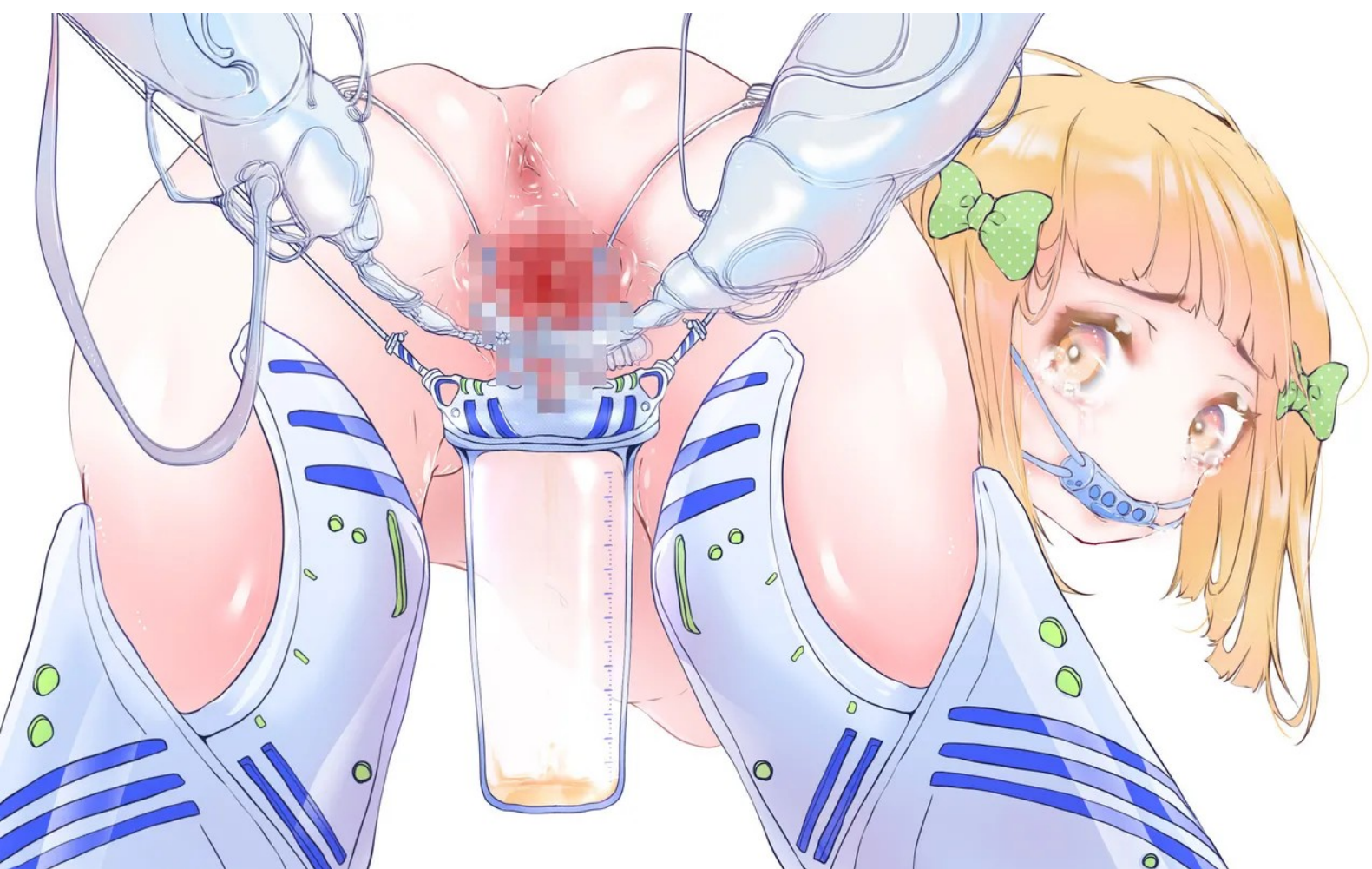


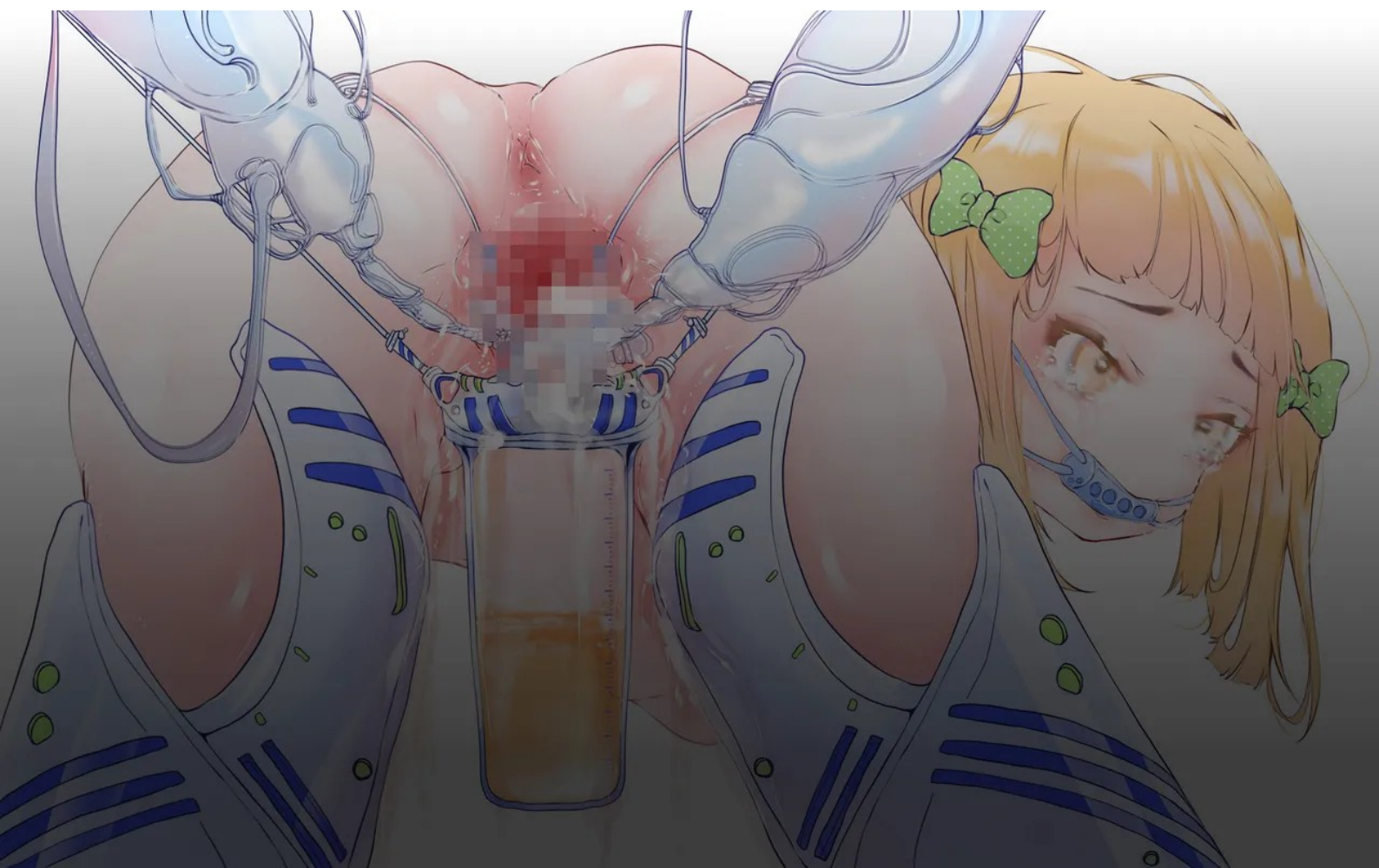


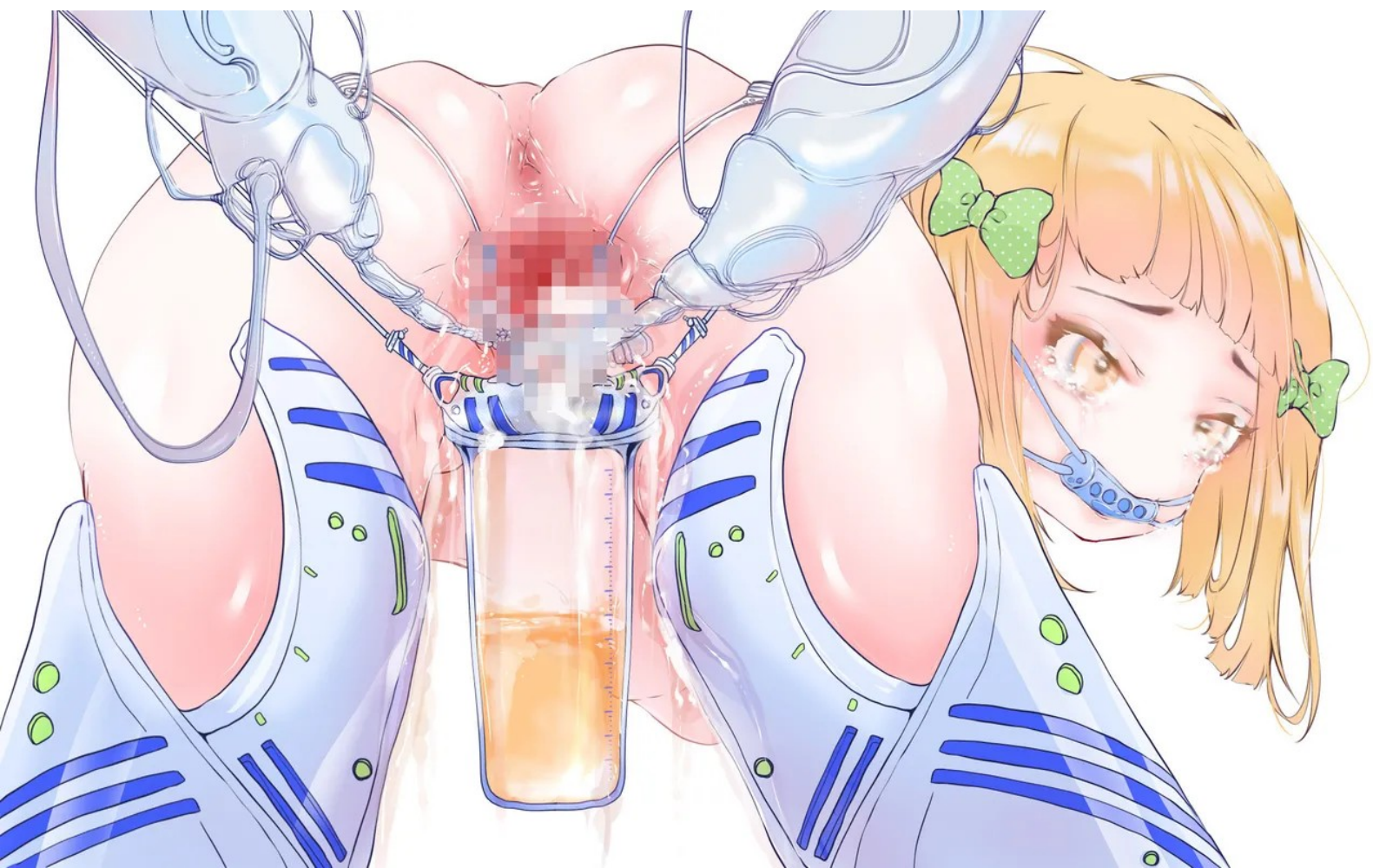


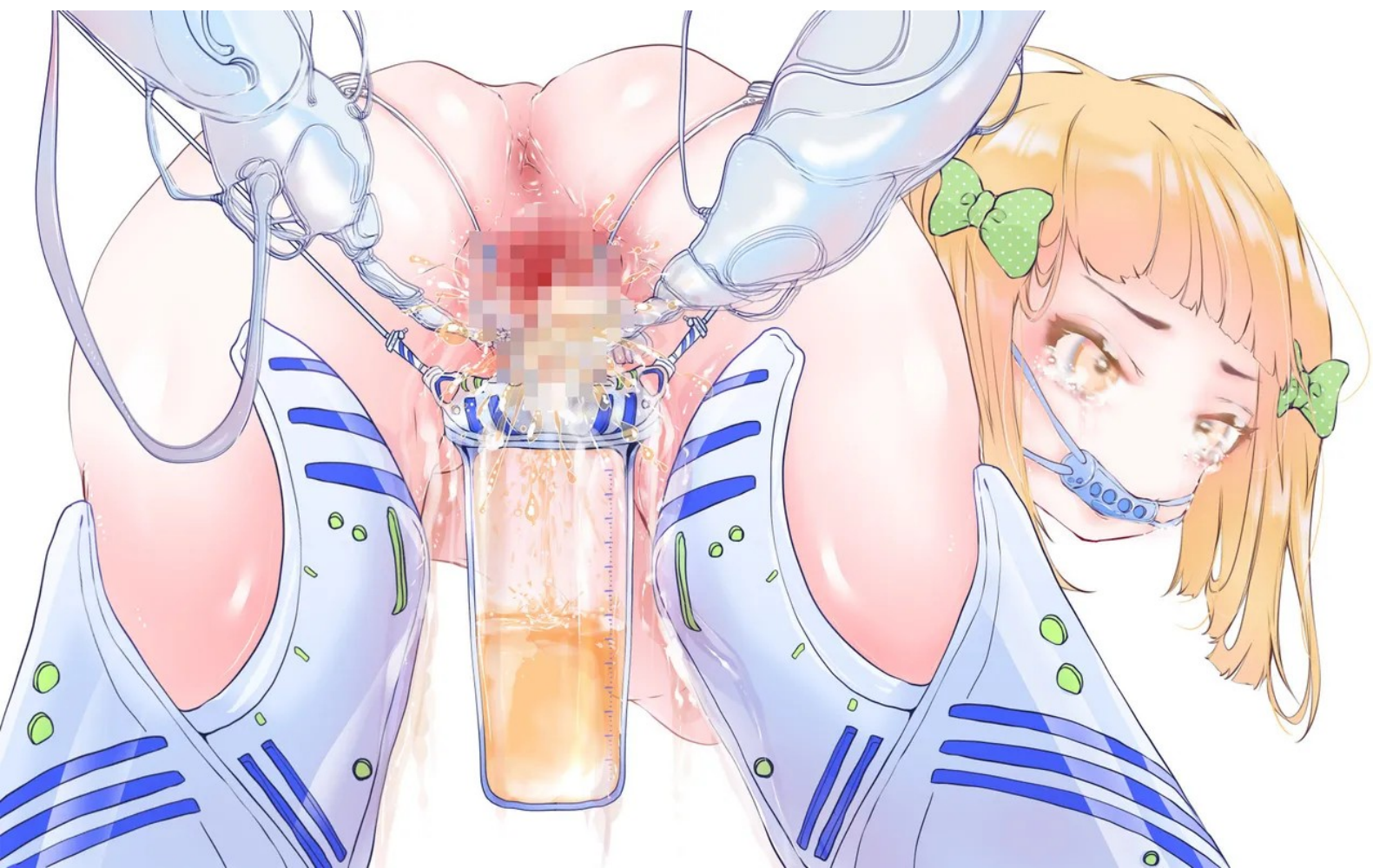


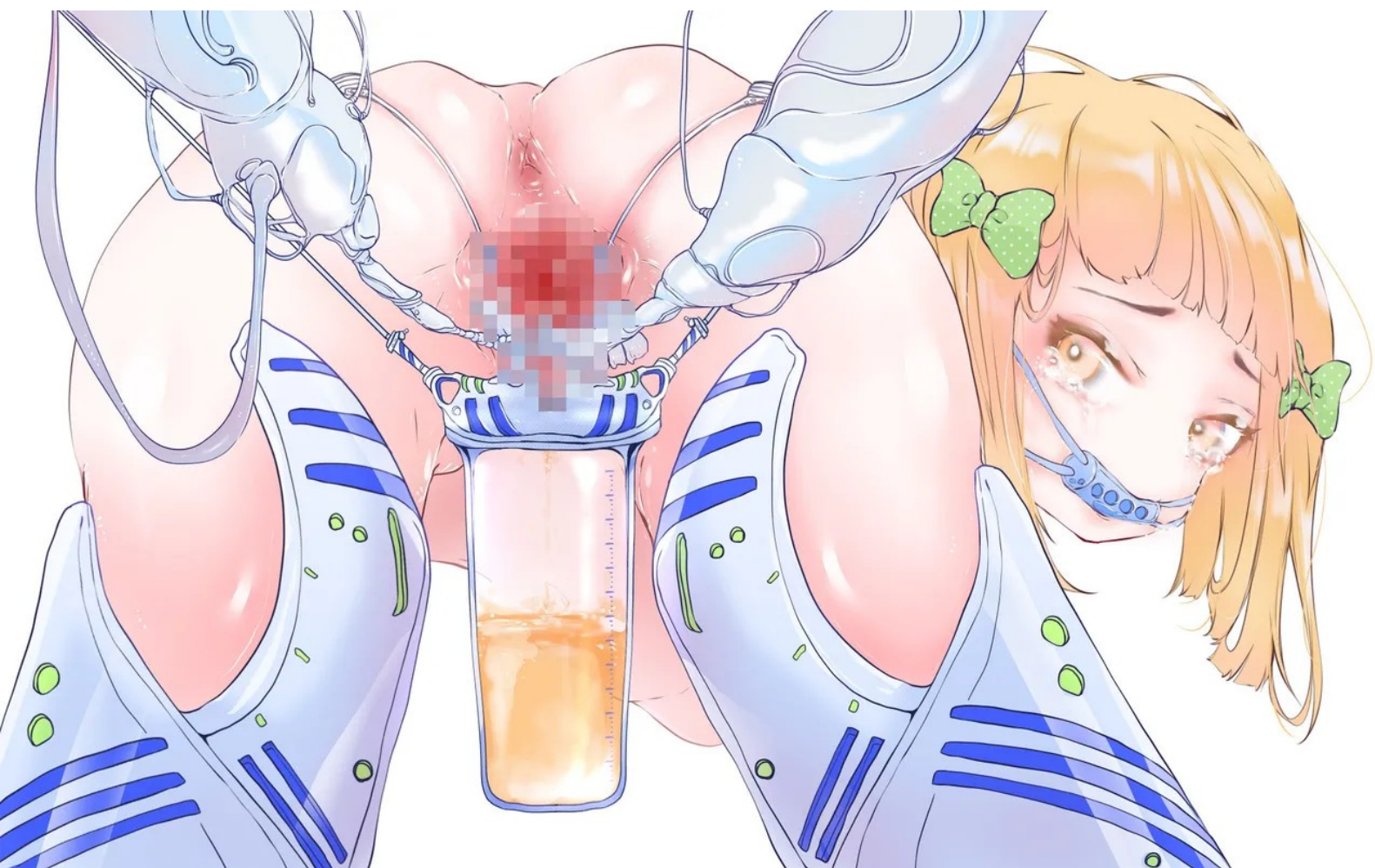


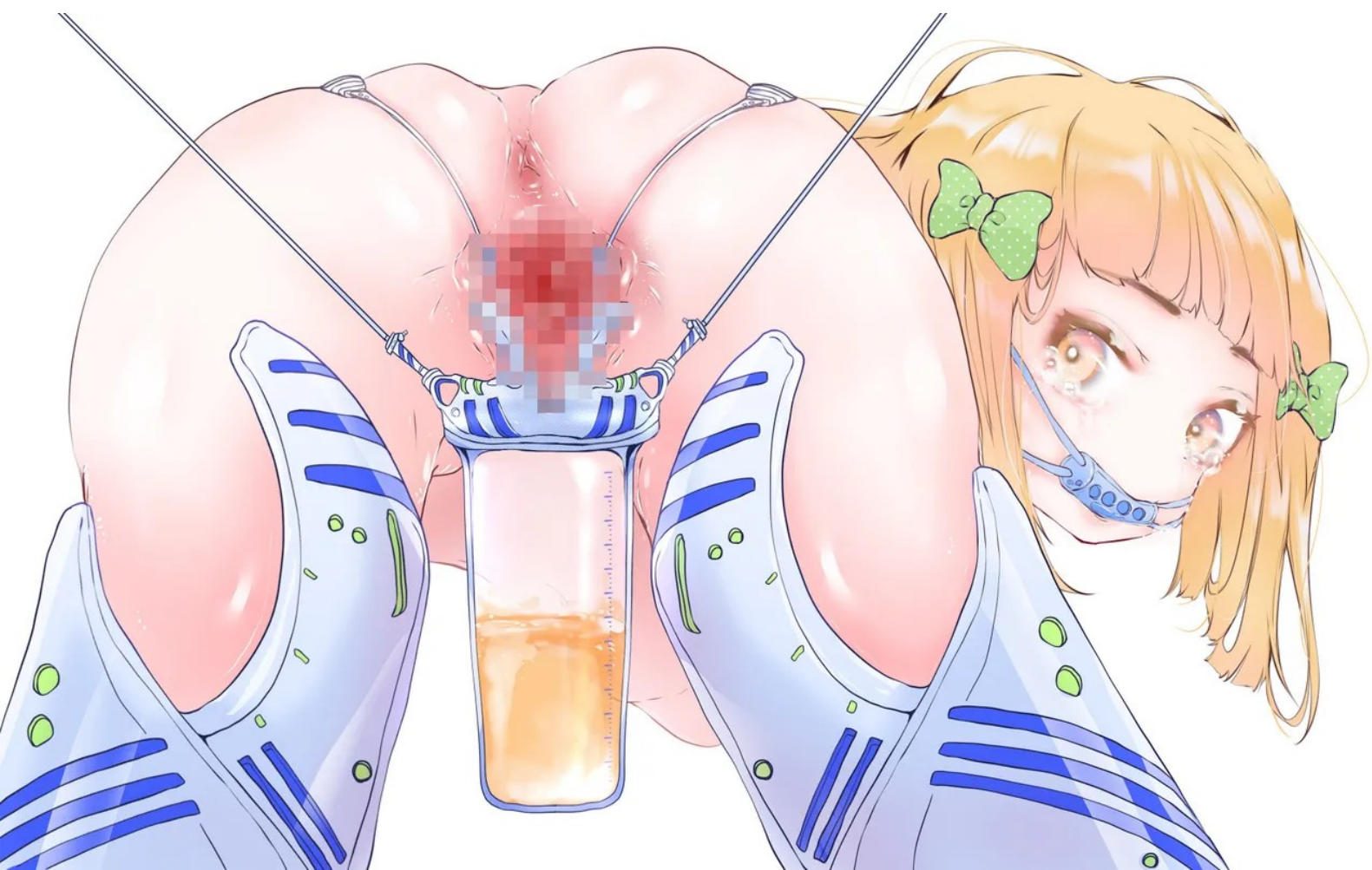


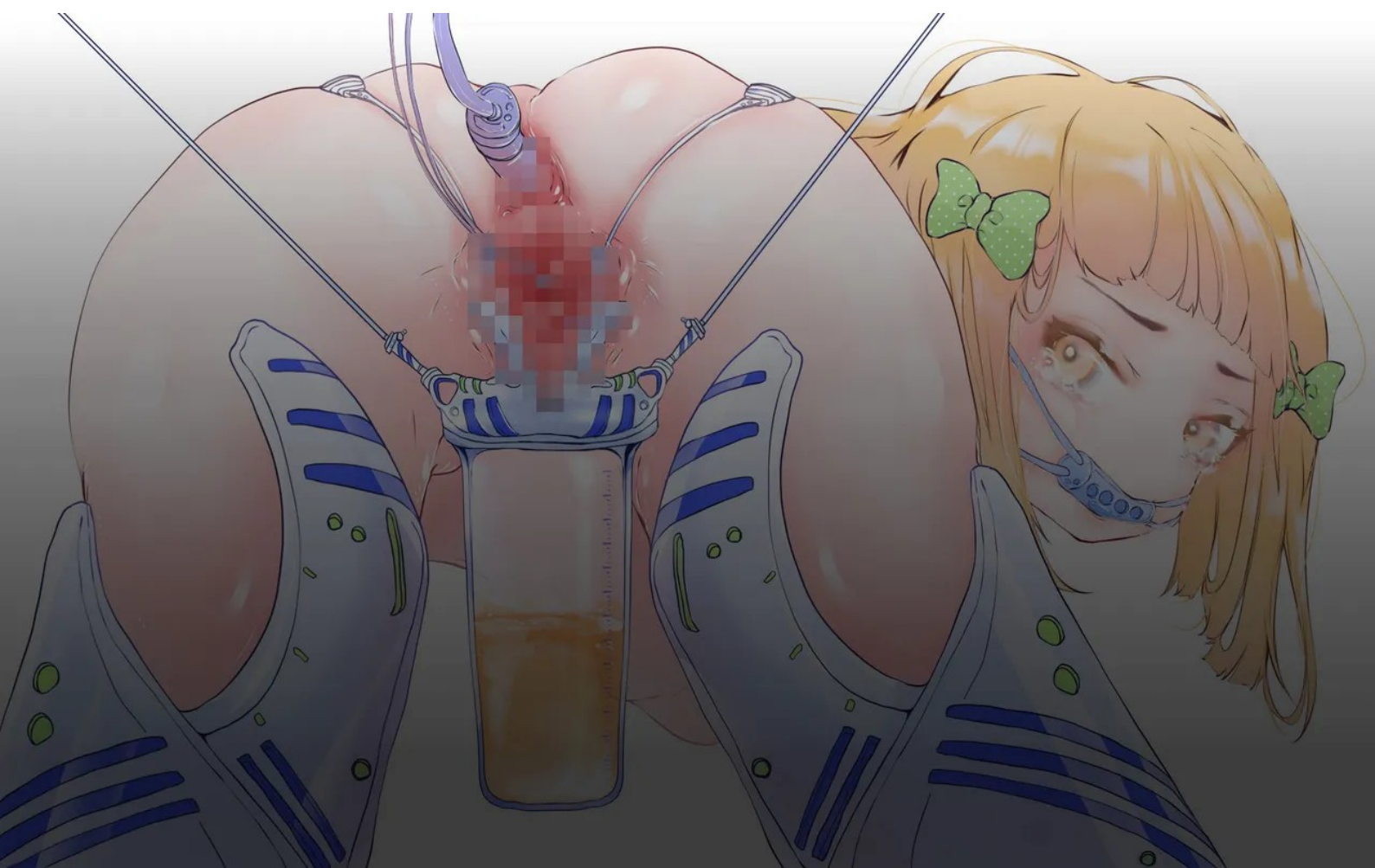


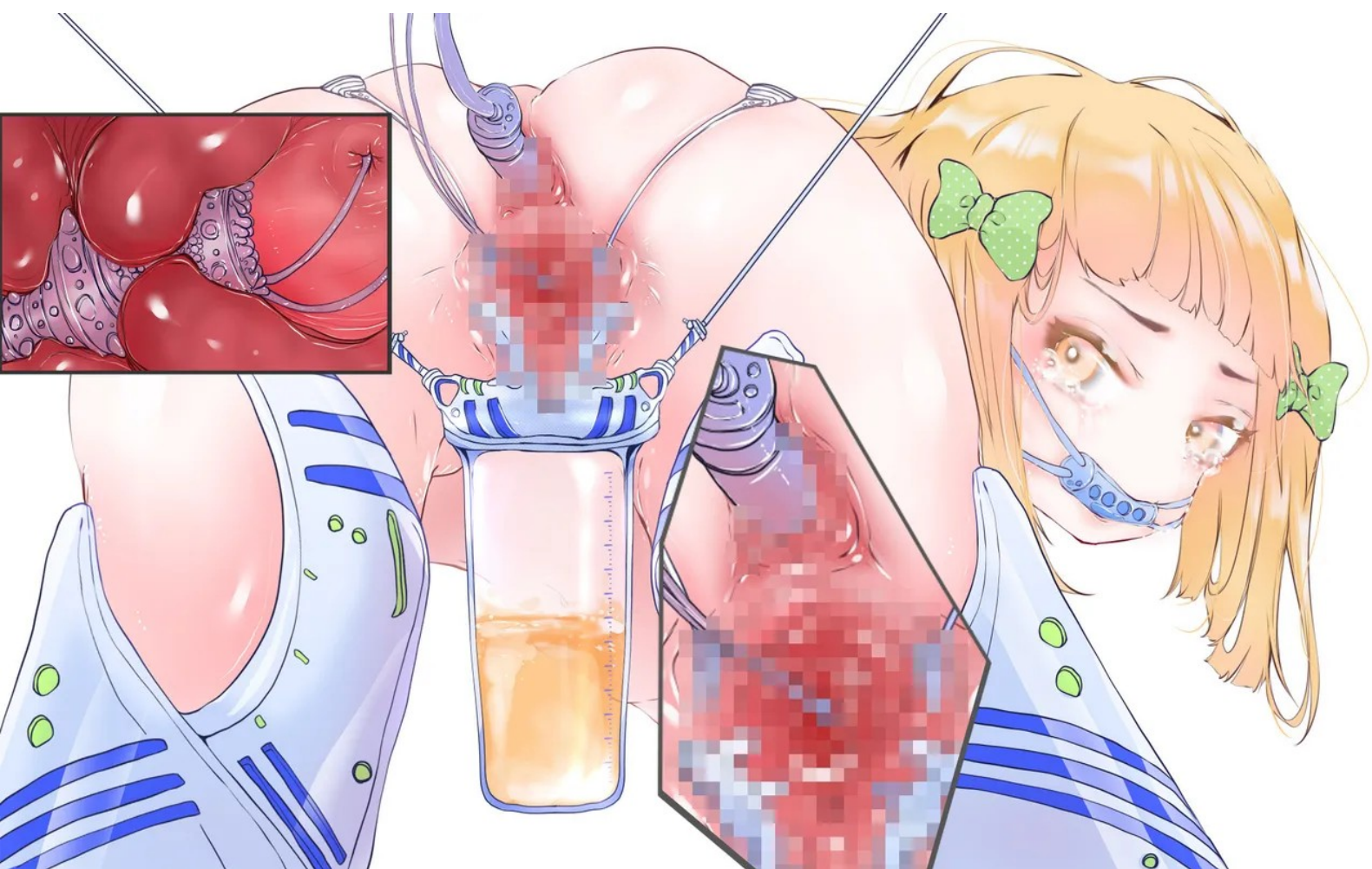


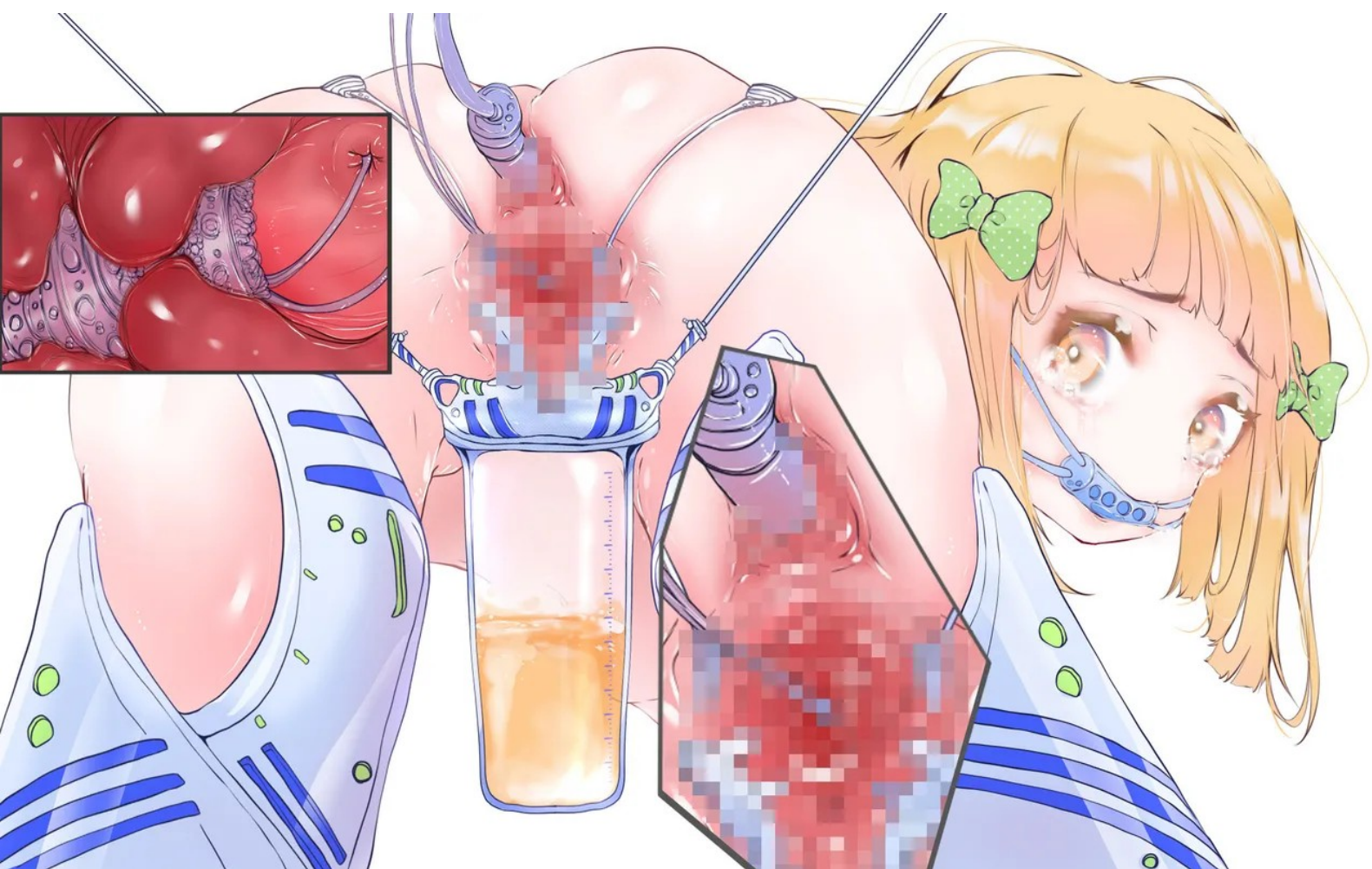


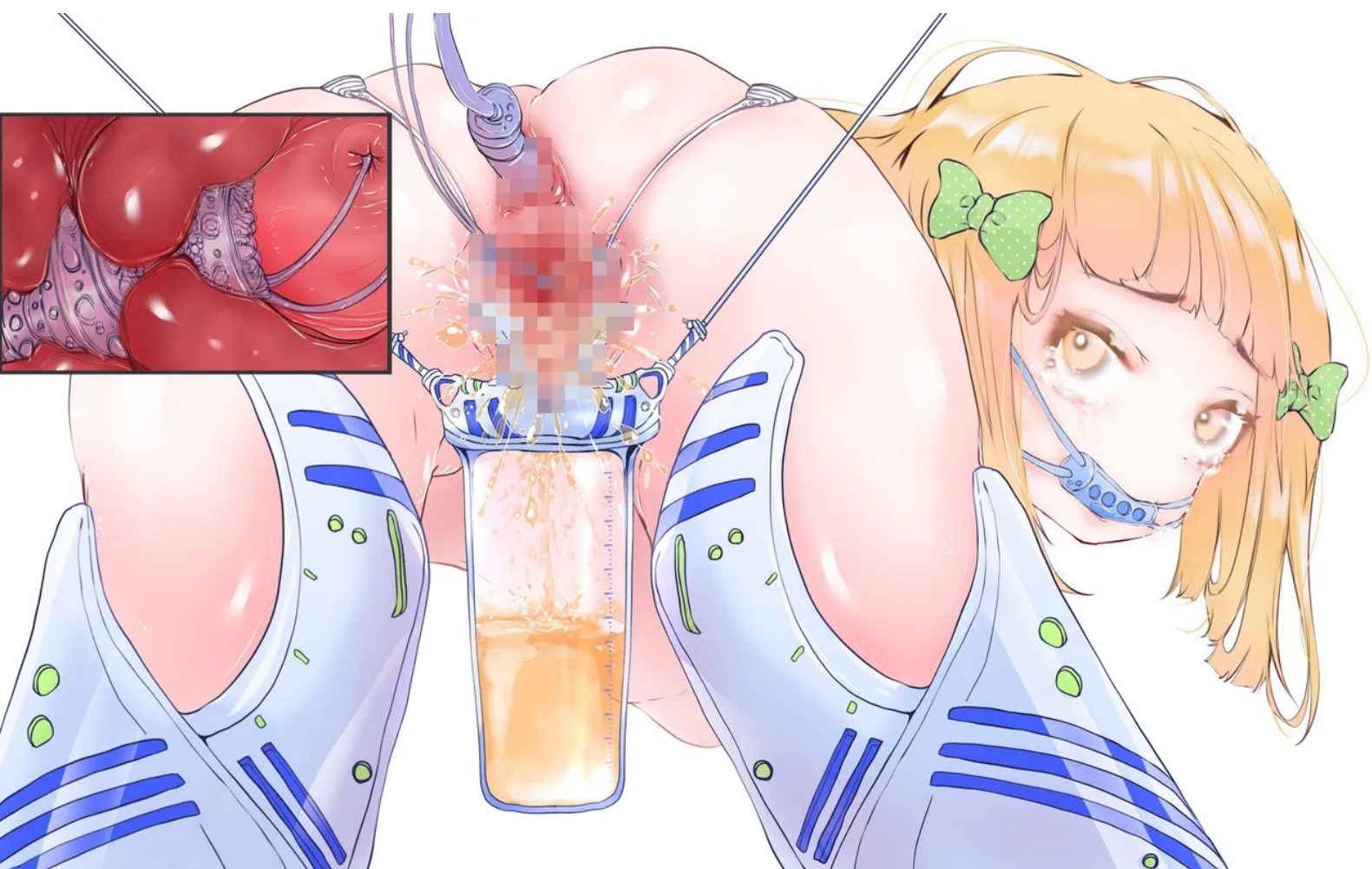


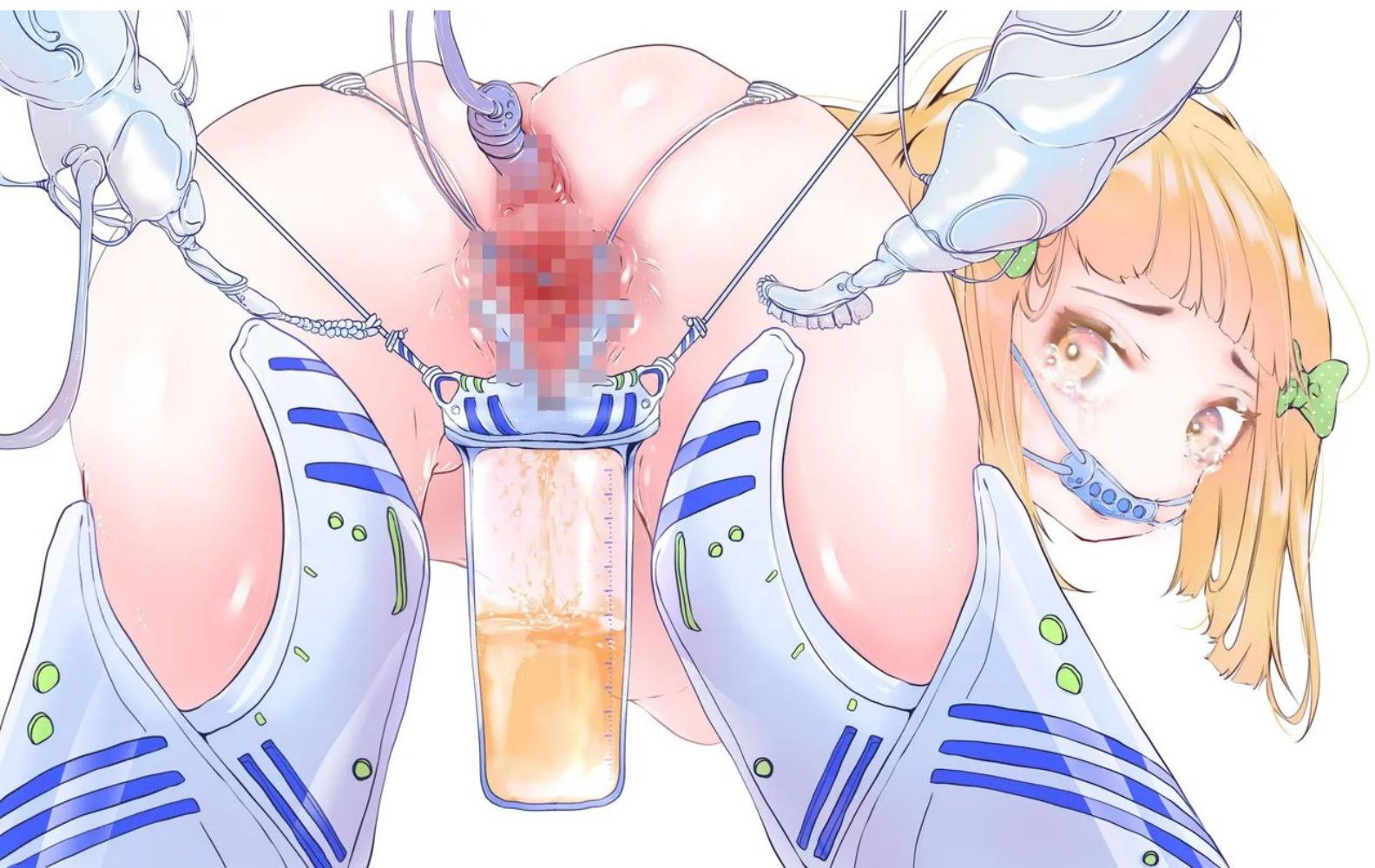


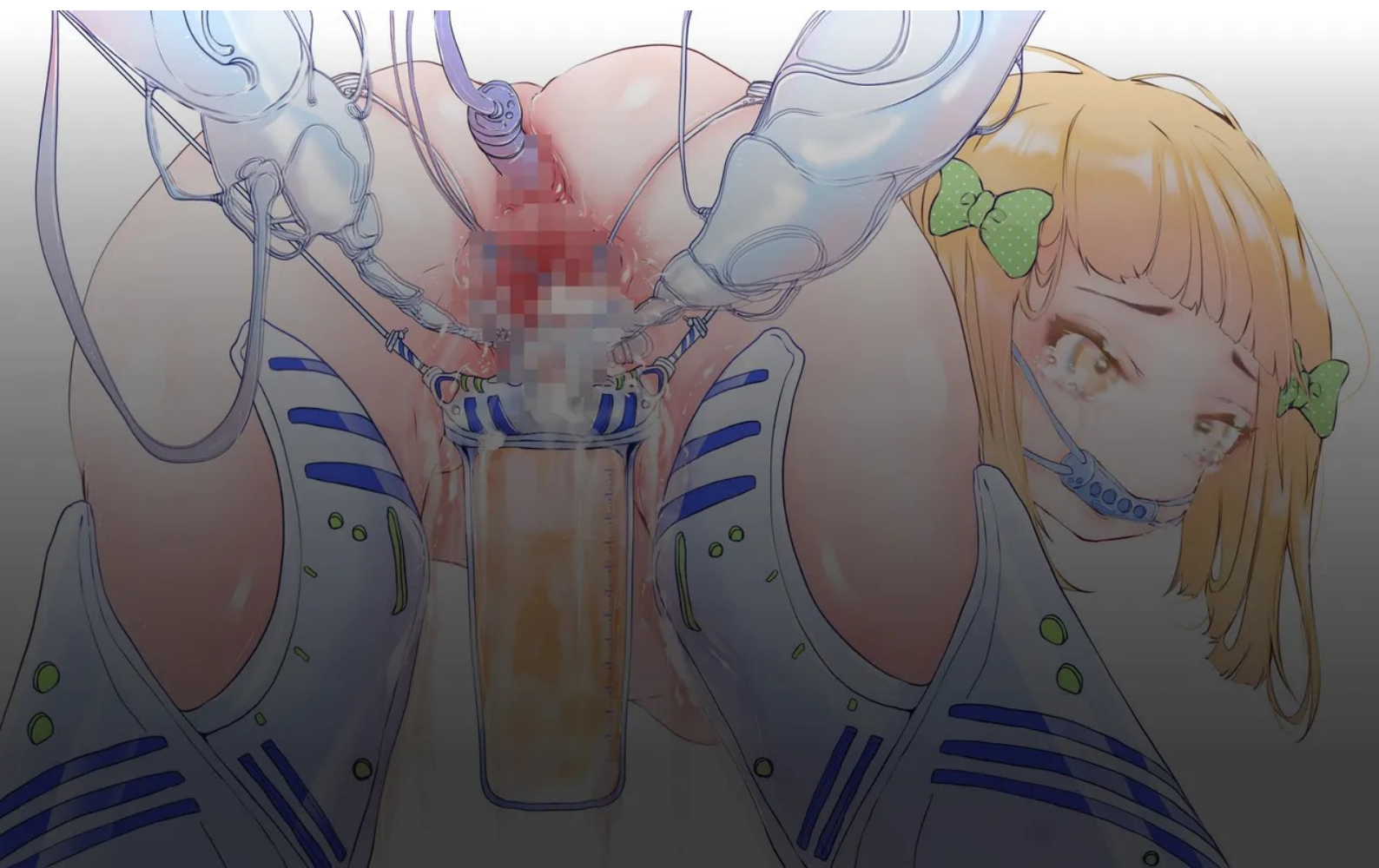


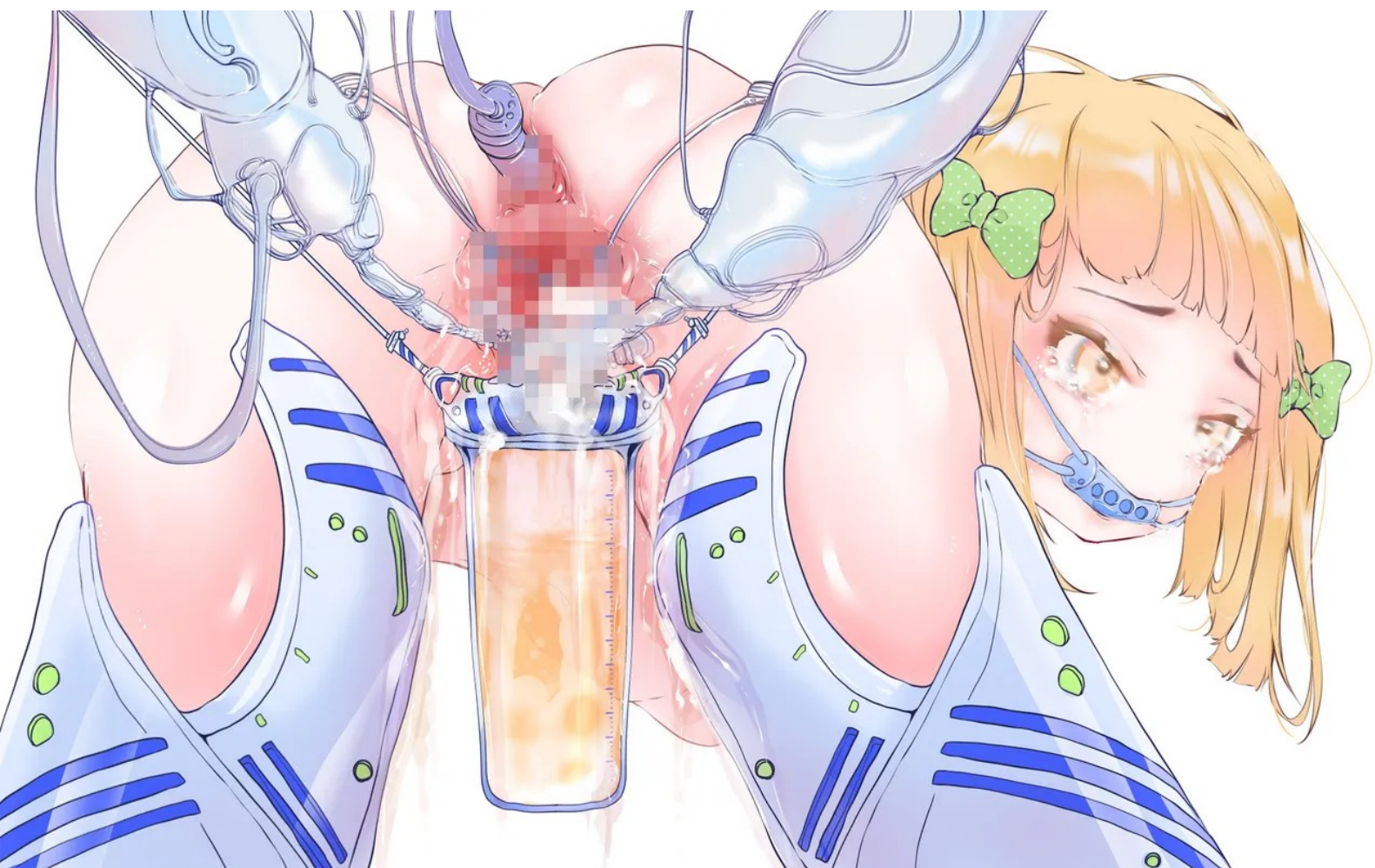


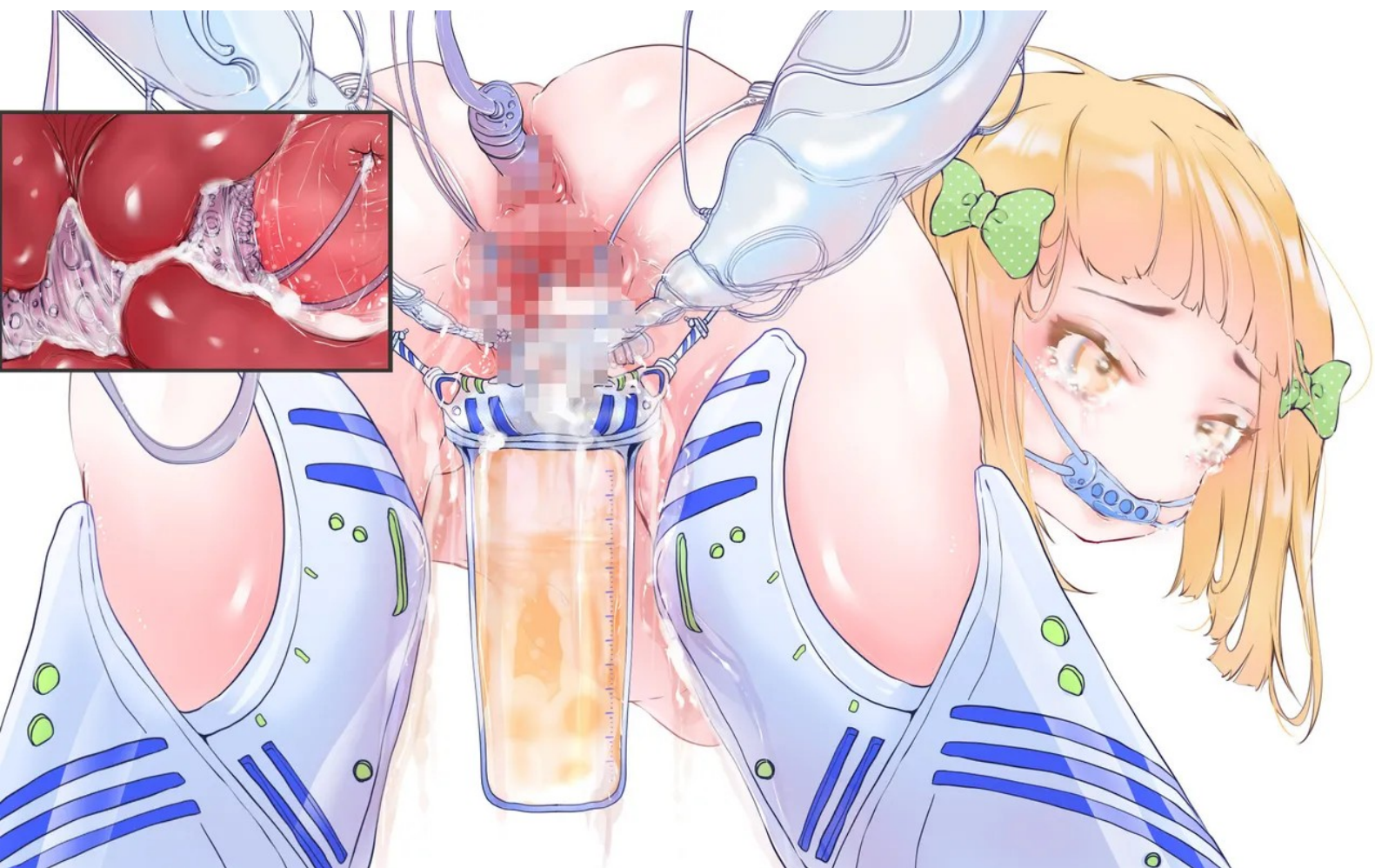


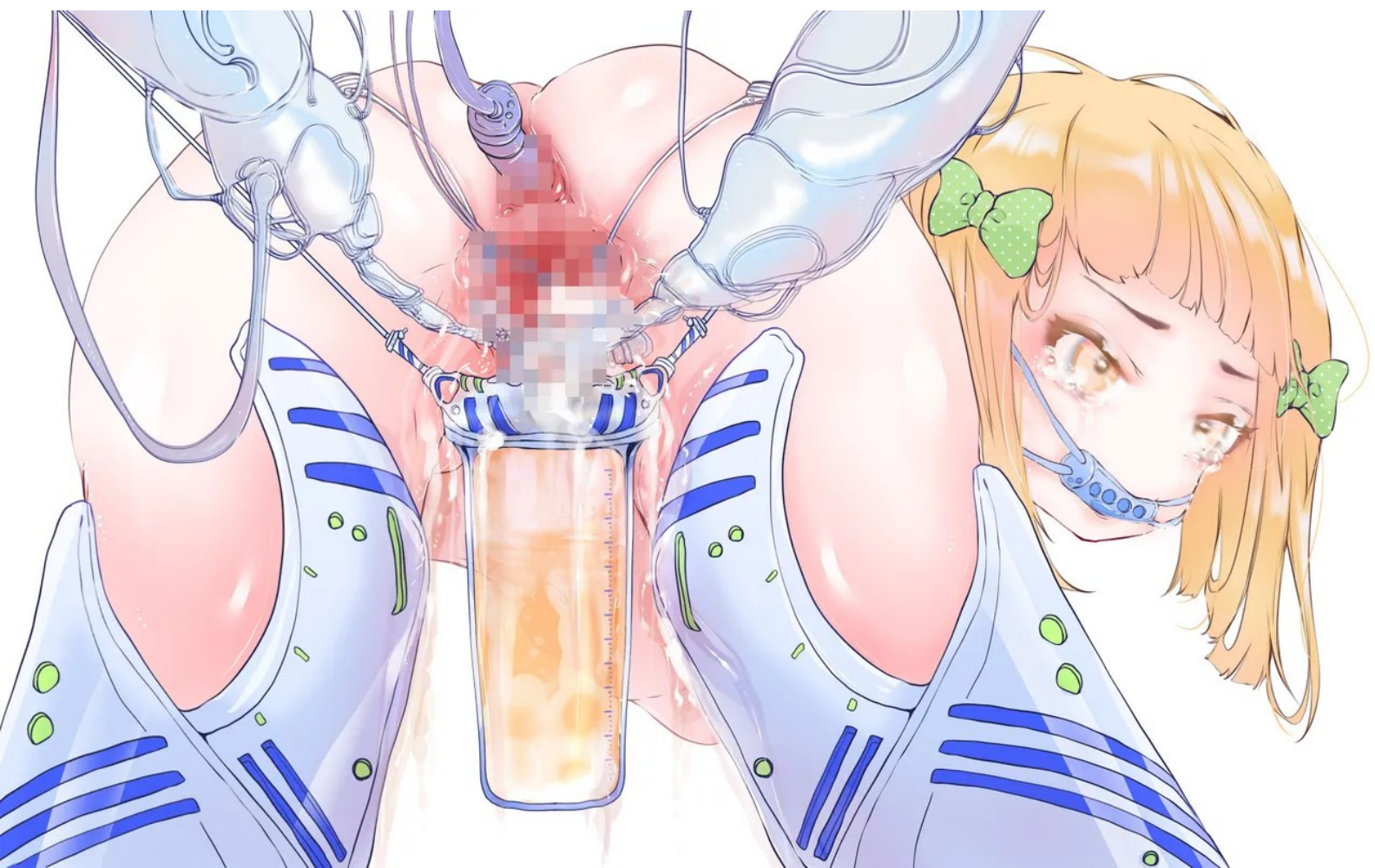


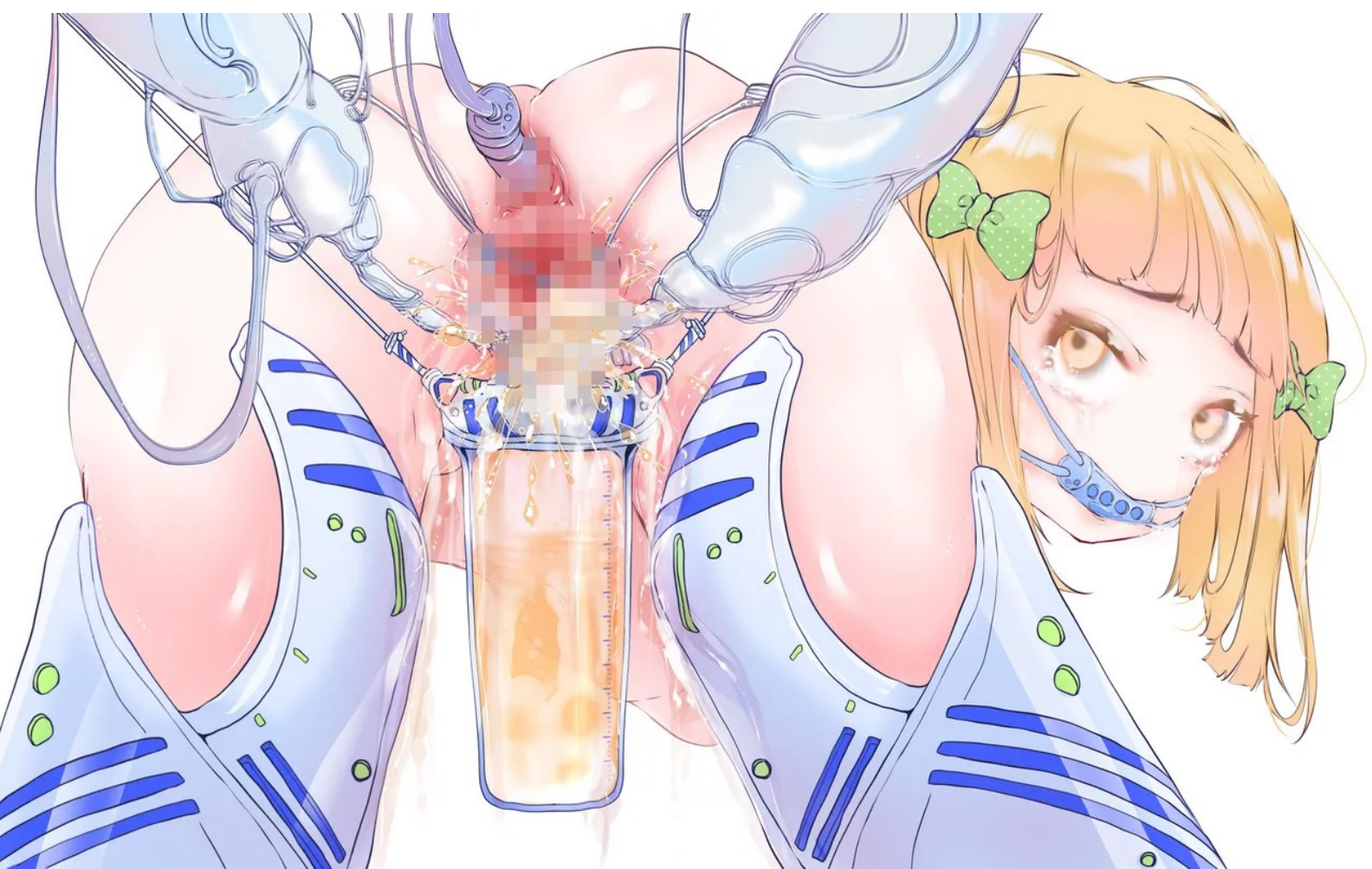


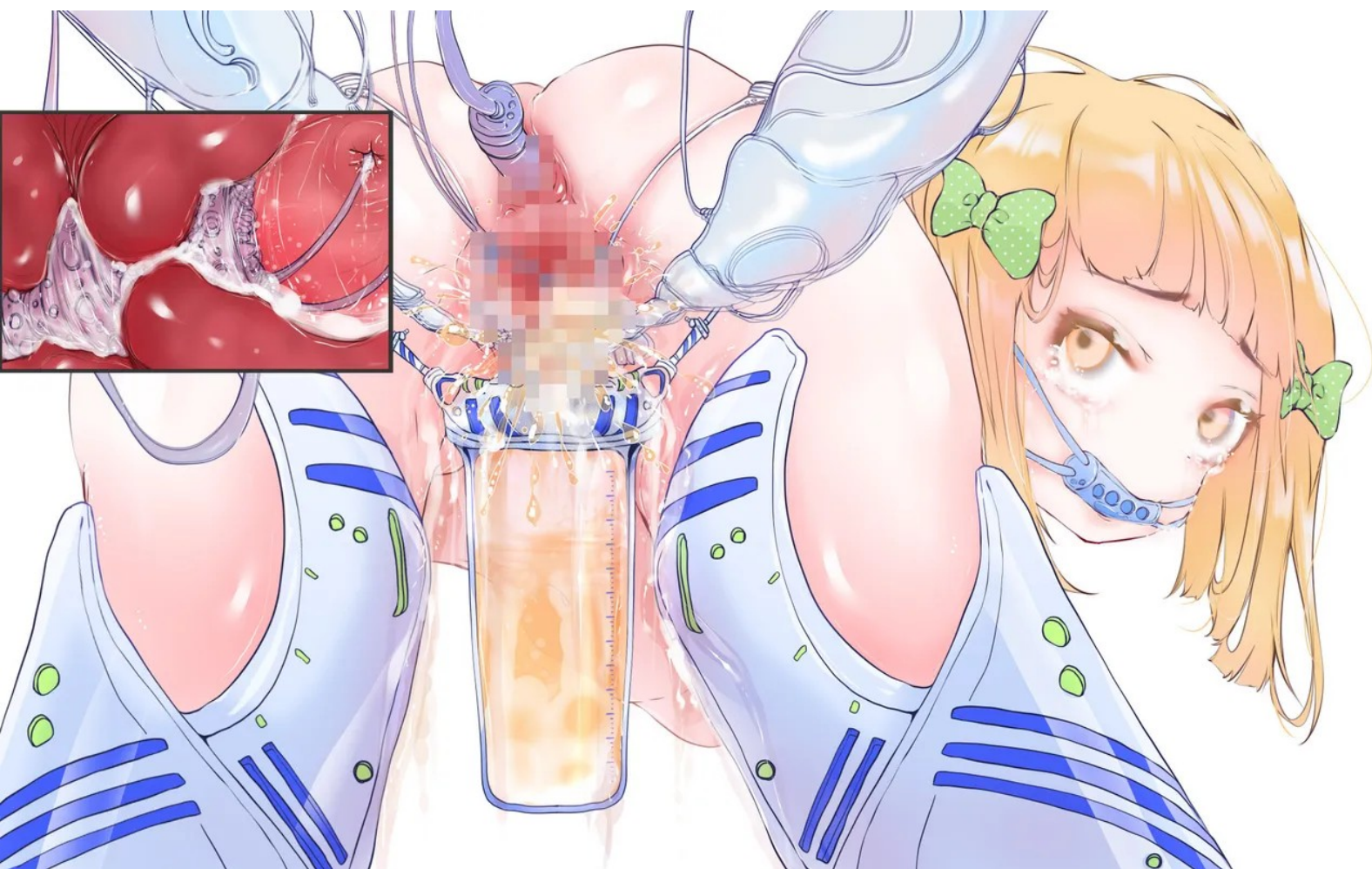


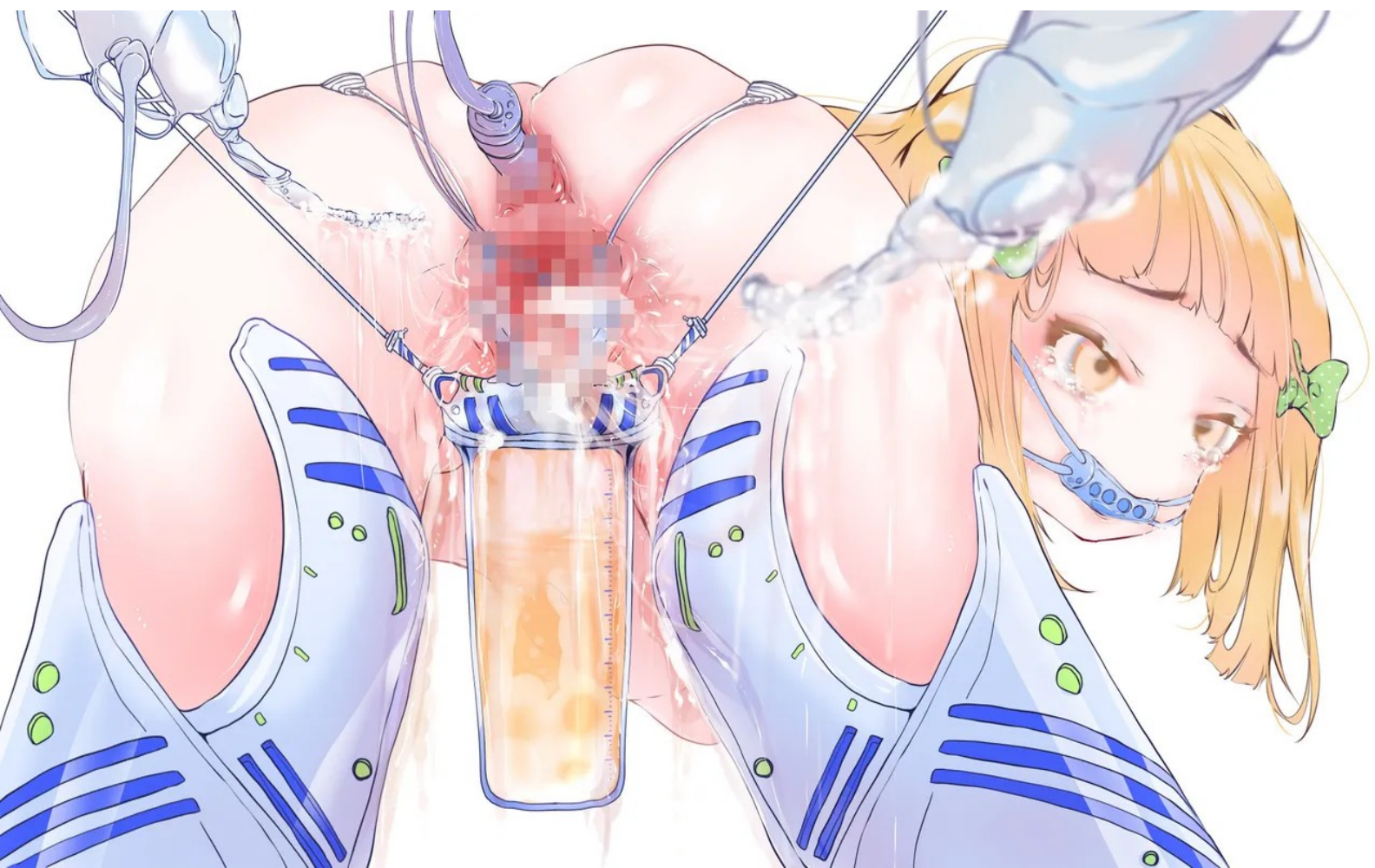


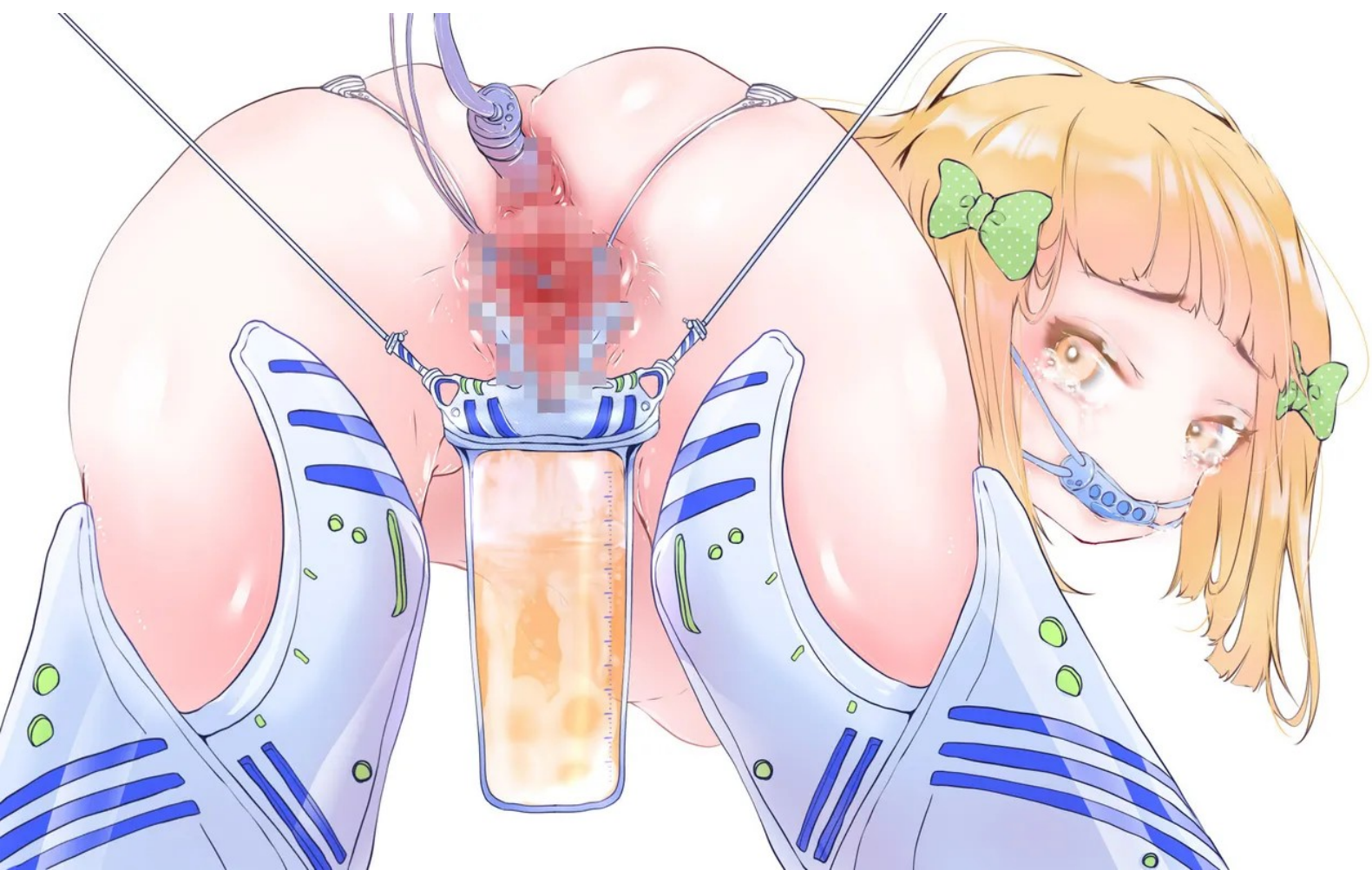


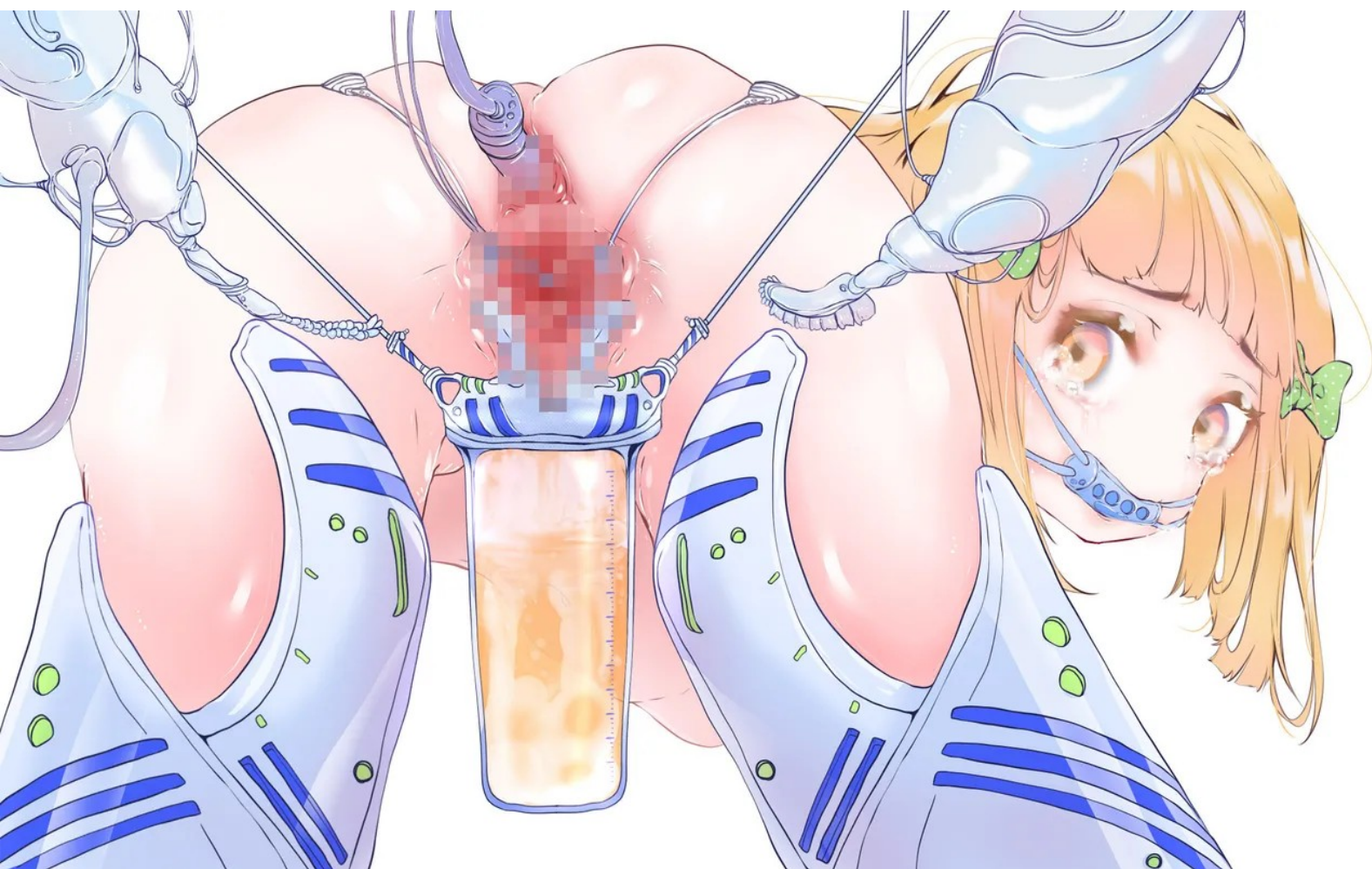


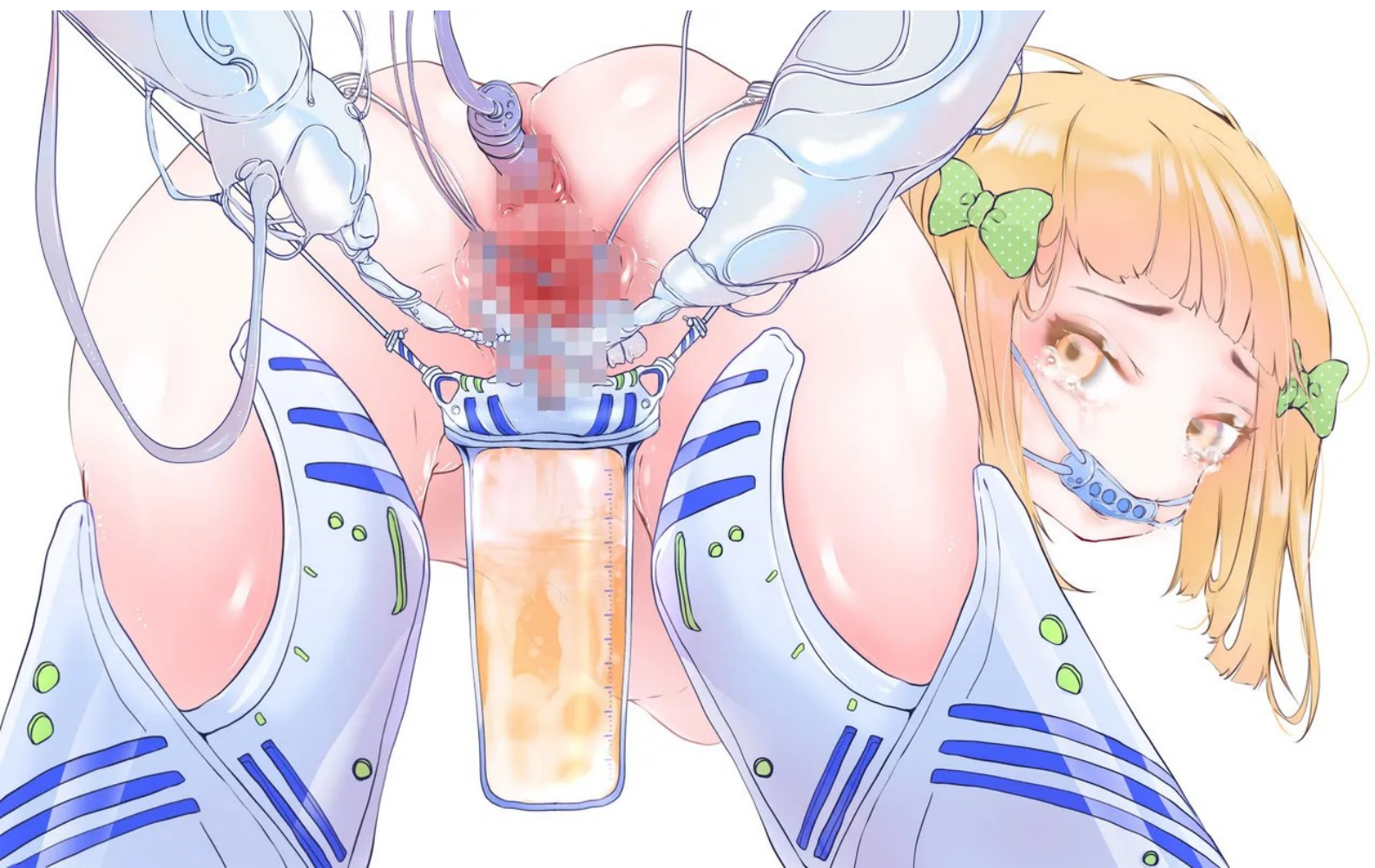


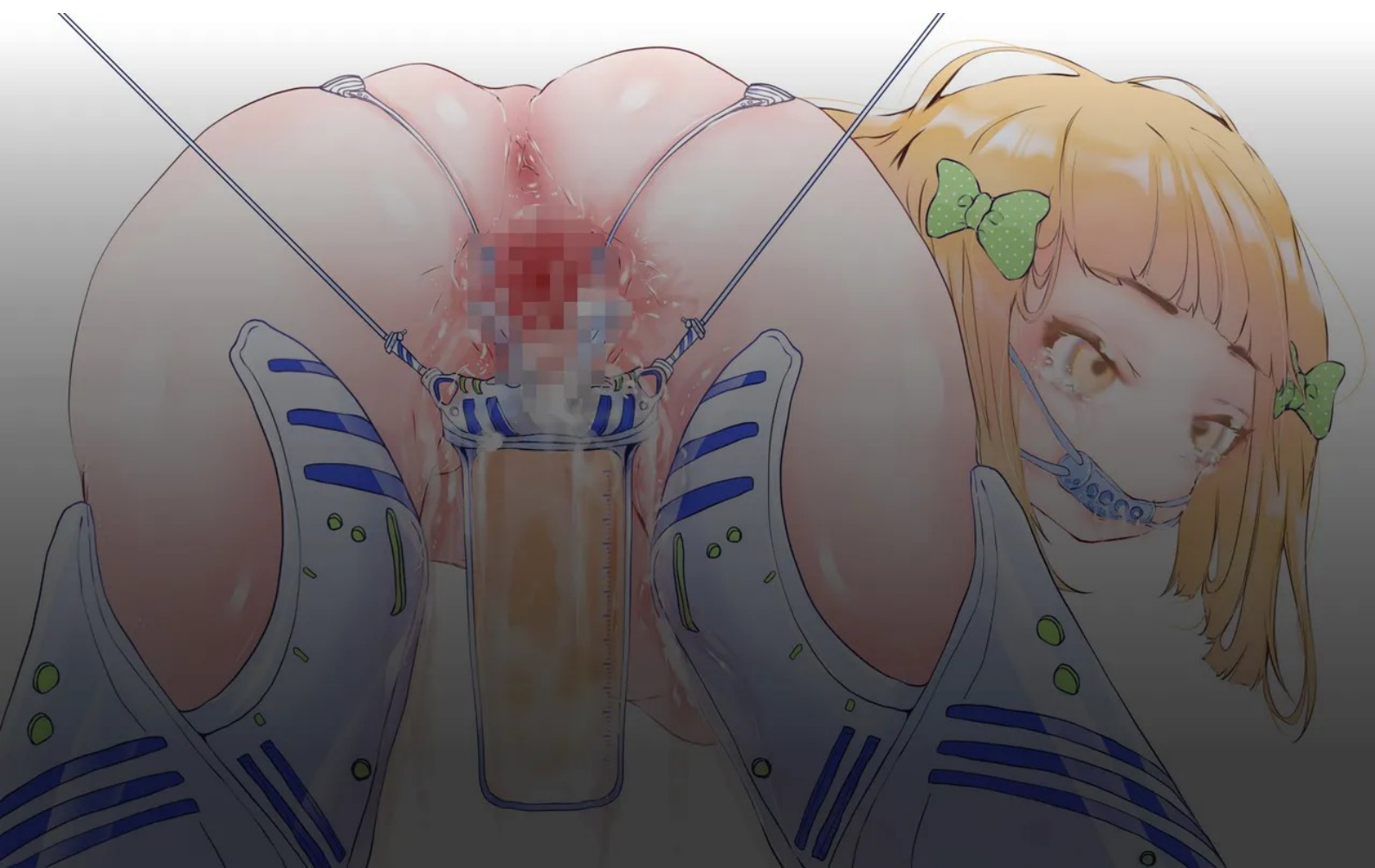


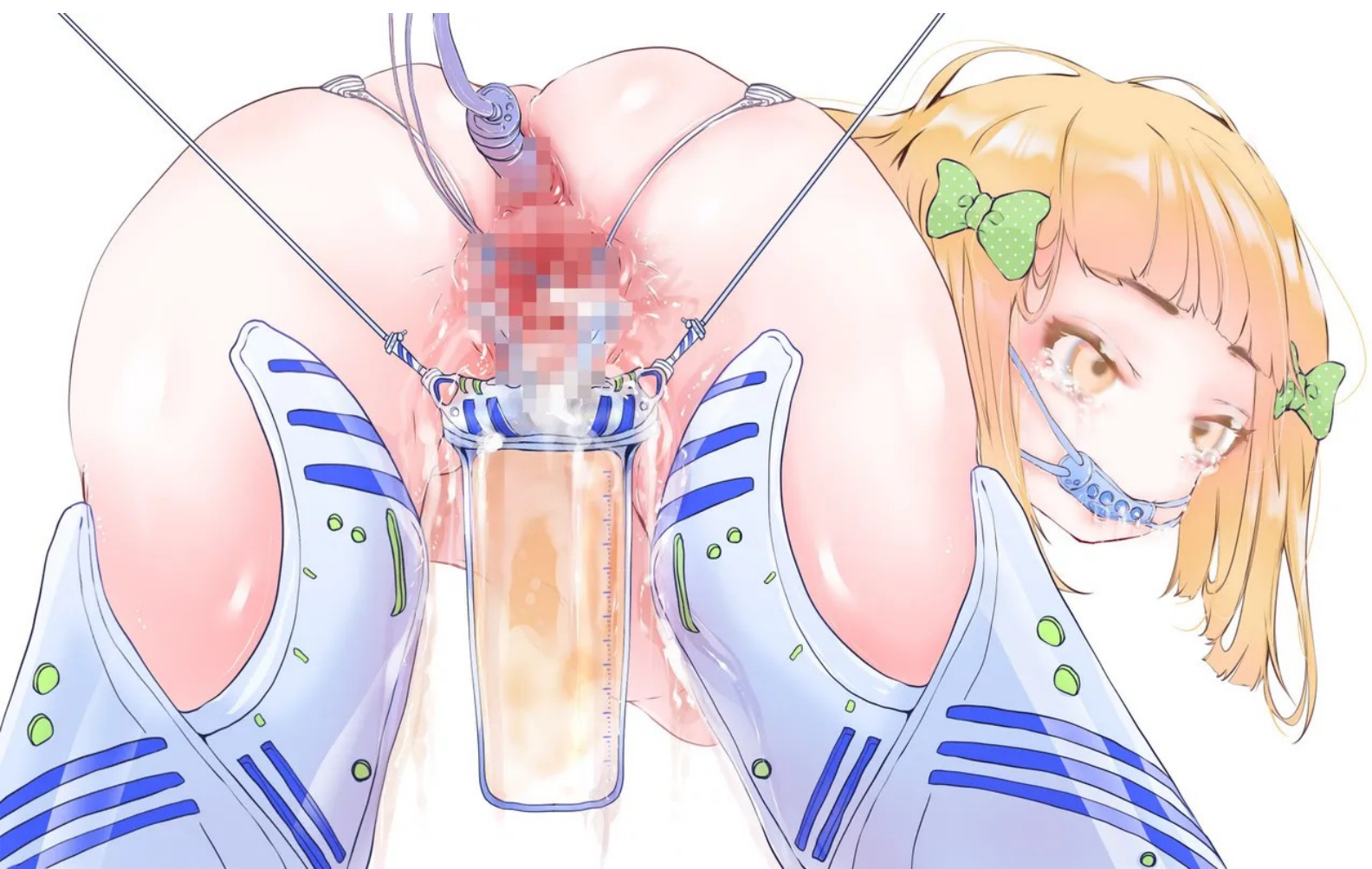


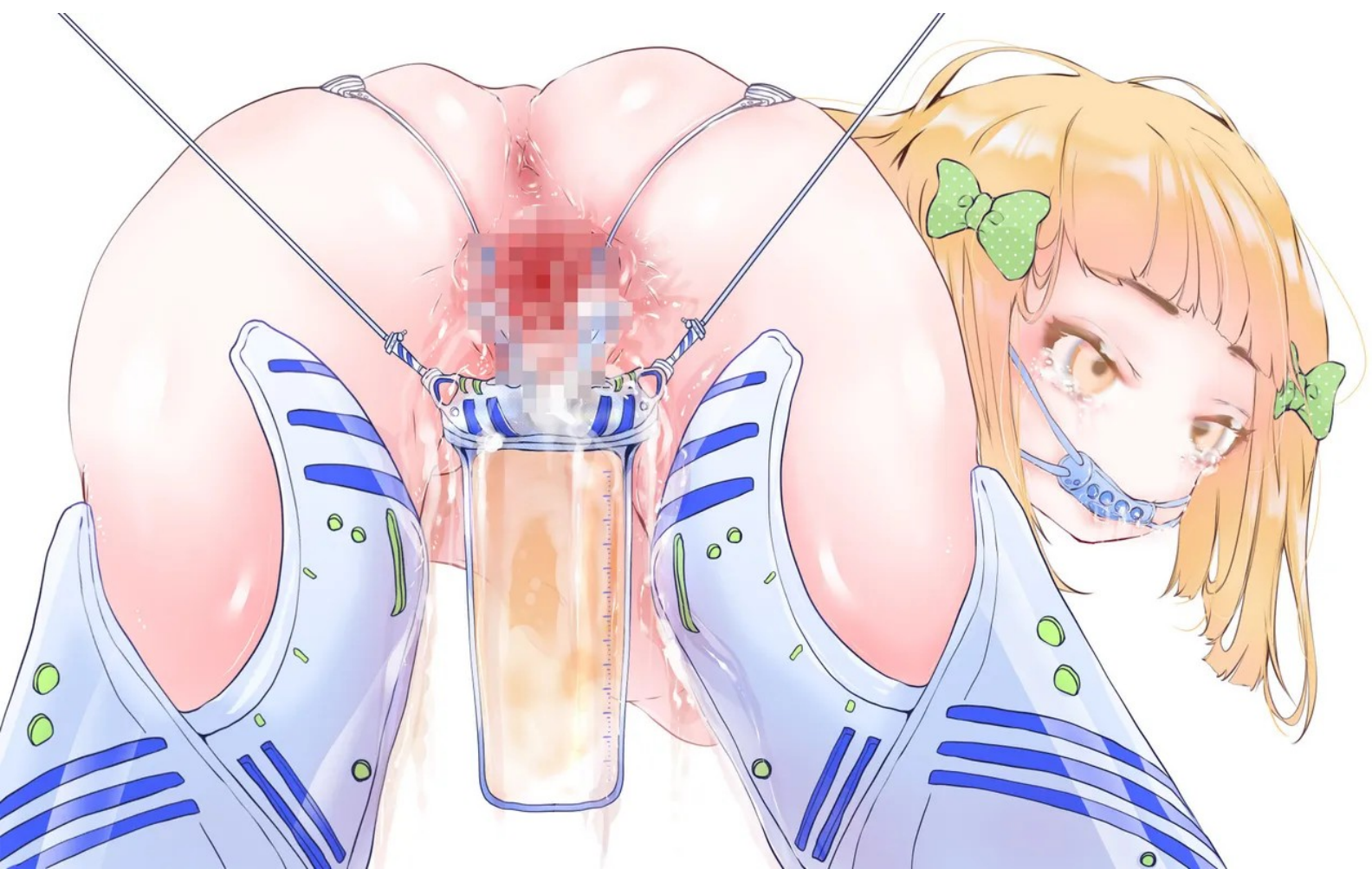


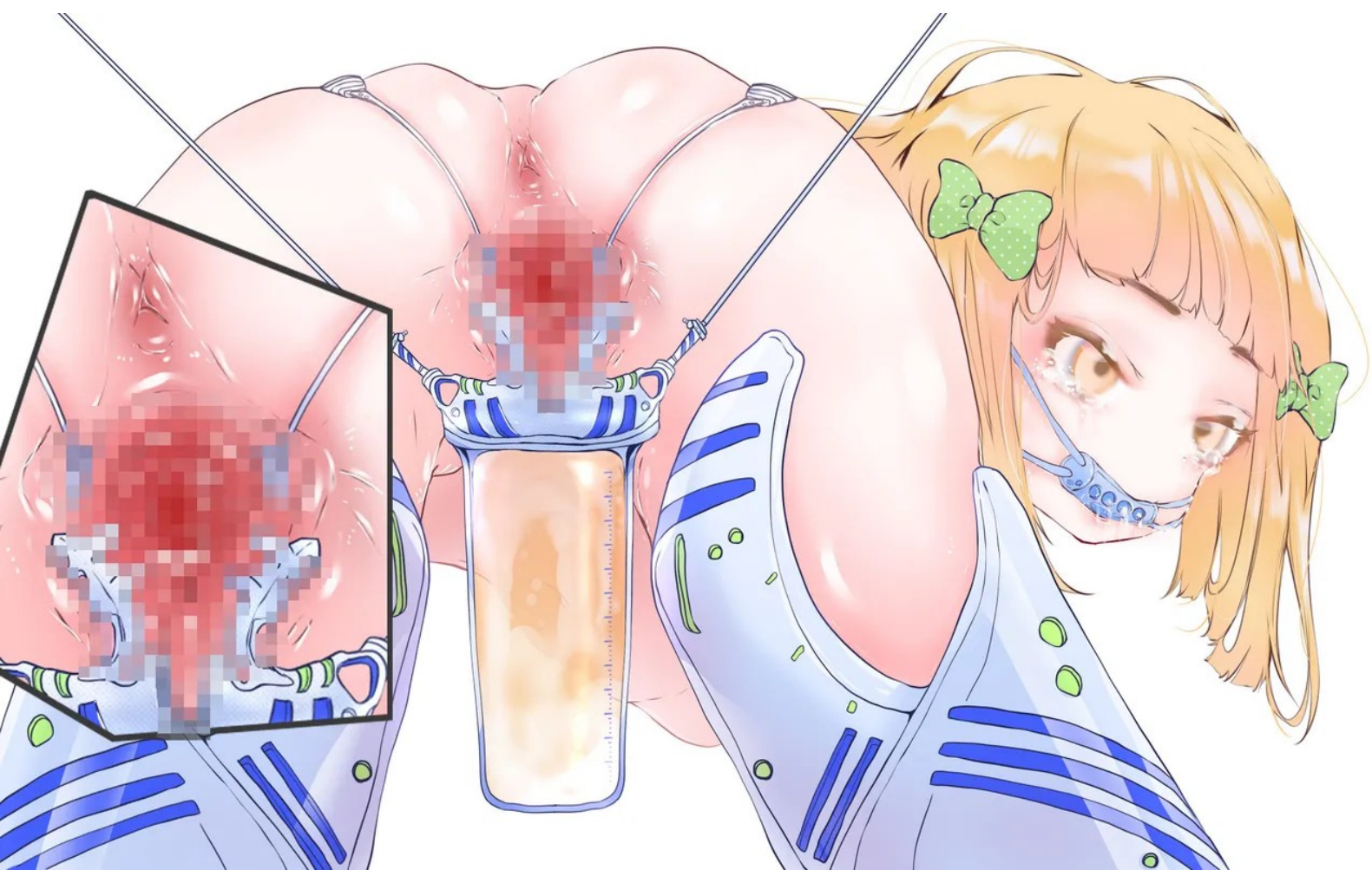


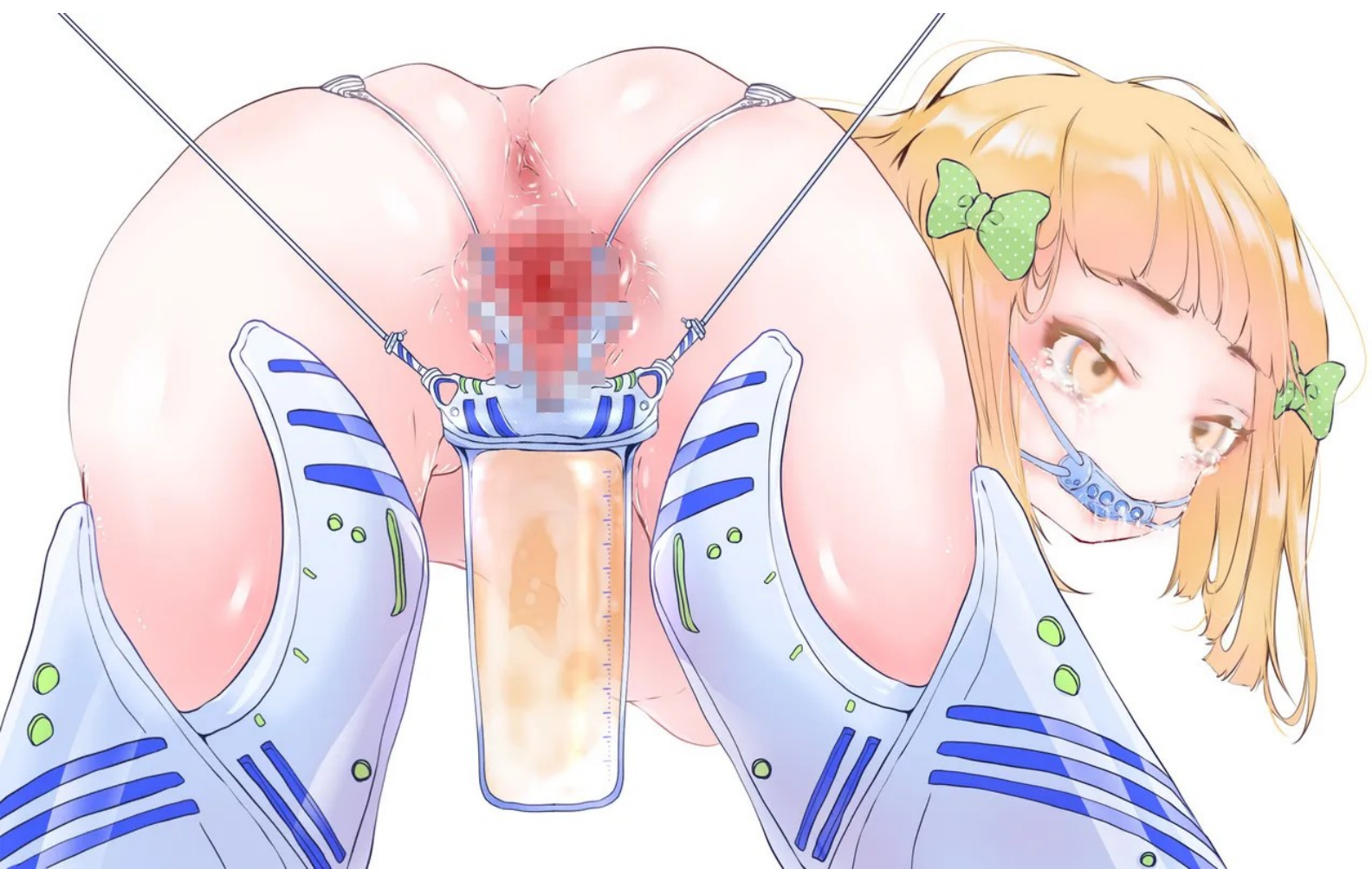


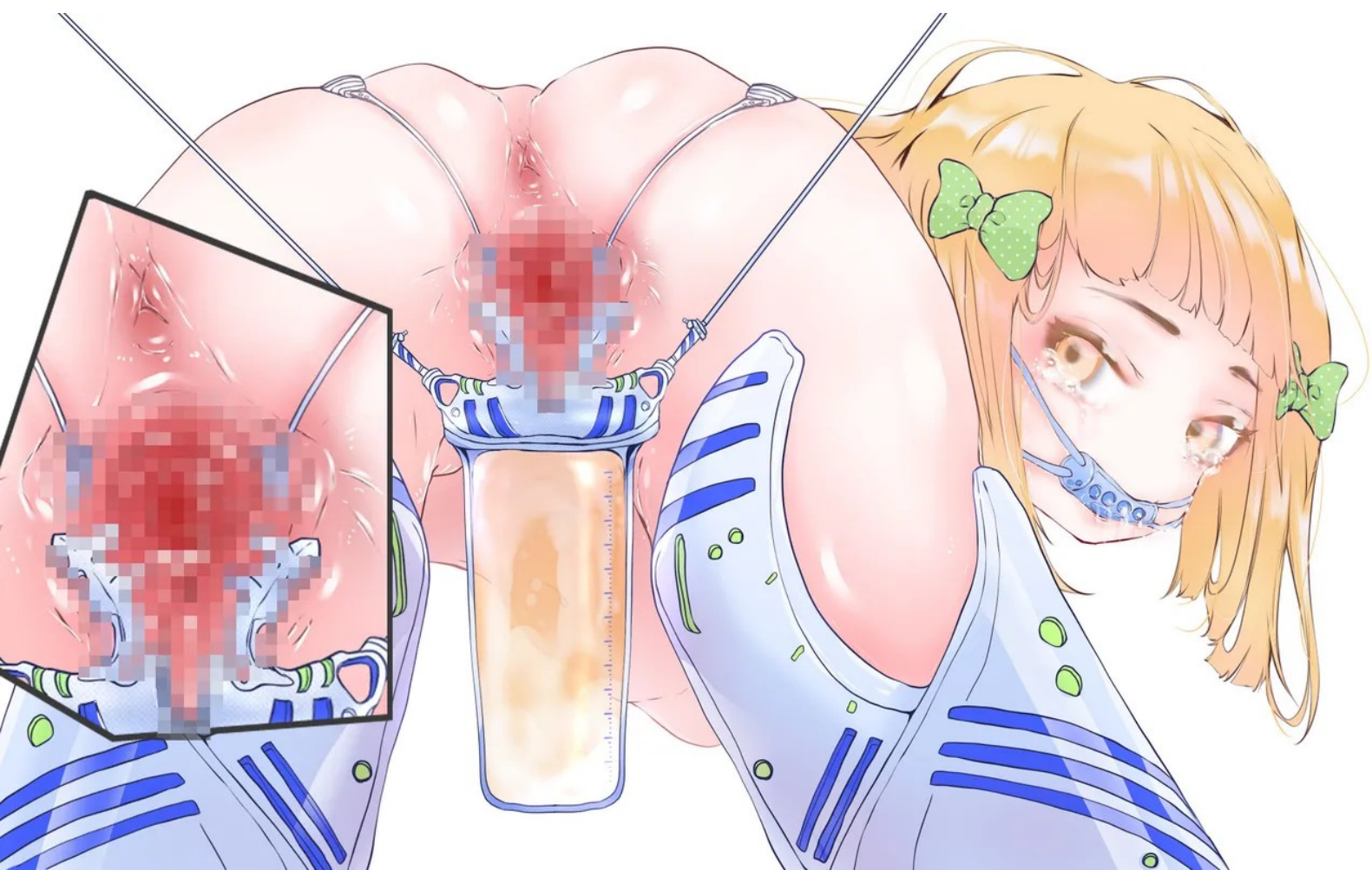


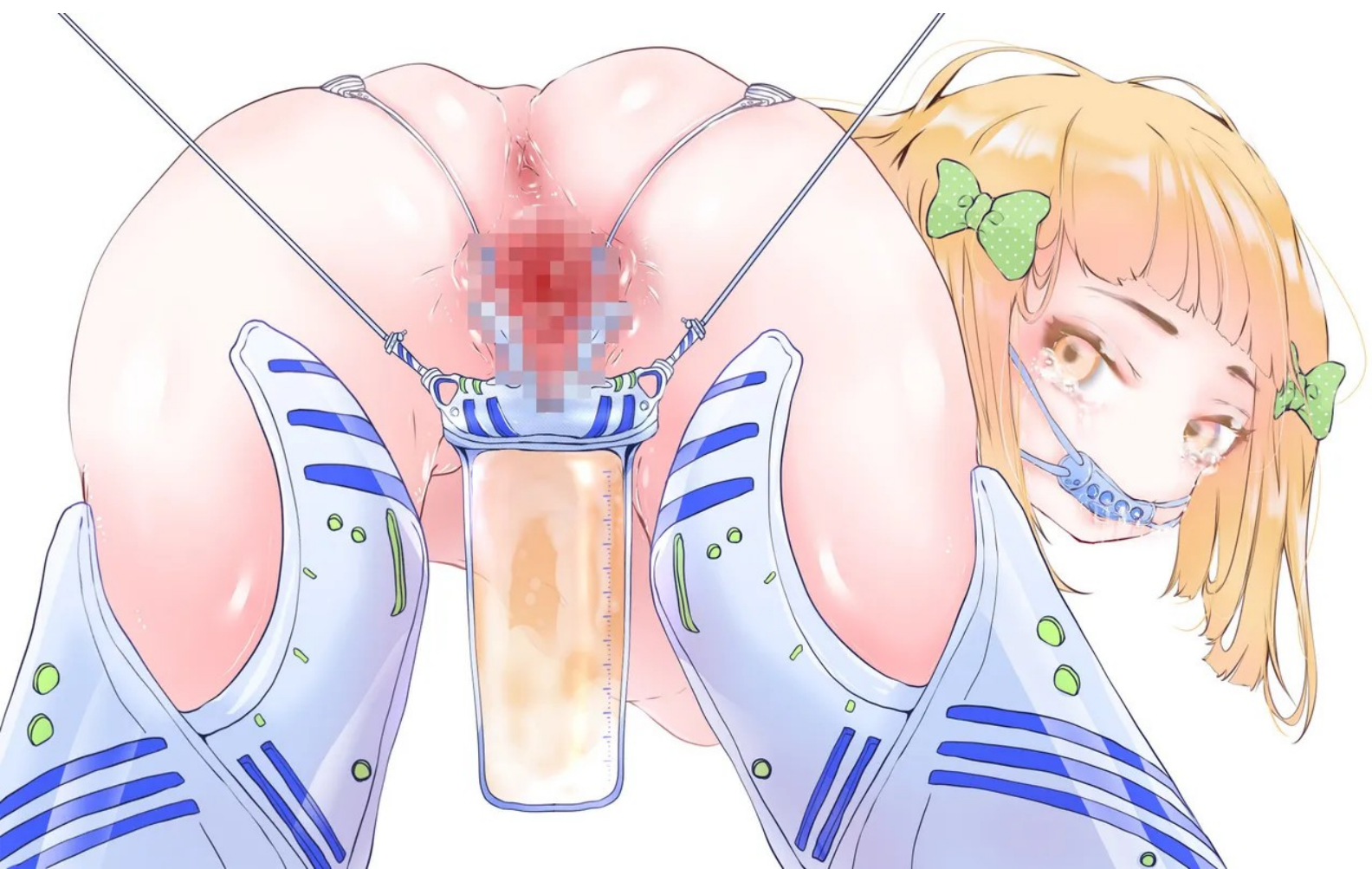


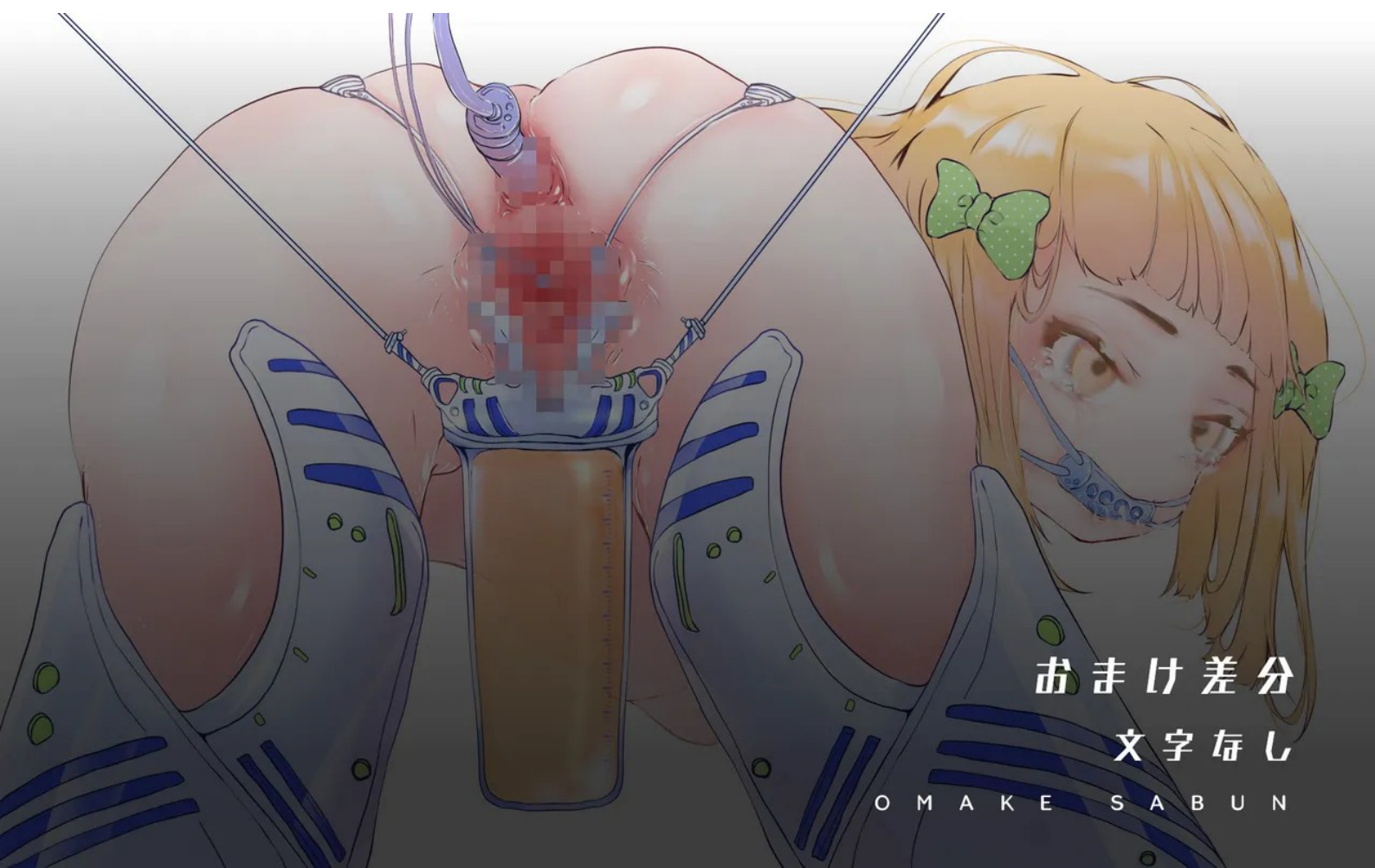












おまけ差分

文字版し

O M A K E S A B U N

